

モノトシテ五年ノ時効期間ヲ經過シ消滅ニ歸シタル以上ハ甲ハ之ト同時ニ全然乙トノ連帶關係ヨリ離脱シタルモノナレハ縱令乙ノ債務ニシテ民法上時効ニ關スル規定ノ適用ナキ結果尙ホ殘存スルモノアリトモ其部分ニ付キ甲ヲ連帶債務者トシテ責任ヲ負擔セシムルコトヲ得サルモノトス

一四五

○甲乙共同シテ負擔シタル連帶債務ノ因テ生シタル行爲カ甲ノ爲メニ商行爲タルモ乙ノ爲メニハ然ラサル場合ニ於ケル時効ニ付テハ甲ニ對シテハ商法ノ規定ヲ適用シ乙ニ對シテハ民法ノ規定ヲ適用スヘキモノトス從テ甲ニ對シ時効完成シ乙ニ對シ未タ完成セサルトキハ乙ハ民法第四百二十九條ニ依リ單ニ甲ノ負擔部分ニ付テノミ其義務ヲ免ルルモノトス

五

五

第四百四十條

(參照)

第四百四十條

連帶義務者ノ一人カ時効ニ罹リタル債務ノ追認ヲ爲スモ他ノ連帶義務者ニ其效果ヲ及ボサス

二九

第四百四十二條

○二人ニテ連帶債務ヲ負擔シタル場合ニ於テ孰レモ其負擔ニ因リテ利益スル所ナキトキハ辨濟ヲ爲シタル債務者ハ他ノ一人ニ對シテ半額ヲ求

八

三〇

償シ得ルモノトス

三九

一〇七九

○連帶債務者六名アル場合ニ於テ其一人カ債權者ヨリ債權ノ讓渡ヲ受ケタルニ因リ債權者ニ代位シテ他ノ債務者各自ニ對シ行使シ得ヘキ權利ノ範圍ハ全債權額ノ六分ノ一ナリトス

三

二七三

○連帶債務者間ニ於ケル各自ノ負擔部分ハ其債務ニ付キ各自ノ受ケタル利益ノ割合ニ依リ定マルモ其割合ニ關係ナク特別ノ意思表示ヲ以テ各自負擔ノ割合ヲ定メタルトキハ該特約ニ從フヘク其受ケタル利益ノ割合分明ナラス且特約存セサル場合ニ於テハ各自平等ノ割合ヲ以テ定マルモノトス

五

一三三

○三名ノ者カ各自平等ノ割合ヲ以テ連帶債務ヲ負擔シタルトキハ各自ノ負擔部分ハ三分ノ一ナリト雖モ債務額ノ全部ニ通シテ存スルモノナレハ債務額ノ一部中ニモ各自ノ負擔部分ハ存スルモノトス

六

八六三

○如上ノ場合ニ於テ其一名カ債務額ノ一部ヲ辨濟シテ共同ノ免責ヲ得タルトキハ民法第四百四十二條ニ依リ他ノ二名ノ各自負擔部分ニ付キ求償ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

六

八六三

○出捐トハ廣ク財産的犧牲ヲ供スルコトヲ謂フモノニシテ其現實ノ出費タルト將タ義務ノ負擔タルトヲ區別セサルモノトス

七

五三二

○辨濟者カ民法第四百四十二條第二項所定ノ法定利息ヲ請求スル權利ハ辨濟前債權者ヨリ請求ヲ受ケタルコトヲ他ノ債務者ニ通知シタルト否トニ關係ナキモノトス

○連帶債務者タル甲及ヒ乙ニ於テ辨濟スヘキ旨ノ確定判決アリタルニ拘ハラズ何人モ任意ニ辨濟ヲ爲ササリシ結果強制執行上甲ニ於テ支拂ヲ爲スニ至リタル強制執行費用ハ民法第四百四十二條第二項ノ避クルコトヲ得サリシ費用若クハ損害ナリトス

〔第四百四十三條〕

○民法第四百四十三條ハ數人カ債權者ニ對シテ連帶債務ヲ負擔シタル場合ニ適用スヘキ規定ニシテ一人ハ債權者ニ對シテ債務ヲ負擔シ他ハ之ニ對シ債務ヲ負擔セサル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

〔第四百四十四條〕

○連帶債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シタル場合ニハ其内部關係ニ於テ全然同一ノ地位ニ在ル他ノ債務者ハ無資力者ノ不償還部分ニ付キ分擔ノ責ニ任セサルヘカラス而シテ其間別段ノ意思表示ナケレハ雙方平等ノ割合ヲ以テ之ヲ負擔スヘキハ當然ナリ

○民法第四百四十四條ハ連帶債務者中ニ償還ヲ爲ス資力ナキ者ヲ生スル

四

一三三

五

一七六

三五

四

六九

三九

七九二

トキハ其償還スヘキ部分ヲ他ノ資力アル者ノ間ニ分割シ負擔部分多キ者ヲシテ多ク分擔シ其少キ者ヲシテ少ク分擔セシメ又負擔部分相等シキ者若クハ共ニ負擔部分ナキ者ノ間ニ於テハ之ヲ平等ニ分擔セシムルノ法意ナリ

四三

一四九

○民法第四百四十四條ハ求償者及ヒ他ノ資力アル者ニ全ク負擔部分ナキ場合ニ於テモ亦公平ノ觀念ニ基キ此等ノ者ヲシテ無資力者ノ償還スルコト能ハサル部分ヲ平等ニ分擔セシムルノ法意ナリト解スヘキモノトス

三

七五二

〔第四百四十五條〕

○民法第四百四十五條ハ連帶ノ免除ヲ得タル者ト無資力ト爲リタル者トノ外尙ホ債務ヲ辨濟シテ求償權ヲ有スル者若クハ未タ之ヲ辨濟セサルモ其資力アル者ト少クモ三名以上ノ連帶債務者アリタル場合ニ在ラサレハ之ヲ適用スルコトヲ得ス

三七

七〇

第四款 保證債務

○主タル債務者ト債權者カ保證人ノ承諾ナクシテ貸借證書ノ成立月日及ヒ年賦期限ヲ改訂スルモ義務ノ更改ヲ爲ササル場合ニ於テハ必スシモ債權者カ其保證契約上ノ權利ヲ拋棄シ若クハ喪失シタルモノト看做ス

ヘキモノニ非ス

○保證債務ハ主タル債務ヲ須テ存立シ之ト共ニ消滅スヘキモノナルモ主タル債務ト同一ナルニ非サルヲ以テ保證人カ其債務ノ存立ヲ認メタル行爲ハ當然主タル債務者ニ其效力ヲ及ホスヘキモノト謂フヘカラス

○抵當アル債務ノ保證ハ抵當ト其成立ヲ異ニシ抵當權ト共ニ消滅スヘキモノニ非ス唯抵當權ノ消滅カ債權者ノ懈怠ニ因ルトキハ保證人ハ債權者カ其消滅ノ爲メ辨濟ヲ受ケ能ハサルニ至リタル限度ニ於テ其責ヲ免ルルモノトス

○身元引受契約ニ付テハ法令ニ於テ特別ノ效力ヲ付與シ若クハ一定ノ範圍ヲ指示シタル規定ヲケレハ一ニ表意者ノ意思解釋ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

(聯) ○主債務ニ付キ辨濟期限ヲ延長スルハ債務消滅ノ事由ニ非ス又新債務ヲ創設スルモノニモ非サレハ縱令保證人ニ於テ自ラ之ニ干與セサルモ其效力ハ當然保證債務ニ及フモノトス

(同主旨)

主タル債務ニ付キ辨濟期限ヲ延長スルハ債務ヲ消滅セシムル事由ニ非ス又別ニ新債務ヲ創設スルモノニモ非サレハ縱令保證人ニ於テ自ラ之ニ干與セサルモ其效力ハ當然保證債務ニ及フ

ヘキコトハ民法施行前後ニ通スル法理ナリトス

(反對)

保證契約ノ後債務ノ辨濟期ニ付キ債權者カ保證人ノ承諾ナク主タル債務者ニ許與シタル期限ハ保證人ニ對抗スルヲ得ス

○主タル債務ノ利息カ利息制限法ニ依ル制限ニ超過スル場合ニ於テ保證債務者カ該制限内ノ利息ヲ保證契約ノ主觀的要素ト爲シタリトスルモ制限超過ノ部分ハ主タル債務ノ内容ヲ成スモノニ非サルヲ以テ保證契約ハ要素ニ錯誤アリト云フヲ得ス

○凡ソ權利義務ニ關スル證書ニ證人トシテ署名シタル場合ニ於テ普通之ヲ立會人ノ意味ニ解スヘキ慣習存セサルヲ以テ果シテ立會證人ヲ指スモノナルカ或ハ又保證人ヲ謂フモノナルカハ場合ニ依リ裁判所カ自由ナル心證ヲ以テ認定スヘキ事實問題ナリトス

(刑) ○身元保證契約ニ一定ノ期間アルトキト雖モ被使用者ノ背任行爲ニ因リ法律上解雇ノ原因發生シタルニ拘ハラズ使用者ニ於テ解雇スルコトナク依然之ヲ使用スル場合ノ如キハ身元保證人ハ自己ノ一方的意思表示ニ依リ將來ニ向テ保證契約ノ解除ヲ爲シ得ヘキモノトス

(刑) ○身元保證契約ニ期間ノ定ナキトキハ身元保證人ハ一方的意思表示ニ依

四〇 六六八

三四 一四六

元 一〇〇

二 三九六

四 一六六七

三 三六

三四 七〇

三七 一五九一

三元 一四六一

三七 一五九一

(刑)

- 前項ノ解約申入アリタルトキハ各場合ノ事情ニ從ヒ相當ノ期間ヲ經過シタル時期ヲ以テ解約ノ效力ヲ生スルモノトス
- 保證人ニ於テ時効ヲ援用スル以上縱令主タル債務者カ他ノ訴訟ニ於テ之ヲ援用セサルモ債務ハ時効ノ完成シタル時消滅スヘキヲ以テ保證人ハ之ニ因リテ其義務ヲ免ルヘキモノトス
- 主タル債務者カ爲シタル時効ノ利益ノ拋棄ハ保證人ニ對シ其效力ヲ生スル旨ノ規定ナキノミナラス時効ノ利益ノ拋棄ハ即チ抗辯權ノ拋棄ニ外ナラサレハ拋棄者及ヒ其承繼人以外ノ者ニ對シテハ其效力ヲ生スルモノト爲スヲ得ス
- 第三者カ保證又ハ抵當ヲ以テ信用契約ニ因ル債務ヲ一定ノ限度内ニ於テ擔保シタルトキハ其限度以上ノ債務ニ付テハ責任ナシト雖モ苟モ其限度内ナル以上ハ該債務カ最初金員ノ授受ニ因リテ生シタルモノナルト又ハ最初授受セラレタル金員カ既ニ辨濟セラレ其後更ニ金員ヲ授受シタルニ因リ生シタルモノナルトヲ問ハス之ニ對シ擔保ノ責任アルモノトス
- 明治二十三年一月二十五日ニ成立シタル保證契約ニ付テハ其當時ノ法律タル明治八年布告第百二號金穀貸借請人證人辨償規則ヲ準用スヘク保證ニ關スル民法ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス
- 保證契約ハ保證人ト債權者トノ間ニ成立スルモノナレハ保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テモ其委託契約ノ無効ハ保證契約ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス
- 保證人カ債權者ニ對シ保證契約ヲ爲スニ至リタル緣由ニ錯誤アリタル場合ニ在リテハ保證人カ債權者ニ對シテ特ニ該緣由ノ實在ヲ保證契約ノ要素ト爲ササル限ハ其要素ニ錯誤アリト云フヲ得サルモノトス

四	四	四	五	六
一六六	一六六	二〇五	二四九	二二七

律タル明治八年布告第百二號金穀貸借請人證人辨償規則ヲ準用スヘク保證ニ關スル民法ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

○保證契約ハ保證人ト債權者トノ間ニ成立スルモノナレハ保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テモ其委託契約ノ無効ハ保證契約ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス

○保證人カ債權者ニ對シ保證契約ヲ爲スニ至リタル緣由ニ錯誤アリタル場合ニ在リテハ保證人カ債權者ニ對シテ特ニ該緣由ノ實在ヲ保證契約ノ要素ト爲ササル限ハ其要素ニ錯誤アリト云フヲ得サルモノトス

(同主旨)

當事者カ保證契約ヲ締結スルニ至リタル緣由ニ錯誤ヲ生シタル場合ト雖モ特ニ該緣由ノ實在ヲ以テ契約ノ要件ト爲ササル以上ハ法律行爲ノ無効ヲ惹起スヘキモノニ非ス

(參照)

債權者ハ擔當物ニ關セス保證義務ノ履行ヲ保證人ニ求ムルノ權アリ

債權者カ虛偽ノ抵當及ヒ公證偽造ノ爲メニ刑ニ處セララルルモ民事上ニ屬スル貸借ノ事實ヲ失却セシメタルモノト爲サレテ以テ當事者間ノ保證義務ハ初メヨリ合意ヲ妨ケス依然存立スルモノトス

人ノ依頼ニ應ジ保證人タルコトヲ承諾シテ白紙ニ調印シタルコトヲ認メ乍ラ保證ノ義務ナシト判決シタルハ違法ノ裁判ナリ

未成年者ノ締結セル保證契約ハ縱令其未成年者カ商業ヲ爲スノ能力アリトスルモ其商業上ノ

六	六	七	二五	二五	二六
一三五	一三六	一二九	一七六	四	二
		一三四	五	二二	五

必要ニ出テタリトノ證明ナキニ於テハ之ヲ民事上ノ行爲ト爲スヘシ

(第四百四十六條)

『第四百四十六條』

- 主タル債務者カ辨濟期日ニ其債務ヲ履行セサルニ於テハ其資力ノ有無ニ拘ハラズ保證人ヨリ直ニ辨濟スヘシトノ保證契約ハ有效ナリトス
- 賣買契約ノ保證人ハ民法上保證債務ノ當事者ナルヲ以テ保證人ノ一般ノ相續人ニ至テモ尙其當事者ニシテ之ヲ第三者ト云フヲ得ス
- 元來保證人ハ主債務者カ債務ヲ履行セサル場合ニ於テ始メテ辨濟ヲ爲スノ責アルモノニシテ隨テ辨濟期日到來シタレハトテ主債務者ノ如ク直ニ辨濟ヲ爲ササルヘカラサル責アルモノニ非ス
- 金穀以外ノ物ノ消費貸借ニ於ケル普通ノ保證人ハ主タル債務者カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲スノ責ニ任スヘキハ民法施行前ニ於テモ法理トシテ認ムヘキモノナリ
- 民法上ノ保證債務ハ主タル債務ニシテ存在スル以上ハ其債務カ手形ヨリ生セシモノナルト否トニ拘ハラズ有效ニ成立シ得ルモノトス
- 民法上保證人ノ責務ニ關シテハ其第四百四十六條及ヒ第四百四十七條ノ外之カ範圍ヲ定メタル法條ナキヲ以テ保證人ハ保證ノ目的タラサリシ債務並ニ之ニ從屬スル債務ニ付テ履行ノ責ニ任スヘキモノニ非ス

二元	二	二元
三二	二	五七
三五	五	七二
三五	九	七
三五	一〇	六
三六		三四
三六		四八四

○賣買契約ノ履行ニ關スル債務ト該契約解除後代金ヲ返還スヘキ債務トハ其發生原因ヲ異ニシ全ク別箇ノ債務ナレハ賣買契約ノ保證ヲ爲シタル者ハ右代金返還ノ債務ニ付テモ亦當然之ヲ保證シタルモノト云フヘカラズ

三六		四八四
----	--	-----

○賣買ニ付キ賣主ノ保證人ト爲リタル者ハ買主ニ對シ賣主ヲシテ目的物ヲ引渡サシムルノ義務ヲ負フモノナレハ賣主カ契約ノ履行ヲ爲ササル爲メ買主ヨリ保證義務ノ履行ヲ請求セラレタル場合ハ勿論然ラサル場合ニ於テモ買主ニ對シテハ常ニ其權利ヲ尊重スル義務ヲ負フヘキモノトス

三六		八六六
----	--	-----

○民法實施以前ニ於テハ債務者カ無資力ナルトキハ直ニ保證人ニ對シテ訴追シ得タルモノトス

三六		二四〇
----	--	-----

○保證債務ハ保證契約ト同時ニ其效力ヲ生スルモノニシテ主タル債務者カ不履行ノ責ヲ負フヘキ時ニ至リ始メテ成立スルモノニ非ス

三九		七九
----	--	----

○將來發生スヘキ債務ノ保證契約ハ適法ニ成立シ得ヘキモノニシテ其效力ハ後日主タル債務發生ノ時ニ生スルモノトス

(同主旨)

保證債務ハ主タル債務存在スルニ非サレハ發生セサルヤ勿論ナレトモ主タル債務ノ將來ニ發

四		五九五
---	--	-----

生スヘキコトヲ豫期シ其未來ノ債權者ニ對シテ第三者カ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ保證契約ハ成立スヘシ

保證契約ハ必スシモ結約當時ニ於テ債務ノ存在スルコトヲ要セス未來ノ債務ト雖モ之ヲ保證シ得ルハ勿論ニシテ此場合ニ在リテハ後日主タル債務成立スルトキハ保證債務モ亦其效力ヲ發生スルモノトス

○保證契約ニ於テ主タル債務者カ供シタル擔保ノ效力有無ノ如キハ保證人ト債權者間ニ其擔保ノ有效ナルコトヲ以テ契約成立ノ要件トスル約旨ノ存スル場合ノ外ハ其内容ヲ成スモノニ非ス

○保證人ハ主タル債務者ト共ニ債權者ニ對シ債務ヲ負擔スルモノナレハ主タル債務者カ辨濟ヲ爲ササリシ時期ニ於テハ主タル債務者ニ請求スルト同時ニ保證人ニ對シ保證債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

○消費貸借ニ基ク債務ノ履行ヲ擔保スル保證人ハ其主タル債務カ現金ノ授受ニ因リテ生シタルト又ハ簡易ノ引渡ニ因リテ生シタルトニ因リ其責任ヲ左右スルモノニ非ス從テ保證人カ保證債務ヲ負擔シタル當時主タル債務者ニ於テ現實ニ金錢ノ授受ヲ爲スモノト信シタリヤ否ヤハ保證契約ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス

(參照)

保證人ニ對シ訴追スルニハ主タル債務者ノ辨濟力ナキコトヲ立證スルヲ以テ足ルモノトス明治八年第百二號布告第一條ノ「本人身代限濟方申付候上不足相立候節ハ其不足ノ分請人證人ハ濟方申渡シ猶不相濟トキハ云云」モ亦此精神ニ外ナラス強制執行ノ方法存在スル今日ニ在テハ之ニ依リ其無資力ヲ證明シ得レハ債權者ハ保證人ニ對シ直ニ請求ヲ爲スヲ得ヘシ

第四百四十七條

『第四百四十七條』

○民法上保證人ノ責務ニ關シテハ其第四百四十六條及ヒ第四百四十七條ノ外之カ範圍ヲ定メタル法條ナキヲ以テ保證人ハ保證ノ目的タラサリシ債務竝ニ之ニ從屬スル債務ニ付テ履行ノ責ニ任スヘキモノニ非ス

○主債務者カ賣買契約ヲ履行セサル場合ニ債權者ニ於テ解除權ヲ行使シ主債務者ニ對シ原狀回復及ヒ損害賠償ヲ要メタルモ辨濟ノ資力ナキニ依リ保證人ニ對シテ其辨濟ヲ訴求シタル後更ニ訴訟ヲ提起シ單純ナル損害賠償ヲ求メ保證人ヲシテ其債務ヲ履行セシメントスルハ違法ニ非ス

○保證契約ノ當事者カ契約解除ノ場合ニ於ケル原狀回復ノ義務ヲモ包含セシメテ保證ヲ約スルハ違法ニ非ス

○主タル債務ノ不履行ニ因リ相手方ニ損害ヲ生セシメタルトキハ主債務者ハ既ニ契約ノ解除アリタルト否トニ論ナク其損害ヲ賠償スル責ニ任

三五二 一五六

三七 八二七

六 九二

六 一五七六

七 八九〇

二六 一

三六 四八四

三九 一三三

四二 五〇四

セサルヘカラス從テ主タル債務ヲ擔保セル保證債務モ亦特別ノ事情ナキ限ハ其損害賠償ノ責任ヲ包含スルモノトス

〔同主旨〕

主タル債務者カ契約ヲ履行セサル場合ニ於テハ保證人ハ該契約ノ解除セラレタルト否トヲ論セス其不履行ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ賠償スルノ責ニ任スヘキモノトス

○訴訟費用ハ主タル債務ニ附從スルモノナルヲ以テ保證人ハ別ニ之ヲ支拂フヘキ約束ヲ爲ササルモ主タル債務ヲ保證スルト同時ニ之ヲ擔保シタルモノトス

〔同主旨〕

債務不履行ニ因ル遲延利子及ヒ訴訟費用ノ如キハ主タル債務ニ附從スルモノニシテ特別ノ事情ナクハ債務者ニ於テ之ヲ負擔スヘキハ當然ナリ從テ主タル債務者カ辨濟ヲ爲ササル場合ニハ債權者ハ保證人ニ對シテ之カ辨濟ヲ請求シ得ルモノトス

○原狀回復ノ義務ハ主タル債務カ契約解除ニ因リ消滅シタル結果生スル別箇獨立ノ法律上ノ義務ニシテ主タル債務ニ從タルモノニ非サレハ保證人ハ特約ナキ限り之カ履行ノ責ニ任スヘキモノニ非ス

〔同主旨〕

契約ニ因ル保證債務ニハ契約ノ解除ニ因リテ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ其給付シタル物ノ返還ヲ請求スル場合ノ保證ヲ包含セス

四一

六六三

六

一八六七

三元

九二四

四三

三二五

三六

一五〇

四三

三五

〔第四百四十九條〕

○民法第四百四十九條ノ場合ニ於ケル保證人ノ債務ハ單ニ其從屬的性質ヲ失ヒ主債務ト獨立シタル債務ト爲ルニ止マリ保證人トシテノ債務ノ其他ノ態様ハ之ヲ維持存續スルモノトス

〔第四百四十九條〕

○主タル債務者ト連帶シテ各自保證債務ヲ負擔スル者數人アル場合ニ於テ保證人ハ分別ノ利益ヲ有セサルヲ以テ獨立債務ヲ負擔スルニ至リタル後ト雖モ連帶債務ト態様ヲ同フスルモノトス

〔第四百五十條〕

〔第四百五十條〕

○保證債務ノ設定ハ一ニ債權者ノ權利ヲ確保シ債務ノ履行ヲ全カラシムルニ在レハ主タル債務者カ債權者ニ對シ保證人ヲ立ツヘキ義務ヲ負フ場合ニ於テ之ヲ立テシムルハ債權者ノ權利ニ屬ス從テ債權者ハ主タル債務者ノ負擔スル保證人ヲ立ツヘキ義務ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得ルモノトス

五

一八三

六

四七三

六

四七三

三〇

一〇九

二六

四四

○主タル債務者カ二名ノ保證人ヲ立ツヘキ義務ヲ負擔スル場合ニ債權者カ之ヲ一名ノミニ免除スルモ特別ノ事情ナキ限り之ニ依リ直ニ其擔保セラルヘキ債權ノ成立ヲ否定スヘキ資料ト爲ルヘキモノニ非ス

第四百五十二條

○保證人カ債權者ニ對シテ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求セント欲セハ其住所ヲ立證スルヲ以テ足ルモノニ非ス必スヤ其所在ヲ證明スルヲ要ス

○保證人ハ民法第四百五十二條ノ規定ニ於ケル催告ノ請求ヲ爲サシテ直ニ同法第四百五十三條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シ得ルモノトス

○保證人ニ於テ民法第四百五十二條ノ抗辯權ヲ拋棄シタルトキハ債權者ハ主債務者ニ催告ヲ爲サシテ直ニ保證債務ノ履行ヲ請求シ得ルモノトス

○民法第四百五十二條及ヒ第四百五十三條ノ規定ハ保證債務ノ效力ニ關スル通則ニ過キサレハ當事者ハ同條ノ抗辯權ヲ拋棄スヘキ特約ヲ締結スルコトヲ得ヘシ

○債權者カ保證人ニ對シ債務ノ履行ヲ請求セントスル場合ニ主タル債務者ニ爲スヘキ履行ノ催告ハ單ニ主タル債務者ニ對シ其意思ヲ表示スルヲ以テ足り催告カ效果ナカリシ事實ヲ確定スルコトヲ要セサルモノトス

第四百五十三條

○保證人ハ民法第四百五十二條ノ規定ニ於ケル催告ノ請求ヲ爲サシテ直ニ同法第四百五十三條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シ得ルモノトス

○民法第四百五十二條及ヒ第四百五十三條ノ規定ハ保證債務ノ效力ニ關スル通則ニ過キサレハ當事者ハ同條ノ抗辯權ヲ拋棄スヘキ特約ヲ締結スルコトヲ得ヘシ

○民法第四百五十三條ニ規定スル保證人ノ抗辯ハ債權者ノ請求ニ對スル本案ノ抗辯ニシテ民事訴訟法第二百六條第七號ノ延期ノ抗辯ニ非ス又其他ノ妨訴抗辯ニモ非サレハ保證人ハ第二審ニ於テ始メテ之ヲ提出スルモ違法ニ非ス

○民法第四百五十三條ニ所謂債務辨濟ノ資力アリトハ主タル債務者カ其債務ノ全部ヲ辨濟スルニ足ルヘキ資産ヲ有スルノ義ナリ〔同一判例四二年二〇頁〕

四二	四〇	三六	三三	五
六四一	一五九	一三六	一一三	一〇一一

五	三三	三〇	二七	二六
一八三三	一八三四	一一三三	一一三九	一一三八

(同主旨)

債權者ハ債務ノ一部辨濟ヲ受ケサルヘカラサルモノニ非ス從テ民法第四百五十三條ノ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリト云ヘルハ債務全部ヲ辨濟スヘキ資力アルノ意ナリトス

○保證人カ檢索ノ抗辯ヲ提出スルニ當リ立證スヘキ執行ノ容易ナルコトハ債權者カ其執行ノ爲メ格段ナル時日及ヒ費用ヲ要スルコトナク容易ニ其債權ヲ實行シ得ヘキモノナルコトヲ要スルモノトス

○主債務者ノ財産ニ對シ地上權又ハ抵當權設定セラレ又ハ假差押ノ處分ヲ受ケ居ル事實ハ執行ヲ不可能ナラシムルモノニ非スト雖モ之カ執行ヲ爲スニ付キ格段ナル時日及ヒ費用ヲ要スルヲ以テ執行容易ナルモノト謂フヲ得ス

(參照)

有體財産ニ對シ強制執行ヲ爲スモ債務ヲ完済セシメ能ハサル場合ニ訴追ヲ受ケタル保證人ニ於テ主タル債務者カ他ニ財産ヲ有スル旨ヲ主張セントスルトキハ之ヲ明示セサルヘカラス之ヲ明示シタルコトナクハ裁判所ハ債務者ヲ無資力ナリト認定スルヲ得ヘシ

『第四百五十六條』

○主タル債務者ト連帶シテ各自保證債務ヲ負擔スル者數人アル場合ニ於テ保證人ハ分別ノ利益ヲ有セサルヲ以テ獨立債務ヲ負擔スルニ至リタル後ト雖モ連帶債務ト態樣ヲ同フスルモノトス

(第四百五十六條)

三九	五	五	六	二六	六
一六五〇	一九七四	一九七四	一九七四	一九七四	四七三

(第四百五十七條)

○民法施行以前主債務者カ身代限處分ヲ受ケ其債權出訴期限ナキモノト爲リタル場合ト雖モ保證人ニ於テ該處分ヲ受ケサル間ハ同人ニ對シテハ出訴期限規則ヲ適用スヘキモノトス

(參照)

債務者ニ對スル時效ノ中斷ハ保證人ニ對シテモ其效力ヲ生ス

民法 債權 總則 多數當事者ノ債權 保證債務

六	七	二五	三〇	四三	二九
八二二	一三六	四五	一〇	三	九四

(第四百五十八條)

『第四百五十八條』

○主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔セル保證人ト雖モ一ノ保證人タルコトヲ失ハサルカ故ニ之ヲ連帶債務者ト同視スヘキモノニ非ス

○債權者カ主タル債務者ニ對シ履行期間中任意ニ契約ヲ解除スルニ於テハ該債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタル保證人ノ債務モ亦當然消滅スルモノトス

(同主旨)

保證人カ主債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタル場合ト雖モ主タル契約ニシテ解除セラレル以上ノ保證契約モ亦當然解除ニ歸スヘキモノトス

○不動産ノ賣買ニ付キ連帶保證ノ契約ヲ爲シタル者ハ賣主ノ義務不履行ニ因リ買主ニ損害ヲ生シタル場合ニハ賣主ト連帶シテ之ヲ賠償スヘキ義務ヲ負擔スレトモ固ヨリ賣主ニ非サルヲ以テ登記義務ノ如キハ之ヲ負擔セサルモノト爲スヲ相當トス

(參照)

保證人カ其擔保ヲ確實ナラシムル爲メ特ニ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔スルハ條理上妨ナク且裁判例ニ於テ是認スル所ナリ

保證人ニ於テ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ辨濟ヲ爲サンコトヲ約諾スルハ是レ唯連帶債務者トシテ債務ヲ負擔スル一種ノ特約ヲ爲シタルニ過キスシテ保證契約本來ノ性質ニ變更ヲ來

三	五	四〇	四	四
二				
二七	五八四	七三五	一六二	一六二

(第四百五十九條)

『第四百五十九條』

○保證債務ハ契約ノ成立ト同時ニ他日履行スヘキ義務ヲ發生セシムルモノナルヲ以テ債務者ノ委託ヲ受ケタル連帶保證人カ債權者ノ請求ニ應ジテ爲シタル辨濟ハ主タル債務ノ辨濟期前ト雖モ有效ナリトス

○保證人ハ主タル債務者ノ期限ノ利益ヲ害スヘカラサルニ依リ債務ノ辨濟期前ニ在リテハ主タル債務者ノ承諾ヲ得テ辨濟ヲ爲シタル外保證人ニ於テ求償權ヲ行フコトヲ得サルモノトス

『第四百六十五條』

○共同保證人間ノ求償權ハ未タ主債務者ヨリ辨濟ヲ受ケサル自己ノ出捐額ニ付キ存在スルモノナルヲ以テ辨濟ヲ命スル判決アリタルノミニテ未タ現實ノ辨濟アラサル間ハ求償權ノ範圍ハ縮少セラレルコトナシ

第四節 債權ノ讓渡

○權利拋棄ノ場合ニハ獨リ權利者ノ權利消滅スルノミナラス義務者ノ義務モ亦絶對的ニ消滅スル結果ヲ生スト雖モ權利讓渡ノ場合ニハ其有償行爲ナルト無償行爲ナルトヲ問ハス唯權利者ノ變更アルニ過キスシテ義務ハ消滅スルモノニ非ス

三	元	三	三	三二
五				四
八四	九二三	四七六	四七六	八一

- 債權ノ移付行爲ハ縱令形式上瑕瑾ナキモ實體上不適法ナル場合ニ利害關係人ヨリ異議ヲ唱フルトキハ法律上何等ノ效ヲモ生セサルモノトス
- 債權ノ讓受人カ債務者ヨリ債權全部ノ辨濟ヲ受ケタル後更ニ其債務者ノ爲メ債務ヲ代辨シタル場合ニ於テ其債權讓渡カ假裝ナリシトキハ該讓受人ハ債務者ヨリ受取リタル金圓ヲ返還スヘキ義務アルト同時ニ債務者ニ對シテ立替金ノ辨償ヲ請求スルノ權利ヲ有シ此義務ト權利トハ互ニ兩立シテ特別ノ事由アルニ非サレハ消滅セサルモノトス
- 債權者ノ交替ニ因ル更改ト債權ノ讓渡トハ全然其性質ヲ異ニスル別箇ノ法律行爲ナリトス
- 假裝ノ法律行爲ニ基ク虚偽ノ債權ヲ真正ノ債權ナリトシテ讓渡シタルニ因リ善意ノ債權讓受人カ其債權ヲ相殺ニ利用シ之ニ依テ自己ノ債務ヲ消滅セシメタル場合ニ於テハ虚偽ノ債權ノ讓渡ト債務消滅トノ間ニ因果關係アリト認ムヘキモノトス
- 虚偽ノ債權ヲ真正ノ債權ナリトシテ讓渡シタル者ハ債權讓受人カ其債權ヲ相殺其他ノ方法ニ依リ利用スヘキコトヲ當然豫知シ得ヘキモノナレハ債權讓渡人ハ相殺ノ行ハルヘキコトヲ豫知セザリシトキハ豫知セザリシコトニ付キ過失アリト謂ハサルヘカラス

三四	一〇六
三六	六〇
四三	七六
七	一九九三
七	一九九三

(參照)

宛名ナキ證書ヲ使用シ金借シタルモノハ何人ヲ債權者ト爲シ記入スルモ素ヨリ之ヲ認諾シタルモノトス故ニ此場合ニハ債權ノ讓渡ト云フヲ得ス

債權ノ轉付ヲ受ケタル者ハ其債權者ノ權利ヲ承繼シ即チ被承繼者ノ地位ニ代リタルモノナリ故ニ被承繼者カ債務者ニ對シ買フ所ノ債務アルトキハ縱令轉付ノ債權ニ關係ナ有セサルモ被承繼者カ其相殺ノ請求ヲ拒ミ得サルト同シク承繼者モ其請求ニ應スルノ義務アリ

(第四百六十六條)

『第四百六十六條』

- 買戻權ハ一ノ財産權ニシテ其性質權利者ノ一身ニ專屬スルモノニ非ス又之ヲ第三者ニ讓渡スモ公ノ秩序若クハ善良ノ風俗ニ違背スルモノニ非サルヲ以テ其讓渡ハ有效ナリトス
- 債權ノ讓受人ハ讓渡人ノ特別承繼人ノ地位ニ於テ讓渡人ノ享有シタル權利ヲ其儘承繼ス故ニ讓渡人カ有セシ詐害行爲取消請求權ノ如キモ其債權ノ讓渡ト共ニ當然讓受人ニ移轉スルモノトス
- 民法第五百七十九條ニ規定セル買戻ハ不動産ノ賣主カ賣買ヲ爲スニ當リ買主ヨリ支拂ヒタル代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還スルニ於テハ賣買ヲ解除シ不動産ヲ買戻シ得ヘキコトヲ特約スルモノニシテ此賣主ノ權利ハ債權ニ外ナラサレハ債權讓渡ノ規定ニ從ヒ之ヲ讓渡シ得ヘキハ當然ナリ

二六	一	九七
三	二	二
三四	八	五
三七		二三
三六		三四四

○債務者カ漁業權ヲ以テ債權ノ擔保ト爲シタル場合ニ債權者ニ於テ其債權ノミ他人ニ讓渡スルトキハ爾來其擔保ハ消滅ニ歸シタルモノナレハ讓渡人ヨリ之ヲ債務者ニ返還セサルヘカラス

三六

二二六

○債權讓渡ノ契約ハ要式契約ニ非サレハ苟モ當事者間ニ於テ讓渡ニ付キ意思ノ合致アルトキハ完全ニ成立シ直ニ其效力ヲ生スルモノトス

三六

一三〇

○債權證書ハ債權者カ其債權ヲ行使スルニ必要ナル證書ナレハ債權讓渡ノ場合ニ於テ反對ノ意思表示ナキ以上ハ讓渡人ハ讓受人ニ對シ其債權證書ヲ引渡スヘキ義務ヲ負フモノトス

三六

一三三

○債權ノ性質カ讓渡ヲ許スモノナルヤ否ヤハ或特別ノ關係カ債權發生ノ原因タルヤ否ヤ又ハ債權者ノ特別ノ行爲ヲ要スル場合ナルヤ否ヤニ繫ルモノニシテ債權ノ目的カ金錢ノ支拂ナルヤ否ヤハ毫モ之ニ影響スルコトナシ

三九

五四

○合資會社カ出資ニ付キ社員ニ對シテ有スル權利ハ一種ノ債權ニ外ナラスト雖モ未タ其辨濟期ニ在ラサルモノハ之ヲ讓渡シ若クハ轉付スルコトヲ得ス

三九

一〇八

(同義)

會社ニ對スル出資金ニシテ既ニ辨濟期ニ在ルモノノ支拂ヲ求ムル權利ハ一ノ債權ニ外ナラス

シテ其性質讓渡ヲ許ササルモノニ非ス故ニ特別ノ規定ナキ以上ハ會社ニ對スル強制執行ノ目的物ト爲スニ妨ナキモノトス

三九

五〇二

○債權及ヒ其擔保タル抵當權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ抵當權設定登記カ形式上何等ノ原因ナクシテ既ニ抹消セラレタルトキハ讓渡人ハ移轉登記ノ義務ヲ履行スル爲メ先ツ抹消登記ノ無効ヲ主張シ登記更正ノ手續ヲ爲ササルヘカラス

四〇

一一三

○如上ノ場合ニ於テ抵當權ノ目的物ヲ取得シタル第三者カ抵當權ノ現存ヲ否認シ抹消登記ノ更正ヲ承諾セサルトキハ債權讓渡人ハ訴ヲ以テ抹消登記ノ無効及ヒ更正ノ承認ヲ求ムルコトヲ得

四〇

一一三

○雙務契約ニ於ケル一方ノ債權者カ其債權ヲ第三者ニ讓渡シタル場合ト雖モ其讓渡サレタル債權ハ依然トシテ雙務契約ヨリ生スル一方ノ債權タル性質ヲ保有シ他ノ一方ノ有スル債權トフ間ニ交互的關聯ヲ存續スルヲ以テ一方ノ債權成立セサルカ又ハ無効ト爲ルトキハ他方ノ債權モ亦不成立若クハ無効ト爲ルヘキモノトス

四二

四九〇

○如上ノ場合ニ於テ雙務契約不成立ト爲リ又ハ解除セラレタルトキハ債權讓受人ハ其債權ヲ履行セシムルコトヲ得ス又既ニ債務者ヨリ辨濟ヲ受ケタルトキハ其受ケタルモノヲ返還スヘキヲ當然トス

四二

四九〇

○債權ノ發生前讓渡契約ヲ締結シタル場合ト雖モ當事者ノ意思カ債權發生シ其移轉ノ可能ト爲ルコトヲ條件トシテ讓渡ノ效力ヲ生セシメントスルニ在ルトキハ結約當時移轉ノ不能ナル一事ヲ以テ其契約ヲ無効トスルヲ得ス

○債權取立ヲ目的トシテ債權ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ之ニ因リ債權ヲ取得シ債務者ニ對シ之ヲ行使スルコトヲ得ルモ取立以外ニ債權ノ行使又ハ處分ヲ爲スコトヲ得ス

○債權讓受人カ勝訴ノ結果債務者ヨリ辨濟ヲ受ケタル金額ノ一部ヲ報酬トシテ受クル約束ノ如キハ當事者間ノ内部關係ニ過キスシテ債權讓渡ノ意思ト牴觸スル所ナク債權移轉ノ效力ヲ妨クルコトナシ

(刑) ○債權ノ取立ヲ目的トスル讓渡行為ニ在テハ第三者ニ對スル外部關係ニ於テノミ債權讓渡ノ效力ヲ生スルニ止マリ當事者間ノ内部關係ニ於テハ債權ハ依然トシテ讓渡人ニ存スルモノナルヲ以テ右取立ヲ爲ササル以前ニ於テ讓渡人ハ債務者ト和解ヲ爲シ其債權ヲ消滅セシメ得ヘキヤ論ヲ竣タス

○取立ノ爲メニスル債權讓渡ハ讓渡當事者間ニ在リテハ單純ナル債權讓渡ト其效果ヲ異ニスト雖モ讓受人ト債務者トノ關係ニ於テハ單純ナル

讓渡ト其效果ヲ同フスルモノトス

○當事者カ權利ヲ移轉スル意思ヲ以テ債權ヲ讓渡シタルトキハ縱令其内部關係ニ於テハ債權取立ノ目的ニ出テタルモノトスルモ該契約ヲ目シテ虛偽ノ意思表示ト謂フヲ得ス

(同主旨)

取立ノ爲メニスル債權ノ讓渡ハ其外部ノ關係ニ於テハ純然タル一箇ノ債權讓渡ニシテ讓渡人ハ債權ヲ喪失シ讓受人ハ其取得シタル債權ヲ行使シ得ヘキモノナルハ虛偽ノ行為ニ非ス
當事者カ權利ヲ移轉スルノ意思ヲ以テ債權ヲ讓渡シタルトキハ即チ意思ト表示ト一致スルカ故ニ縱令其内部關係ニ於テハ債權ノ取立ヲ目的トスルモノヲ以テ虛偽ノ意思表示ト謂フヲ得ス

○株式會社カ其株主ヲシテ株金ヲ拂込マシムル權利ハ會社成立シタル以上拂込催告ノ前後ニ拘ハラズ獨リ會社ノミ之ヲ有スルコトヲ得ルモノナレハ其性質上讓渡ヲ許ササルモノトス

(同主旨)

株式會社カ其株主ニ對スル株金拂込ノ請求權ハ兩者ノ間ニ於ケル特別ノ關係ニ基クモノニシテ拂込催告ノ前後ニ拘ハラズ獨リ會社ノミ之ヲ保有シ得ヘキモノトス故ニ該請求權ハ讓渡ヲ許ササル性質ヲ有スル債權ナリ

○債權ノ性質カ讓渡ヲ許ササルモノナルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ轉付スルモ其效力ヲ生セサルモノナレハ會社カ其株主ニ對シテ有スル

四	五	四	四	三	六	三
一八四五	九九四	二六八	八〇三	七二	五二四	

二	元	元	四
二〇九	八七九	八七九	八四

株金拂込請求權ハ之ヲ轉付スルモ其效力ナキモノトス

(同主旨)

債權ノ性質カ讓渡ヲ許ササルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ轉付スルモ其效力ヲ生スヘキモノニ非サレハ株金拂込請求權ノ轉付命令ハ無効ナリ

○當事者ノ信用ヲ基礎トシテ成立シタル契約上ノ債權ハ債權者ノ人格カ其内容ニ重要ナル關係ヲ有シ債權者ノ變更ハ債權ノ内容ノ變更ヲ伴フカ故ニ專屬的性質ヲ有シ讓渡ヲ許ササルモノトス

○如上債權ノ讓渡ヲ許ササルハ債務者ノ利益ヲ保護スルカ爲メナレハ債務者カ之ヲ許諾スル以上ハ其事前ナルト否トヲ問ハス債權ハ之ニ因リテ讓渡ノ不能性ヲ失ヒ讓渡ヲ有效ナラシムルモノトス

○債權カ讓渡ヲ許ササルモノナルトキト雖モ之ヨリ生シタル損害賠償ノ請求權ハ其性質上讓渡ヲ許ササルモノニ非ス

○議會ノ代表者タル資格ニ於テ有スル權利ハ其代表者個人ノ權利ト性質ヲ異ニスルヲ以テ自由ニ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得サルノミナラス縱令議員ト雖モ講關係以外ノ法律關係ニ於テ其代表者ニ對シテ有スル債權ノ辨濟ニ之ヲ充ツルコトヲ得サルモノトス

○取立ノ爲メニ債權ノ信託的讓渡ヲ爲シタル場合ニハ受信者ハ債務者ニ

對シ債權者トシテ取立ノ權利ヲ行使シ得ヘシト雖モ授信者カ自ラ債權ノ取立ヲ爲シ又ハ之ヲ免除スルコトヲ拒ムノ權利ナキモノナレハ受信者ハ授信者ノ爲シタル取立又ハ免除ノ效力ヲ否認スルコトヲ得ス隨テ債務者ハ之ニ因リ受信者トノ關係ニ於テモ有效ニ債務ヲ免ルヘキヲ以テ其後ニ受信者ヨリ債權ヲ讓受ケタル者ハ既ニ消滅シタル債權ヲ讓受ケタルニ歸シ債務者ニ對シ辨濟ヲ請求スル權利ヲ有セサルモノトス

○加入者ノ享有スル電話利用權ハ一種ノ債權ニシテ專屬的性質ヲ有スルモノニ非サレハ法令ニ於テ禁セサル限ハ之ヲ移轉スルコトヲ得ルモノトス

○電話開通後ニ電話使用權ヲ承繼セシメ且加入者名義ノ變更ヲ爲スヘキ旨ノ契約ハ電話ノ開通ヲ條件トスル電話使用權ノ讓渡ニシテ加入申込者ノ權利ノ移轉ヲ目的トシタルモノニ非ス

○民法第四百六十六條第二項但書ノ規定ハ其明文ノ示スカ如ク性質上讓渡シ得ヘキ債權ハ縱令當事者ニ於テ讓渡ヲ禁スル特約ヲ爲スモ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗シ得サル旨ヲ規定シタルモノナレハ第三者自ラ進テ其特約ヲ認メサル限ハ債務者カ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ當ニ其特約ノ存在ヲ證明スルコトヲ要スルノミナラス第三者ノ惡意ナリ

六	七	六	六	六	三元	六
二八八	二九八	二〇六	二〇六	二〇六	五四	七二

進テ其特約ヲ認メサル限ハ債務者カ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ當ニ其特約ノ存在ヲ證明スルコトヲ要スルノミナラス第三者ノ惡意ナリ

七	六	六	六	六	三元	六
二八〇	二九八	二〇六	二〇六	二〇六	五四	七二

シコトヲモ證明スヘキハ當然ナリ

○民法第四百六十六條第二項ノ規定ハ轉付命令ニ依ル強制讓渡ノ場合ニモ亦其適用アルモノトス

(第四百六十七條)

『第四百六十七條』

○民法實施前ニ在テハ買戻權ノ如キ債權ノ讓渡ニ付キ債務者ノ承諾ヲ得若クハ債務者ニ通知スヘキ規定ナキヲ以テ此等ノ手續ヲ履マサル讓渡モ有效ナリトス

○債權ノ讓渡ニ於ケル債務者ノ承諾若クハ通知ナルモノハ權利ノ行使ニ關スル要件ニ外ナラスシテ其成立ニ關スルモノニ非サレハ縱令起訴ノ當時ニ於テハ未タ債務者ノ承諾若クハ通知アラスシテ訴訟進行中讓渡ノ通知アリタリトスルモ裁判所ハ其判決當時ノ情態ニ依リ債務者ニ對シ敗訴ヲ言渡スヘキモノトス

○指名債權ノ債務者カ一旦債權讓渡ノ通知ヲ受ケ若クハ之ヲ承諾スルトキハ確定日附アル證書ノ有無ニ拘ハラズ讓受人ト自己トノ間ニ債務關係存立スルヲ以テ他ニ同一ノ債權ヲ主張スル者アラハ之ヲ排斥スルノ權利ヲ有ス

○民法施行前ニ生シタル債權ト雖モ其施行後ニ至リ之ヲ讓渡シタル場合

ニ於テハ讓渡人カ其讓渡ヲ債務者ニ通知スレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗シ得ルモノトス

○民法施行以前ト雖モ債權ノ讓渡ヲシテ契約者以外ノ者ニ對抗セシメンニハ其讓渡人若クハ讓受人ヨリ少クモ債務者ニ對シ之カ通知ヲ爲スコトヲ要ス

○指名債權ノ讓渡人カ其讓渡ヲ債務者ニ通知セスシテ自ラ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テハ其辨濟ハ有效ニシテ讓受人ハ債務者ニ對シ更ニ辨濟ヲ請求スル權利ヲ有セス從テ該讓渡人ハ讓受人ノ財産ニ因リ法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケ之カ爲メ讓受人ニ損失ヲ及ホシタルモノトス

○債務者其他ノ第三者ハ縱令債權讓渡ノ當事者カ民法第四百六十七條ノ手續ヲ履踐セサルトキト雖モ該當事者ニ對シ讓渡ノ事實ヲ主張シテ其效ヲ致サシムルコトヲ得

○債權讓渡ノ通知ハ讓渡人ヨリ債權ノ讓渡アリタルコトヲ債務者ニ知ラシムルコトヲ目的トスル意思表示ニシテ其意思表示カ表意者タル讓渡人ヨリ相手方タル債務者ニ到達スルニ因リテ其效力ヲ生シ相手方タル債務者カ其意思表示ヲ認識シタリヤ否ヤハ意思表示ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス

三六 二七六

四 四三

三三 三六

三六 二六八

三六 四九

三六 五二七

三七 二九

三七 七二

三六 一三〇

四三 一九三

○書面ヲ以テ債權讓渡ノ通知ヲ爲ス場合ニ於テハ其書面カ一般取引上ノ觀念ニ從ヒ相手方ノ爲メニ之ヲ受領スル機關ト爲ルヘキ者ノ手裡ニ歸シタルトキニ於テ相手方ニ到達シタルモノニシテ其發送ノ方法如何ハ之ヲ問フノ必要ナキモノトス

○指名債權ノ讓渡ヲ解除シタル場合ニ於テ其債權者ノ轉換スル事實ハ讓渡ノ場合ト異ナラサルヲ以テ債務者ノ承諾アルカ若クハ之ニ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

(同主旨)

指名債權ノ讓渡ニ付キ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ若クハ債務者カ之ヲ承諾シタル以上債務者其他ノ第三者ハ讓受人ヲ以テ真正ノ債權者ト認ムヘキコト勿論ナレハ讓渡契約解除ノ場合ニ於テモ亦其實質ヲ債務者ニ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○如上ノ場合ニ於ケル解除ノ通知ハ一旦債權者ノ地位ニ在リシ債權讓受人之ヲ爲スヘキモノトス

○指名債權ノ讓渡カ解除セラレタル場合ニ於テ其對抗要件タル通知ノ欠缺ヲ主張セント欲スル者ハ必ス之ヲ主張スルニ正當ノ利益ヲ有スルコトヲ要ス

○債權讓渡ノ通知カ讓渡人ノ無權代理人ニ依リテ爲サレタルモノナルト

キハ其通知ハ無効ナルヲ以テ縱令其後更ニ有效ナル通知ヲ爲シタリトスルモ其時ヨリ對抗力ヲ生シ遡及效ヲ有スルモノニ非サレハ右再度ノ通知前ニ爲シタル讓受人ノ債權届出ハ時効中斷ノ效ナキモノトス

○債權讓渡ノ通知カ讓受人ノ讓受債權ニ基キテ爲ス強制執行ニ對スル異議ノ訴ノ繫屬中ニ爲サレタリトスルモ讓受人ハ其讓渡ヲ以テ債務者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス

○民法第四百六十七條ノ規定ハ株券發行前ノ株式ノ移轉ニ適用アルモノトス

○債務者ニ對スル債權讓渡ノ通知ハ其讓渡行爲以後ニ於テハ何時ニテモ有效ニ之ヲ爲シ得ルモノトス

○債權讓渡ノ通知ハ權利行使ノ要件ニ過キサレハ讓渡セラレタル債權ノ内容ハ其通知ノ時期如何ニ拘ハラヌ讓渡契約ニ依リ定マルモノトス從テ債務者カ民法第四百六十八條第二項ノ抗辯ヲ主張セサル限り裁判所カ債務者ニ對シ債權ノ讓渡後其通知前ノ遅延利息ヲ讓受人ニ支拂フヘキ旨ヲ命スルモ違法ニ非ス

○商法第四百四十四條ノ利益償還請求權ハ法律ノ直接規定ニ依リテ手形ノ效力消滅當時ノ所持人ニ付與セラレタル指名債權ニシテ手形上ノ請

四五

一九三

二

二〇

四五

二五

四五

二五

二

二〇

三

四〇七

四

八五五

四

九八二

四

一一二

四

一一二

求權ニ非サレハ其讓渡ハ指名債權讓渡ノ手續ニ依ルヘク手形裏書ノ方
法ニ依ルヘキモノニ非ス

○債權ノ讓渡ニシテ虛偽ナル以上ハ之ヲ承諾スルモ承諾ノ效力ヲ生セス

○民法第四百六十七條ハ債權讓渡ヲ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルニハ
債務者其他第三者カ其讓渡ノ事實ヲ知ルト否トヲ問ハス讓渡人ヨリ債
務者ニ之カ通知ヲ發スルコトヲ必要ト爲シタルモノト解スルヲ相當ト
ス

(同主旨)

○債權讓渡ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルニハ讓渡人ヨリ債務者ニ之ヲ通知シ又ハ債務
者カ之ヲ承諾スルヲ要スルコトハ債務者其他ノ第三者ノ意思ノ善惡ヲ問ハサルモノトス

○債權ノ讓受人カ債務者其他ノ第三者ニ對シ債權者ナリト主張スルコト
ヲ得ルハ債權讓渡ノ通知アリタル時ニ始マリ讓渡アリタル當時ニ遡及
スルモノニ非ス

○債權讓渡人カ主タル債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シタル以上ハ特ニ保證
人ニ之ヲ爲ササルモ主タル債權讓渡ノ效力トシテ保證人ニ對シ債權ノ
讓渡ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス
(同主旨)

債權讓渡人カ民法第四百六十七條ノ規定ニ依リ主タル債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シ若クハ債
務者之ヲ承諾シタル以上ハ縱令保證人ニ之カ通知ヲ爲ササルモ主タル債權讓渡ノ效力トシテ
當然保證人ニ對シ從タル債權ノ讓渡ヲ主張シ得ルモノトス

債權讓渡人カ民法第四百六十七條ニ依リ主タル債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シ若クハ債務者之
ヲ承諾シタル以上ハ特ニ保證人ニ其通知ヲ爲ササルモ主タル債權讓渡ノ效力トシテ保證人ニ
對シ當然從タル債權ノ讓渡ヲ主張シ得ヘキモノトス

債權讓渡人カ民法第四百六十七條ニ依リ主タル債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シタル以上ハ特ニ
保證人ニ其通知ヲ爲ササルモ主タル債權讓渡ノ效力トシテ保證人ニ對シ當然從タル債權ノ讓
渡ヲ主張シ得ルモノトス

債權讓渡人カ債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シ若クハ債務者カ之ヲ承諾シタル以上ハ特ニ保證人
ニ對シ確定日附アル證書ヲ以テ通知セサルモ之ヲ以テ保證人ニ對抗シ得ルモノトス
保證債務ハ主タル債務ニ附隨スルモノナレハ保證人ニ對スル債權ハ主タル債權ノ讓渡ニ伴ヒ
テ當然讓受人ニ移轉スヘキモノトス從テ其讓渡ヲ以テ保證人ニ對抗スルニハ主タル債務者ニ
對スル對抗條件ヲ具備スルヲ以テ足り別ニ保證人ニ之ヲ通知シ若クハ其承諾ヲ得ルコトヲ要
スルモノニ非ス

○民法第四百六十七條第一項ニ所謂承諾トハ債權讓渡ノ事實ヲ承認スル
義ナレハ同條ノ債權讓渡ノ對抗要件ヲ具備スルニハ債務者カ讓渡ノ事
實ヲ讓渡人又ハ讓受人ニ對シテ承認スルヲ以テ足ルモノトス

○貯蓄銀行ニ對スル債權ノ讓渡ノ場合ニ於テ其銀行ニ對スル對抗條件ニ

三九	四〇	四二	元	三	六
四三五	四二二	六四二	一一四	四二〇	一五二〇

四四	四	六	四五	六	六
一六七九	二〇七六	五二一	一一一	八六	一〇一六
					二二六五

シテ完全ニ充タサレタル以上ハ取締役ニ對シ特ニ民法第四百六十七條第一項ノ方式ヲ踐ムコトヲ要セスシテ取締役ハ讓受人タル新債權者ニ對シ銀行ト連帶シテ債務履行ノ責ニ任スヘキモノトス

○買戻約款ヲ附シ土地ヲ賣買スルニ當リ該特約ヲ登記シタルトキハ爾後買主ヨリ其土地ヲ買受ケタル者ハ特定承繼人トシテ買戻義務者ト爲ルモノトス從テ民法第四百六十七條第二項ニ所謂第三者ニ該當セス

○民法第三百七十六條ハ抵當權ノ處分ヲ以テ對抗セラルル者ヲ制限的ニ列舉シタル旨趣ナレハ同條ニ主タル債務者ノ外保證人アルヲ援用シテ同第四百六十七條第二項ノ債務者以外ノ第三者中ニ保證人ヲ包含スルモノト論斷スルヲ得ス

(聯) ○民法第四百六十七條第二項ハ指名債權ノ讓渡ヲ債務者以外ノ第三者ニ對抗セントスルニハ舊債權者ノ爲ス通知行爲又ハ債務者ノ爲ス承諾行爲ニ付キ確定日附アル證書ヲ必要トシタルモノニシテ其通知又ハ承諾アリタル旨ヲ確定日附アル證書ニ依リ證明スヘキコトヲ規定シタルモノニ非ス

(反對)

工事請負契約ノ讓渡ハ法律上債權ノ讓渡並ニ債務ノ引受ニ相當ス故ニ請負人ヨリ他ノ者ニ其

七 一五五
三六 三四
元 二二四
三 一一六

契約ヲ讓渡シタルトキ請負人ノ權利ニシテ債權ノ讓渡ニ當ル部分ニ付テハ確定日附アル證書ニ依リ注文者ノ承諾ヲ證明スルニ非サレハ讓受人タル他ノ者ニ於テ之ヲ以テ注文者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

民法第四百六十七條第二項ハ確定日附アル證書ヲ送附シテ債務者ニ通知スルニ非サレハ云云ト謂フノ旨趣ニ非スシテ債務者ニ於テ通知ヲ受ケタル日ヲ確定日附アル證書ヲ以テ證明スルニ非サレハ第三者ニ對抗スルヲ得スト云フノ旨趣ニ解釋スヘキモノトス
民法第四百六十七條第二項ハ債權讓受人ハ確定日附アル證書ヲ以テ債務者カ通知ヲ受ケタル日ヲ證明スルニ非サレハ債權讓渡ヲ第三者ニ對抗スルヲ得スト云フノ旨趣ニシテ讓受人ト第三者トノ關係ヲ率スルニ止マル規定ナリ

○民法第四百六十七條第二項ニ規定スル債權讓渡ノ通知又ハ承諾ニ關スル證書ノ確定日附ハ通知又ハ承諾ノ意思表示アリタル當時ノモノナルコトヲ要セサルト同時ニ爾後ニ於テ其證書ニ確定日附アルニ至ルトキハ其日附以後ニ於テハ其債權ノ讓渡ヲ以テ債務者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス

○民法第四百六十七條第二項ニ所謂第三者トハ讓渡債權其モノニ對シ法律上ノ利益ヲ有スル者ニ限ルモノトス

○讓渡債權ニ非サル他ノ係争債權ヲ差押ヘ次テ轉付ヲ受ケタル者カ債權讓渡ヲ否認シ讓渡人ト讓受人間ノ合意上ノ相殺ニ依リ係争債權ノ消滅

三五 一〇 六三
三六 三六一
四〇 一五四
四 九三
四 四四

セサルコトヲ主張スルノミニテハ讓渡債權其モノニ對シ法律上ノ利益ヲ有セサルモノトス

(參照)

債權ノ讓渡ヲシテ契約者以外ノ者ニ對シ有效ナラシメンニハ其讓渡人若クハ讓受人ヨリ債務者ニ對シ之カ通知ヲ爲スヲ要ス

第四百六十八條

『第四百六十八條』

○債權ノ讓渡ハ債務者カ之ヲ承諾シタル場合ノ外讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノトス

○民法第四百六十八條ニ所謂事由ハ權利關係其モノノ消長ヲ來スヘキ實體法上ノ對抗事由ヲ指稱シ既判力ノ抗辯事由ノ如キ訴訟法上ノ對抗事由ヲ包含セサルモノトス

○民法第四百六十八條第一項ノ規定ハ債務者カ異議ヲ留メスシテ承諾ヲ爲シタルトキハ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由アルモ其抗辯ヲ拋棄シ之ヲ讓受人ニ對抗スルコトヲ得サラシムル法意ナリトス

○債務者カ異議ヲ留メスシテ債權讓渡ノ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ第三者ト雖モ其債務者ノ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得サルモノト解スルヲ相當トス

四	四四四
二九	一九一
三四	九八
五	一三八二
五	一六五七
五	一六五七
五	一六五七

○民法第四百六十八條ハ債權讓渡ノ事實ニ付キ債務者カ讓受人ニ對シ異議ヲ留メスシテ承認ヲ爲シタルトキハ之ニ因リ債務ノ承認ニ等シキ效果ヲ生セシムル旨趣ナリトス

○民法第四百六十八條第二項ニ從ヒ債務者カ讓渡人ニ對シテ有スル債權ヲ以テ自己ノ債務ト相殺ヲ爲サントスルニハ債權讓渡ノ通知ヲ受クルマテニ雙方ノ債務カ相殺ヲ爲スニ適シタルコトヲ要ス

(同旨)

民法第四百六十八條第二項ニ所謂讓渡人ニ對シテ生シタル事由トハ讓渡ニ係ル債權ニ關シ讓渡人ニ對シテ生シタル異議ノ原因ヲ指スモノトス從テ債務者カ讓渡人ニ對シテ債權ヲ有スルモ讓渡ノ通知前未タ相殺ニ適セザリシモノノ如キハ之ニ包含セス

民法第四百六十八條第二項ノ場合ニ於テ債務者カ讓渡人ニ對シテ有スル他ノ債權ヲ以テ之ト相殺セントスルニハ債權讓渡ノ通知ノ當時既ニ雙方ノ債務カ相殺ヲ爲スニ適スルモノ即チ孰レモ同種ノ目的ヲ有シ且辨濟期ニ在ルコトヲ要ス

債務者カ債權讓渡人ニ對シテ債權ヲ有スルモ讓渡ノ通知前未タ相殺ニ適セザリシトキハ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス

○民法第四百六十八條第二項ノ場合ニ於テ辨濟期ニ在ラサル債務ハ債務者カ債權讓渡ノ通知ヲ受クルマテニ期限ノ利益拋棄ノ事實アルニ非サレハ未タ相殺ニ適セサルモノトス

六	一五〇
元	九五二
三八	三六七
四〇	七六九
四二	六三一
三	一〇一〇

(同旨)

債權讓渡ノ通知ヲ受ケタル時辨濟期末タ到來セザリシ場合ニ於テハ債務者カ其以前ニ期限ノ利益ヲ拋棄シタル事實アルニ非サレハ民法第四百六十八條第二項ニ所謂生シタル事由ト爲ラズ
相殺ノ意思表示ハ既往ニ遡リテ其效力ヲ生スルモ期限ノ利益ノ拋棄ハ斯ノ如キ遡及效力有セサルヲ以テ辨濟期ニ在ラサル債務ハ讓渡ノ通知アルマテニ期限ノ利益拋棄ノ事實アルニ非サレハ未タ相殺ニ適セサルモノト云ハサルヲ得ス

○債權ノ讓受人カ讓受債權ヲ以テ債務者ノ有スル反對債權ト適法ニ相殺ヲ爲シタル後ニ於テハ縱令債務者カ債權讓渡ノ通知ヲ受クル前讓渡人ニ對シテ相殺ニ適スル債權ヲ有シタリトスルモ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○虛偽ノ意思表示ニ基ク債權ノ讓受人カ善意ナルトキハ債務者ハ其債權ノ不成立ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得サルモノナレハ斯ル事由ハ民法第四百六十八條第二項ノ對抗事由ニ該當セサルモノトス

(同旨)

民法第九十四條第二項ノ規定ハ虛偽ノ意思表示カ物權ニ關スルト否トニ依リテ其適用ヲ異ニスヘキモノニ非ス從テ債權ヲ生セシムル意思表示ノ虛偽ナルコトハ同第四百六十八條第二項ノ所謂讓渡ノ通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由中ニ包含セス

民法第九十四條第二項ノ規定ハ虛偽ノ意思表示カ債權ノ發生ニ關スル場合ニモ之ヲ適用スヘキモノトス從テ債權ヲ生セシムル意思表示ノ虛偽ナルコトハ同第四百六十八條第二項ノ所謂讓渡ノ通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由中ニ包含セス

(反對)

虛偽ノ買賣契約ヲ締結シタル後賣主カ其假裝ノ債權ヲ他人ニ讓渡セル場合ニ於テハ其虛偽ノ意思表示ニ因ル無効ハ民法第四百六十八條ニ所謂讓渡ノ通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ナリトス故ニ買主ハ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得

虛偽ノ寄託契約ヲ締結シタル後寄託者カ其假裝ノ債權ヲ他人ニ讓渡セル場合ニ於テハ其虛偽ノ意思表示ニ因ル無効ハ民法第四百六十八條第二項ニ所謂讓渡ノ通知前讓渡人ニ對シテ生シタル事由ナリトス故ニ受寄者ハ讓受人ノ善意ナルト否トニ拘ハラズ此事由ヲ以テ對抗スルコトヲ得

○債權讓渡ノ通知ハ權利行使ノ要件ニ過キサレハ讓渡セラレタル債權ノ内容ハ其通知ノ時期如何ニ拘ハラズ讓渡契約ニ依リ定マルモノトス從テ債務者カ民法第四百六十八條第二項ノ抗辯ヲ主張セサル限り裁判所カ債務者ニ對シ債權ノ讓渡後其通知前ノ遅延利息ヲ讓受人ニ支拂フヘキ旨ヲ命スルモ違法ニ非ス

第四百七
十條

第四百七十條

○民法第四百二十三條舊商法第七百六十五條同第四百條及ヒ民法第四百

三五	元	四〇
七		
一四		
九五一		
四一八		
二二二		
六一九		

三	三七	三六	四
九六三			
五七			
八八一			
一一二			

七十條ハ約束手形ノ讓受人カ讓渡人ヲ強迫シ裏書讓渡ヲ爲サシメタルヲ原因トシテ而モ其手形ノ振出人ヨリ讓渡人ト讓受人トニ對シ讓受渡ノ取消ヲ求ムル場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス

〔第四百七十一條〕

○記名式所持人拂ノ債權ノ讓渡ハ證書ノ交付ノミニ因リテ其效力ヲ生スルモノナレハ債務者ハ無記名債權ニ於ケルト等シク其證書ニ記載シタル事項及ヒ證書ノ性質ヨリ當然生スル結果ヲ除クノ外讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ヲ以テ善意ノ讓受人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

(同義)

證書ニ債權者ヲ指名シタルモ其證書ノ所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル場合ニ於テハ其債權ハ單純ノ指名債權者クハ指圖債權ニ非ス又純然タル無記名債權ニモ非スシテ記名式所持人拂ナル特種ノ證券の權利ニ屬シ證書ノ交付ノミニ因リテ讓渡ノ效力ヲ生スルモノトス

〔第四百七十二條〕

○民法第四百七十二條ニ所謂原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由トハ相殺若クハ債務ノ免除又ハ其辨濟等ノ如ク債務ノ由テ生シタル法律行為ノ有效無効ニ影響ヲ有セスシテ單ニ其履行ノミニ影響スヘキモノヲ指稱ス

ノヲ指稱ス

○後見人カ親族會ノ同意ヲ得シテ被後見人ニ代リ約束手形ヲ振出シタル事由ハ手形債務ノ原因タル振出行爲ノ有效無効ニ影響ヲ及ホスヘキモノナルヲ以テ民法第四百七十二條ニ所謂原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ニ該當セス

第五節 債權ノ消滅

○當事者カ眞實不動産強制競賣ノ手續ニ依リ債權ヲ實行スルノ意思ニ非スシテ唯表面ノミニ據リテ其實行ヲ爲スモノノ如ク假裝シ後日他ノ方法ヲ以テ債權ノ辨濟ヲ了スル特約ヲ爲シタルトキハ縱令形式上競賣手續ヲ完結セシメタリトスルモ之ニ因リテ債權消滅ノ效ヲ生スルモノニ非ス

○當事者ノ一方カ第三者ニ對シ有スル債權ヲ以テ相手方ノ債權ト相消シ之ニ因リテ自己ノ債務カ消滅シタルモノト爲スニハ當事者雙方及ヒ第三者ノ契約ヲ以テシ相手方ノ承諾ヲ要スルモノニシテ當事者一方ノ意思表示ヲ以テ足ルヘキモノニ非ス

第一款 辨濟

○債務關係カ辨濟ニ因リ消滅シタル場合ニ於テハ縱令當事者カ異時舊債

三

七

五

二四五〇

四

九二一

三

七六

三

七五八

四

八七六

六

八八五

○債務ノ復活セシムヘキ意思表示ヲ爲スモ其行爲ハ新ナル債務關係ヲ發生スヘキ效力アルニ止マリ之カ爲メニ一旦消滅シタル債務關係ヲ復活セシムルコトヲ得ス

三七

一五三五

○債務ノ辨濟又ハ其提供ハ第三者ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ原則トスルモ第三者カ債務者ノ代理人トシテ之ヲ爲ス場合ハ必ス適法ニ代理權ヲ有スルコトヲ要スルモノトス

二

九八六

○債務内容ノ實現ニ因ル債權ノ消滅ハ意思表示ノ效果ニ非サルヲ以テ後日ニ至リ意思表示ヲ以テ其效果ヲ滅却シ得サルモ代物辨濟ハ契約ナルカ故ニ後日ニ至リ當事者ノ契約ヲ以テ其效力ヲ動カスコトハ公ノ秩序善良ノ風俗ニ反セサル限り妨ナキモノトス

四

一八七一

○法律上給付ヲ爲スノ義務アルカ爲メ無償ニテ財産ヲ與フル契約ヲ爲シタルトキハ其財産ヲ與フルハ止ムヲ得サルニ出ツルモノニシテ單純ニ相手方ニ財産ヲ移轉スルノ意思ニ基キタルモノニ非サレハ贈與契約ナリト謂フヲ得ス而シテ如上ノ契約ハ或ハ辨濟若クハ代物辨濟タルコトアリ或ハ一種ノ無名契約タルコトアルモノトス

五

一四五〇

○貸金債權ノ辨濟ヲ確保スル爲メニ小切手ヲ振出シタル場合ニ於テ先ツ手形權利ヲ行使スルト又ハ之ヲ行使セスシテ貸金債權ヲ行使スルトハ

債權者ノ任意ニ存シ手形權利ヲ行使シタル後ニ非サレハ貸金債權ヲ行使スルコトヲ得サルモノニ非ス

五

一八二六

○如上ノ場合ニ債權者カ其小切手ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ債務者ニ對シテ更ニ貸金債權ヲ行使スルコトヲ得スト雖モ手形金ノ支拂ハレサル限り債權者ハ償還義務ニ服スヘキヲ以テ讓渡ノ一事ニ因リテ貸金債權カ當然消滅スヘキモノニ非ス

五

一八一六

○債務者カ既存ノ債務ニ關シ債權者ニ約束手形ヲ裏書讓渡スルハ代物辨濟若クハ更改ナルコトアリ又支拂ノ爲メナルコトアリテ其何レナルヤハ各場合ニ於ケル當事者ノ意思ヲ解釋シテ之ヲ決スヘキモノトス從テ更改ノ意思ナキニ拘ハラス當然更改ナリト爲スヲ得サルハ勿論他ノ意思ノ認ムヘカラサルノ故ヲ以テ更改ノ意思ナリト推定スルヲ得ス

六

九四九

○甲カ丙ヨリ係争貸金ヲ取立テタルト否トニ拘ハラス自ラ乙ニ其辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ明言シタルトキハ特別ノ事情存セサル以上ハ一應乙トノ間ニ斯ル義務ヲ負擔スヘキ契約ノ成立セルモノト推定スヘキモノニシテ如上ノ言ヲ爲シタル日カ該貸借ノ成立後ニ在ルコトハ此推定ト相容レサルモノニ非サルモノトス

六

九九〇

○講會ノ代表者タル資格ニ於テ有スル權利ハ其代表者個人ノ權利ト性質

○ヲ異ニスルヲ以テ自由ニ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得サルノミナラス
縱令講員ト雖モ講關係以外ノ法律關係ニ於テ其代表者ニ對シテ有スル
債權ノ辨濟ニ之ヲ充ツルコトヲ得サルモノトス

○既存ノ債務ニ付キ約束手形ヲ發行シタル場合ニ於テ其債務カ更改ニ因
リテ消滅シタリヤ否ヤハ之カ決定ヲ當事者ノ意思ニ求ムヘク當事者ノ
意思不明ナルトキハ既存債務ノ辨濟ヲ確保スル爲メ該手形ヲ發行シタ
ルモノト認ムヘキモノニシテ之ニヨリ當然債務ノ更改アリト爲スヲ得
サルモノトス

(參照)

月賦返濟ノ約定ニシテ辨濟期限ノ到來セサルニ一時ニ辨濟スヘキ義務アリト裁判スルニ付テ
ハ其理由ヲ說示セサルヘカラス
原院ノ判旨ハ未丁年者ノ管理人ニ不動産ヲ處分スル權アリト云フニ非スシテ繼承シタル債務
ヲ其抵當ヲ以テ辨濟シタルモノ即チ未丁年者ノ利益ノ爲メニ爲シタルモノナレハ之ヲ不法ト
云フヲ得ス

町村長ハ區ノ行政事務ヲ管理スル權限ヲ有スト雖モ區ノ出納及ヒ會計ノ事務ニ至テハ自ラ之
ヲ處理スルノ權限ナシ故ニ區ニ對スル債務者ヨリ町村長ニ爲シタル金圓ノ交付ハ縱令債務辨
濟ノ意思ヲ以テスルモ辨濟ノ效力ヲ生セス

第四百七十四條

『第四百七十四條』

○債務ノ引受トハ通常第三者カ辨濟期日ニ至リ主債務者ニ代リテ債務ヲ
辨濟スルコトヲ約スルノ謂ナリ故ニ其契約ニ因リ主債務者ハ當然引受
額ニ相當スル金品ヲ引受者ニ對シテ直ニ給付スヘキ債務ヲ負フモノニ
非ス

○第三者カ債務者ニ對シテ豫メ其債務ヲ辨濟スヘキ旨ヲ約スル契約ハ有
效ナルヲ以テ第三者カ其約旨ニ基キ辨濟ヲ爲ササルトキハ債務者ニ對
シテ不履行ノ責アルコトヲ免レス

○當事者以外ノ第三者カ債權者ニ對シ債務者ニ代リテ辨濟ヲ爲スヘキ豫
約ヲ爲シタル場合ニ於テハ債務者ノ反對ノ意思表示ナキ限り其契約ハ
有效ニシテ賣買ノ豫約ノ如ク更ニ當事者ノ一方ヨリ契約ヲ完結スル意
思表示ヲ爲ス必要ナシ

○寺院ノ檀徒總代カ寺院ノ爲メニ自ラ爲シタル金圓貸借行爲ニ付キ其寺
院ニ於テ之カ債務ヲ負擔スルニハ自ラ債務ノ引受ヲ爲スカ又ハ債務者
ノ交替ニ依ル更改契約ヲ締結スヘキモノニシテ無權代理ノ法理ヲ以テ
此關係ヲ律スルコトヲ得サルモノトス

○民法第四百七十四條第二項ハ利害ノ關係ヲ有セサル第三者カ債務者ニ
代リテ爲シタル辨濟ノ有效タルニハ辨濟當時債務者ノ意思ニ反セサル

六

一八八

七

二〇七

二六

二九

二七

二二四

三六

六七八

三六

一〇六

四〇

二二九

四五

一七〇

五

一三三

コトヲ必要トスル法意ニシテ債務者カ債權者又ハ第三者ニ對シ辨濟前
豫メ反對ノ意思ヲ表示スルニ非サレハ債務者ニ於テ第三者ノ辨濟ヲ欲
シタルト否トヲ問ハス有效トスル旨趣ニ非ス

○第三者ノ辨濟當時債務者カ其第三者ノ辨濟ヲ欲セザリシヤ否ヤハ債務
ノ性質當事者ノ關係其他辨濟前後ニ於ケル諸般ノ事情ニ依リ判定スヘ
ク若シ爭アルトキハ第三者ニ於テ其辨濟カ債務者ノ意思ニ反セサルコ
トヲ立證スル責アルモノトス

(參照)

他人ノ債務ヲ消滅セシムルノ目的ヲ以テ自ら代テ辨濟ノ義務ヲ約スルコトハ其代位ノ爲メナ
ルト單ニ原債務者ニ満足ヲ與フルノ目的タルトニ論ナク苟モ契約ノ能力ヲ有スル以上ハ法理
上有效ニ爲シ得ヘシ

凡ソ他人ノ行爲ヨリ生スル損害ヲ引受辨償セントスル身元引受人若クハ引受辨償人ノ如キハ
當然保證人ノ位地ニ立ツヘキモノニ非スシテ寧ロ當初ヨリ第三者ニ代リ自ら其責ニ任スルヲ
通例トス

第四百七十五條、第四百七十七條

○質權者カ質權ノ實行ニ因リテ質物ノ換價代金ヲ受取リタルモノニ非ス
トスルモ其辨濟受領ノ當時平穩公然善意無過失ニテ之ヲ占有シタルモ
ノトセハ之ヲ交付シタル債務者ニ於テ該金錢ハ自己ノ所有ニ非ストノ

(第四百七十五條、
第四百七十七條)

理由ヲ以テ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百七十八條

○債權ノ準占有者ニ對スル辨濟ハ辨濟者ノ無過失ナルコトヲ要セサルヲ
以テ其辨濟ノ效力ヲ定ムルニ付キ過失ノ有無ヲ決スルノ要ナシ

(刑)

○甲者カ乙者ナリト冒稱シテ發信人ヲ欺罔シ丙銀行ヨリ若干金ヲ受取ル
ヘキ旨ノ電報送達紙ヲ騙取シタル場合ト雖モ乙者ハ之ニ因テ該金圓ヲ
受取ルヘキ債權ヲ取得スルカ故ニ甲者ニシテ現ニ其權利ヲ證明スヘキ
送達紙ヲ占有シ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ其債權ヲ行使スルトキハ
民法第四百七十八條ニ所謂債權ノ準占有者ニ該當セルモノトス

(刑)

○電報送達紙ヲ銀行ニ持參シテ電報送金ノ支拂ヲ求ムル者アルトキハ取
引銀行ノ電報案内ニ對照シ其持參人ヲ真正ノ債權者ト認メ直ニ支拂ヲ
爲スハ普通ノ慣例ナルカ故ニ特別ノ事情ナキ限ハ唯甲者カ受信人乙者
ナリト冒稱シ來リタルト電報送金受取證書ノ偽造ナリシ故ノミヲ以テ
該銀行ノ爲シタル支拂ハ善意ノ辨濟ニ非スト斷定スルヲ得ス

○中央金庫ニ供託シタル金錢ノ返還ヲ受クヘキ債權ニ對シ差押ノ上轉付
命令ヲ得テ其供託金ノ返還ヲ受ケタル者ハ該債權ノ準占有者ナリ
○差押又ハ假差押ニ依リ支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債權

元 七七一

元 八九

四二 一〇三三

四二 一〇三三

二 二三四

六 一六六一

六 一六六一

二六 九

二七 五三

者ニ辨濟ヲ爲スモ差押債權者ニ對シ其債權ノ消滅ヲ主張スルコトヲ得サルモノナレハ債權ノ準占有者ニ對シテ爲シタル辨濟ニ付テハ勿論其效力ヲ有セサルモノトス

○株主總會ノ決議ヲ經タル一定ノ利益配當金ヲ請求スル權利ハ債權ノ性質ヲ有スルニ依リ會社カ株式ノ準占有者ニ對シ善意ニテ利益配當金ヲ支拂ヒタル以上ハ縱令重大ナル過失アリトスルモ辨濟ノ效力ヲ生スルニ妨ナキモノトス

○民法第四百七十八條ハ債權ノ準占有者カ眞ノ債權者ニ非サル場合ニ於テモ之ニ對シテ爲シタル辨濟ヲ有效ナラシメ善意ノ辨濟者ヲ保護スル旨趣ニ出テタルモノナレハ眞ノ債權者ハ辨濟受領ノ準占有者ニ對シ不當利得返還ノ請求權ヲ有スルモ善意ニテ辨濟シタル債務者ニ於テモ同一ノ請求權ヲ有スルモノト解スヘキモノニ非ス
○指名債權ヲ事實上他人ヨリ讓受ケ自己ノ爲メ之ヲ行使スル者ハ債權ノ準占有者ナリトス

〔第四百七十九條〕

○民法第四百七十九條ノ場合ニ於テハ債權者ハ辨濟受領ノ權限ナキ者ニ爲シタル辨濟ヲ認容スルコトヲ要スルモノニ非ス又自己カ其辨濟ニ因

二 二四
二 二四
五 九五三
七 二二〇
七 二二〇

〔第四百八十條〕

○民法第四百八十條ハ受取證書ノ持參人ニ對シ善意無過失ニテ辨濟ヲ爲シタル債務者ヲ保護シ取引ノ安全ヲ保ツノ必要ニ出テタル規定ナレハ其所謂受取證書トハ債權者ノ名義ノ存スル證書ヲ指稱セルモノトス

〔第四百八十一條〕

○債權差押ノ競合スル場合ニ發シタル轉付命令ハ優先權ヲ有スル債權者カ得タル場合ノ外其效力ヲ生セサルモノナルヲ以テ差押ヲ受ケタル第三債務者カ右轉付命令ニ基キ拂渡ヲ爲シタルトキハ他ノ差押債權者ハ民法第四百八十一條第一項ニ依リ其損害ヲ受ケタル限度ニ於テ更ニ第三債務者ニ對シ辨濟ヲ請求シ得ルモノトス
○差押又ハ假差押ニ依リ支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲スモ差押債權者ニ對シ其債權ノ消滅ヲ主張スルコトヲ得サルモノナレハ債權ノ準占有者ニ對シテ爲シタル辨濟ニ付テハ勿論其效力ヲ有セサルモノトス

○民法第四百八十一條ハ其第一項及ヒ第二項共ニ債務者カ第三債務者ニ

三 五三
三 二〇一
四 二五三
二 二四

對シ差押ノ目的ト爲リタル債權ヲ有スルト同時ニ差押債權者ニ對シ差押ノ原因ト爲リタル債務ヲ負擔スルトキニ非サレハ之ヲ適用スルコトヲ得サルモノトス

(第四百八十二條)

『第四百八十二條』

○代物辨濟ノ場合ニ於テ引渡スヘキ物件ノ價額債務額ヨリ多クシテ餘金ヲ生スルトスルモ爲メニ代物辨濟ノ性質ヲ變スルコトナシ

○代物辨濟ハ賣買ニ非サルモノトス

○債務者カ第三者ニ對シテ有スル債權ヲ債權者ニ讓渡シテ其相當額ノ債務ヲ消滅セシムルハ辨濟ニ非スシテ代物辨濟ナリ

○代物辨濟ハ辨濟ノ如ク給付行爲ニ因ル債務ノ内容ノ實現ニ非スシテ本來ノ給付ニ非サル他ノ給付ヲ爲シ債權ヲ消滅セシムル契約ナリ

○債務内容ノ實現ニ因ル債權ノ消滅ハ意思表示ノ效果ニ非サルヲ以テ後日ニ至リ意思表示ヲ以テ其效果ヲ滅却シ得サルモ代物辨濟ハ契約ナルカ故ニ後日ニ至リ當事者ノ契約ヲ以テ其效力ヲ動カスコトハ公ノ秩序善良ノ風俗ニ反セサル限り妨ナキモノトス

○債權取立ノ代理權ヲ授與セラレタル者ハ債務者ニ對シ債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ノ請求ヲ爲シ之ヲ受領スルノ權限ヲ有スルモ債務者ノ代物

辨濟ヲ受諾スル權限ヲ有セサルモノトス

○或不動產ノ所有權カ未タ其半額ノ引渡ヲ受クヘキ債權ノ讓受人ニ移轉セサルニ先タチ之ヲ賣買ノ目的ト爲シ其代金ヲ以テ該債權ニ充當スルハ代物辨濟ニ外ナラスシテ異種ノ債權ニ對スル相殺ヲ認ムルモノニ非ス

○代物辨濟カ債務消滅ノ效力ヲ生スルニハ債務者カ本然ノ給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ現實ニ爲スコトヲ必要トシ他ノ給付ヲ爲スヘキコトヲ單ニ債權者ト約スルノミヲ以テ足ルモノニ非ス

○代物辨濟ニ於テ債務者ノ爲ス他ノ給付カ不動產所有權ノ移轉ナルトキハ當事者カ其意思表示ヲ爲スヲ以テ足レリトセス登記其他引渡行爲ヲ終了シ法律行爲カ當事者間ノミナラス第三者ニ對スル關係ニ於テモ全ク完了スルニ非サレハ代物辨濟ハ成立セサルモノトス

(第四百八十四條)

『第四百八十四條』

○民法施行前ニ成立シタル賃貸借契約ニ於テ辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別段ノ意思表示アラサルトキハ辨濟ハ債務者現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス

○賃貸借ノ場合ニ於テ毎辨濟期ニ賃料ノ支拂ヲ受クヘキ箇箇ノ權利ハ契

二	六	六	六	六
四五二	二九三	二九三	七六	二一〇

四	三	四	四	四
一八七	三三	一八七	五四	三四六

○約ノ當時直ニ發生スルモノニ非スシテ貸貸借ノ目的タル物ノ使用ニ應シ順次ニ發生スルモノナルモ其基本タル權利ハ契約ト同時ニ發生スルモノナルヲ以テ之ニ依リテ將來發生スヘキ箇箇ノ權利ノ辨濟ノ場所モ定マルモノトス

○債務ノ辨濟ハ債權ノ讓渡ニ因リ債權者ニ變更ヲ生シ從テ債權者ノ住所ニ變更ヲ來シタル場合ニ於テモ新債權者ノ住所ニ到リ之ヲ爲スヘキモノトス

第四百八十七條

(刑)

『第四百八十七條』

○債權證書ハ債權者カ債權證明ノ用ニ供スル爲メ債務者ヲシテ作成交付セシムルモノニ外ナラサレハ其所有權ハ當然債權者ニ存スルモノトス
○民法第四百八十七條ハ債權カ獨リ辨濟ニ因リ消滅シタル場合ニノミ適用スヘキモノニ非スシテ其旨趣ハ更改相殺免除其他ノ原因ニ因リ消滅シタル場合ニモ箝當シ得ヘキモノナレハ辨濟以外ノ原因ニ因リ債權全部消滅ニ歸シタル場合ニ於テモ債務者ハ債權證書返還ノ請求權ヲ有スルモノトス

○民法第四百八十七條ニ依リ債權證書返還義務ヲ有スル者ハ法文上何等ノ制限ナケレハ債權者ノミナラス第三者ト雖モ債權證書ヲ占有スル以

上之ニ對シ辨濟者ハ其證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

第四百八十八條

『第四百八十八條』

○利息制限法ニ定ムル制限外ノ利息ニ付キ辨濟ノ充當ヲ豫約スルコトハ其制限ヲ超過シタル部分ニ關テハ無効ナレトモ債權者カ其豫約ニ基キ辨濟ノ充當ヲ爲シタルニ對シテ債務者カ承認ヲ與ヘタルモノヲモ無効ト爲スヘキモノニ非ス

(參照)

二箇以上ノ債權存在スル場合其孰レノ債權ニ對シ辨濟シタルヤハ其辨濟ノ當時債務者ニ於テ之ヲ領收證ニ明記セシムヘク債權者ノ隨意ニ放任スヘカラサル條理ナリ

第四百八十九條

『第四百八十九條』

○手形債務者ハ滿期日後ニ於テモ手形ノ呈示ヲ伴フ支拂ノ請求若クハ裁判上ノ請求ヲ受ケサル限り遲滞ノ責ニ任セスト雖モ滿期日以後適法ノ請求アルトキハ何時ニテモ支拂ヲ爲ササルヘカラサルモノナレハ其債務ハ辨濟期ニ在ルモノトス

○辨濟期ノ定ナキ債務ニ在リテハ債權者ハ何時ニテモ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルヲ以テ其債務ハ常ニ辨濟期ニ在ルモノトス

(同主旨)

六	六	二八	三	六
一六八	六七五	一五三	二三八	一三一

四	六	四三	七	二
一八〇	一七〇	一四二	四五一	

○辨濟期ノ定ナキ債權ハ債權者ニ於テ何時ニテモ之カ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ヘク其辨濟期ノ到來スルニハ特ニ債務者ヲ遲滞ニ付スルノ要ナキモノトス

○辨濟期ノ定ナキ債務二箇アルトキハ債務發生ノ日時早キモノヲ以テ先ツ辨濟期ニ至リタルモノト解スルヲ相當トス

○債務者カ同一ノ債權者ニ對シテ單純債務ト連帶債務トヲ負擔シ孰レモ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ當事者カ辨濟ノ充當ヲ爲ササリシトキハ其辨濟ハ之ヲ單純債務ニ充當スヘキモノトス

○利息附債權ハ無利息ノ債權ニ比シ民法第四百八十九條第二號ノ債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益多キモノト謂フヘク無利息債權ニ付キ債務者カ訴訟ヲ提起セラレタル偶發ノ事情ノ如キハ之ヲ問フコトヲ要セサルモノトス

○總債務カ辨濟期ニ在ル場合又ハ辨濟期ニ在ラサル場合ニ於テ其債務中ニ高率ノ利息附債務ト低率ノ利息附債務トアルトキハ擔保ノ有無ニ拘ハラス先ツ前者ニ付キ辨濟ヲ爲スヲ以テ債務者ノ爲メ利益多キモノトス
○如上ノ場合ニ於テ民法第四百八十九條ニ依リ辨濟ノ充當ヲ爲スニハ先ツ高率ノ利息附債務ニ付キ辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

○債務者カ數箇ノ債務ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタル場合ニ於テ總債務孰レモ辨濟期ニ在リ且同一物件ヲ以テ共ニ擔保ノ目的トシ其何レヲ先キニ辨濟スルヤニ付テ何等ノ利益ヲ有セサルトキハ民法第四百八十九條第三號ニ從ヒ辨濟期ノ先キニ至リタル債務ノ辨濟ニ充當セサルヘカラス

(參照) 二箇ノ債務アリテ其辨濟ノ方法順序ニ付キ爭ナキトキハ入金ハ先ツ其成立ノ最モ當キ債務ニ充當スルヲ當然トス

第四百九十一條

○民法第四百九十一條ニ所謂利息ハ遲延利息ヲモ包含セルモノトス
○制限外ノ利息ニ關スル契約ハ無効ナルカ故ニ法律上ノ充當ノ場合ニ於テ制限外ノ利息ニ付キ有效ニ充當シ得ルモノト爲シタル判決ハ不法ナリ
○債務者カ元本ノ外利息ヲ支拂フヘキ場合ニ於テ債務ノ辨濟ニ供シタル金額ノ利息額ヲ超過シタル部分ハ特ニ反對ノ意思表示ナキ以上ハ當然元本ニ充當セラレルモノトス
○債務者カ違算ノ結果利息額ヲ過多ニ計上シ從テ元本ニ充當スヘキ金額

五

一二五

六

一六六八

四〇

二〇〇〇

七

一九八七

七

二二一九

七

三二一九

三七

六五一

三〇

四

六三

三七

七

四三

九二

六

七

ヲ過少ニ計上シテ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ現實ノ利息額ニ超過シタル金額ハ之ヲ別途ニ支拂フ意思ナキヲ以テ法律上當然元本ニ充當セラレタルモノニシテ從テ債權者ニ對シ其利息額ニ超過シタル金額ヲ以テ不當利得トシ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

六 六
六 七

○如上ノ法則ハ債權者カ競賣裁判所ヨリ利息及ヒ元金ノ配當ヲ受クル場合ニ於テモ準據スヘキモノトス

六 六
五九一

○一箇ノ債務ニ付キ元本ノ外利息ヲ支拂フヘキ場合ニ於テ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ元本ハ辨濟期ニ在リテ利息ハ辨濟期ニ在ラサル場合ト雖モ之ヲ以テ先ツ利息ニ充當シ次ニ元本ニ充當スヘキモノニシテ辨濟者又ハ債權者ハ其順位ヲ指定スルコトヲ得サルモノトス

六 六
二二六

○一箇ノ債務ノ利息ニシテ辨濟期ノ至リタルモノ數箇存スル場合ニ於テ債務者カ元本利息ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ民法第四百九十一條第一項ニ依リ先ツ利息ニ充當スヘク利息相互間ニ於テハ同條第二項同第四百八十九條ニ依リ充當スヘキモノトス

七 七
二二六

○民法第四百九十一條第二項ハ各債務ノ費用相互利息相互元本相互ノ充當方法ニ付キ同法第四百八十九條ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ定メタルモノニシテ數箇ノ債務ノ元本ノ間ニノミ若クハ費用利息及ヒ元本ノ間ニハ同條ヲ準用スヘキモノニ非ス

四 四
二二五

○保證附債務ハ單純債務ニ比較シテ債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益多キモノト謂フヲ得ス

七 七
三三六

○利率ノ相違ハ延滞利息ノ支拂ニ付キ常ニ必スシモ債務者ノ爲メニ利害ヲ異ニスルモノト謂フヲ得ス

七 七
三三六

(參照)

利息附貸金ニ對スル辨濟ハ先ツ其利子ノ償却ニ充ツルヲ以テ普通ノ條理トス從テ返濟期限前ノ入金ト雖モ既ニ利子ノ生シタルトキハ其支拂ニ充當スルヲ當然トス

三〇 四
一九

第四百九十二條

○消費貸借ノ場合ニ於テハ借主ハ辨濟ノ提供ヲ爲シタル時ヨリ遅延利子ヲ支拂フヘキ義務等ヲ免ルルモ主タル債務ハ其提供ノミニ依テ之ヲ免ルヘキモノニ非ス

三六 三六
一八四二

○債權者ノ主張スル債權額カ現實ノ債務額ニ超過スルコトアルモ債務者

○ハ辨濟ノ提供ノミヲ以テ強制執行ヲ免ルヘキモノニ非ス
 ○買主カ賣買殘代金ニ利息ヲ付シ登記ト同時ニ之ヲ支拂フヘキコトヲ約シタル場合ニ於テ代金辨濟ノ提供ヲ爲シ賣主ヲ遲滞ニ付シタルトキハ爾後利息ノ支拂ヲ免ルヘキモノナレハ裁判所カ契約ニ基ク利息ノ請求ニ付テハ懈怠ノ有無ヲ問フノ要ナキカ如ク判示シタルハ失當ナリ

『第四百九十三條、第四百九十四條』

○供託ハ辨濟ノ提供ヲ爲セハ足ルヘキ場合ニ於テハ之ヲ爲スヲ要セス
 ○當事者カ郵便爲替券ノ送付ヲ以テ金員辨濟ノ方法ト爲シタル場合ニハ債務者ニ於テ現實ニ爲替券ヲ債權者ニ送付シ債權者之ヲ受領セル以上ハ債務者ハ正シク辨濟ノ提供ヲ爲シタルモノトス
 ○債權者カ豫メ辨濟ノ受領ヲ拒絕シタル場合ト雖モ辨濟者ハ適法ノ提供ヲ爲シ辨濟ノ受領ヲ拒絕セラレタル時ニ在ラサレハ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得ス
 ○債權者カ債務者ニ對シ債權ノ目的タル給付ノ受領ヲ拒ミタル場合ニ債務者カ目的物ノ供託ニ因リテ其債務ノ免脱ヲ得ルカ爲メニハ給付ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲シ之ヲ債權者ニ通知シ債權者ヲシテ之ヲ受領スルコトヲ得セシムヘキ状態ヲ作爲スルコトヲ要スルヲ通則トス

第四百九十三條、第四百九十四條

三六	一八四二
三五	八〇五
三九	二二三
四〇	五七六
四五	六八四

○如上ノ通知ハ何等特別ノ事情ノ存セサル通常ノ場合ニ於テハ之ヲ必要トスルモ其通知ヲ必要トセス又ハ通知ヲ爲スモ其效ナキコト明確ナル場合ニ於テハ特ニ之ヲ爲スコトヲ要セス直ニ供託ヲ爲シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得ルモノトス
 ○第三者カ債務者ノ代理人トシテ債權者ニ對シ目的物ノ引渡ヲ爲サントスル場合ニ於テ債權者カ其代理權ヲ否認スルモノヲ以テ直ニ目的物ノ引渡ヲ受クルコトヲ拒絕シタルモノト云フコトヲ得ス
 ○一箇ノ債務ニ付キ元本ノ外利息及ヒ費用ノ存スルトキハ債務者ハ其全額ヲ提供スルニ非サレハ債務ノ本旨ニ從テ履行タラサルカ故ニ債權者ハ之カ受領ヲ拒絕シ得ヘク從テ債務者カ其提供ノ目的物ヲ供託スルモ債務ノ一部免脱ノ效果ヲ生セサルモノトス

(同三三)

一部辨濟ノ提供ハ債權者ノ承諾ナキ限り債務ノ本旨ニ從ヒテ爲ス辨濟ノ現實ナル提供ト爲ラサルモノナレハ債權者カ之カ受領ヲ拒ミタル爲メ債務者ニ於テ之ヲ供託スルモ其供託シタル部分ニ相當スル債務ヲ免ルルヲ得サルモノトス

○然レトモ利息及ヒ費用ノ債務モ亦性質上元本ト分割シ得ヘキモノナレハ債權者債務者間ノ合意ニ依リ此等各箇ノ分割支拂ヲ約シタルトキハ

四四	八〇八
四	二〇四
二	九八六
四五	六八四

自ラ前項ト反對ノ效果ヲ生スルモノトス

四

二〇四

○如上ノ登記ヲ爲スヘキコトヲ目的トスル契約ハ有效ナルノミナラス當事者ノ一方カ相手方ニ對シ登記ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ催告シタルトキハ辨濟ノ提供トシテ有效ナルコト論ヲ竣タス(不動産登記法五年一七〇二頁參照)

五

一七〇二

○辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ爲スコトヲ要スルカ故ニ相手方カ債務ノ履行トシテ提供シタル辨濟ノ目的物カ契約上ノ數ニ不足ナルトキハ提供ノ效ナキヲ以テ尙ホ債務不履行ノ責ニ任スヘキモノトス

六

三四三

○債務者カ其利益ノ爲メニ設ケラレタル債務辨濟ノ期限ノ利益ヲ拋棄シテ期限前ニ賣買ノ殘代金及ヒ同月迄ノ利息ノ辨濟ヲ提供シタルトキハ其提供ハ適當ニシテ債權者ニ於テ之ヲ受領セサルニ因リ債權者ハ遲滯ノ責ニ任スルト同時ニ債務者ハ右提供金額ヲ供託シテ債務ヲ免ルルコトヲ得ヘク期限迄ノ利息ノ辨濟ヲ提供スルコトヲ要セサルモノトス

七

六三三

○賣買立木ノ引渡ヲ爲シタル後代金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ニハ立木引渡ノ債務ト代金支拂ノ債務ハ引換ニ之ヲ履行スルモノニ非スシテ立木債務ノ履行アリタル後茲ニ始メテ代金債務ノ履行期到來スルモノトス從テ引渡債務ニシテ履行セラレサル以上ハ縱令其辨濟ノ提供ヲ爲スモ之

ニ依リテ直ニ代金債務ノ履行期到來スルモノニ非ス

七

八〇二

○代金支拂債務ノ履行ニ付キ債權者ノ協力ヲ要スル場合ニ於テ債務者カ契約ノ本旨ニ從ヒ辨濟ヲ爲スヘキ手續ヲ盡シタルニ拘ハラズ債權者ノ行為ニ因リテ實物ヲ提供シテ受領ヲ催告スルニ由ナキトキハ右ノ事實ヲ以テ辨濟ノ提供アリタルモノト謂フヘク更ニ代金ヲ準備シタルコトヲ債權者ニ通知シテ其受領ヲ催告スルコトヲ要セサルモノトス

七

一一六六

(同主旨)

債務者カ契約ノ本旨ニ從ヒテ辨濟ヲ行フ爲メニ目的物ヲ携ヘ辨濟ノ場所ニ赴キタルモ債權者ノ行為ニ因リ辨濟ヲ遂ケ能ハサル場合ニ於テハ債務者ハ現實ニ辨濟ノ手續ヲ盡シタルモノトス從テ辨濟ノ提供アリタルモノト爲スヘキハ當然ナリ

三六

三四九

○民法第五百八十三條ハ辨濟ノ提供ニ關スル同法第四百九十三條ノ適用ヲ除外スルモノニ非サレハ買主ニ於テ豫メ買戻代金及ヒ契約ノ費用ノ受領ヲ拒絕スルノ意思ヲ表示シタルトキハ賣主ハ買戻權ヲ實行スルニ付キ現實ニ代金竝ニ契約ノ費用ヲ提供スルコトヲ要セス其辨濟準備トシテ認ムルニ足ルヘキ行為ヲ爲シタルコトヲ買主ニ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ルモノトス

七

二二六四

○民法第四百九十三條但書ニ所謂辨濟ノ準備ヲ爲ストハ必スシモ現實ニ

○資金ヲ調達シ之ヲ握有スルコトヲ要セスシテ縱令銀行業者トノ資金借
受ノ豫約ニ過キサレモ債權者カ受領ヲ申出ツルニ於テハ何時ニテモ現
實辨濟ヲ爲シ得ル程度ニ確實ニ資金調達ノ途ヲ立テ置クヲ以テ足ルモ
ノトス

第四百九十九條

『第四百九十九條』

○租税ノ納付ハ民法上ノ辨濟ニ非サレハ義務者ニ代テ租税ヲ納付シタル
者ハ民法ノ規定ニ從ヒテ國庫ニ代位スルコトヲ得ス而シテ其代納者カ
義務者ノ財産ニ付キ利害關係ヲ有スルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

第五百條

『第五百條』

○保證人ハ主タル債務ノ辨濟ヲ爲スニ付キ正當ナル利益ヲ有シ其辨濟ニ
因リテ當然債權者ニ代位シ債務者ノ有スル抵當權ニ付キ其權利ヲ行フ
コトヲ得ルモノナルカ故ニ債權者ハ其抵當權設定ノ登記又ハ假登記ノ
手續ヲ爲シ以テ保證人ノ有スル代位權ノ行使ヲ安固ナラシムル注意義
務ヲ有スルモノトス

(參照)

債務者ノ利害關係人カ債務者ニ代リ其債務ヲ辨濟シタルトキハ當然債權者ノ權利ニ代位スル
モノトス

○保證人カ債務ヲ辨濟シタルトキハ當然其債權者ノ權利ニ代位スヘキハ當然ノ條理ナルニ依リ
裁判所カ其代位辨濟ノ事實ヲ認メ且請求者モ事實上代位辨濟ヲ理由トシテ請求セルコト明カ
ナルニ拘ハラズ特ニ代位訴訟ヲ主張セザリシ理由ヲ以テ債權者ト同一ノ請求ヲ爲スコトヲ不
當ナリトスル裁判ハ不法ナリ

第五百一條

『第五百一條』

○保證人カ代位スヘキ權利ハ其保證ヲ約シタル當時現在スルモノニ限ラ
スシテ其後債權者ノ取得シタル權利ヲモ包含スルモノトス
○連帶債務者六名アル場合ニ於テ其一人カ債權者ヨリ債權ノ讓渡ヲ受ケ
タルニ因リ債權者ニ代位シテ他ノ債務者各自ニ對シ行使シ得ヘキ權利
ノ範圍ハ全債權額ノ六分ノ一ナリトス
○代位辨濟ヲ爲シタル者ハ自己ノ權利ニ基キ求償ヲ爲スコトヲ得ル範圍
内ニ於テ其債權者カ有セシ權利ヲ行フコトヲ得ルニ過キス故ニ代位者
ヨリ其權利ヲ讓受ケタル者カ債務者ニ對シテ爲シタル支拂請求ノ當否
ヲ判斷スルニ付テハ其請求額中代位者ノ出捐シタル金額ヲ超エサル範
圍ニ於テノミ之ヲ是認スルコトヲ得ヘキモノトス
○自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者カ辨濟ヲ爲シタル場
合ニ於テハ其債務ノ保證人ニ對シ當然頭數ニ應シテ債權者ニ代位スル

七	二三八
三七	一五四
六	二九七
二九	六〇
三〇	一一五
三四	三五
三	二七三
五	二四二

第五百三條

ヲ得ルコトハ民法施行前ニ在リテモ行ハレタル法則ナリトス
○民法第五百三條第一項ニ依リ債權者カ債權ニ關スル證書ヲ代位辨濟者ニ交付スルコトヲ要スルハ代位辨濟ニ依リ債權全部ノ辨濟ヲ受ケ主債務者ノ債務カ全部消滅シタル場合ニ限ルモノトス

第五百四條

○債權者カ擔保物ヲ減少シタル場合ニ於ケル保證人ノ免責ノ限度ハ保證人カ債權者ニ對シ辨濟ヲ爲ササルヘカラサル時期ニ於ケル擔保物ノ價額ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

○民法第五百四條ハ抵當債權ノ保證人又ハ抵當不動産ノ第三取得者アル場合ニ於テ債權者カ故意又ハ懈怠ニ因リ他ノ擔保ヲ喪失又ハ減少シ辨濟ニ因リテ代位スヘキ保證人等ノ權利ヲ害シ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ保證人等ヲシテ其害ヲ受クヘキ限度ニ於テ責任ヲ免レシメ以テ之ヲ保護セントスルノ趣意ナリトス

○抵當不動産ノ第三取得者ハ辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ナルヲ以テ民法第五百四條ニ規定スル免責ノ利益ヲ享クヘキモノトス
○民法第五百四條ハ擔保ノ喪失又ハ減少カ無條件ニテ行ハレタルト否

四三	七五〇
五	二四三四
三五	九
三元	一〇五三
四〇	五一九

ヲ區別セサレハ縱令債權者カ一部辨濟ヲ受ケテ之ヲ行ヒタル場合ト雖モ辨濟ニ因リテ代位ヲ爲スヘキ者ハ喪失又ハ減少シタル擔保ノ價格ニ應シ其責ヲ免ルルモノトス

○民法第五百四條ニ所謂故意トハ擔保ノ喪失又ハ減少ノ故意ヲ指稱スルモノニシテ同條ニ規定セル結果即チ代位ヲ爲スヘキ者ノ免責ヲ豫見シタルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス

○民法第五百四條ニ規定スル所ノ擔保ハ法律ノ規定ニ因ルト契約ニ因ルトヲ問ハス物上又ハ對人擔保ヲ謂フモノニシテ所謂一般擔保即チ債務者ノ財産ニシテ一般債權者ノ辨濟ノ資ニ供セラルルモノヲ謂フニ非ス
○保證人ハ主タル債務ノ辨濟ヲ爲スニ付キ正當ナル利益ヲ有シ其辨濟ニ因リテ當然債權者ニ代位シ債務者ノ有スル抵當權ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得ルモノナルカ故ニ債權者ハ其抵當權設定ノ登記又ハ假登記ノ手續ヲ爲シ以テ保證人ノ有スル代位權ノ行使ヲ安固ナラシムル注意義務ヲ有スルモノトス

○債權者カ如上ノ義務ニ違背シ抵當權設定ノ登記又ハ假登記ヲ怠リタルニ因リ擔保權ノ喪失ヲ來シタルトキハ保證人ハ其抵當權ノ喪失ニ因リ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル限度ニ於テ保證ノ責ヲ免ルルモ

四〇	五一九
四〇	五一九
元	八七九
六	二九七

ノトス

第二款 相殺

- 賦與金下付ノ後之ヲ取回センカ爲メ復祿處分ニ因リテ廢祿者カ得ヘキ祿高ト相殺シタル行爲ハ私法上ノ行爲ニシテ行政處分ニ非ス
- 相殺スヘキ債務ヲ負擔セサリシコトヲ理由ト爲シ相殺ノ不當ナルコトヲ主張スル如キハ從前ノ債權カ相殺ノ爲メ消滅セサルコトヲ主張スルニ外ナラサルニ付キ其債權ノ辨濟ヲ請求スルハ格別ナルモ相殺ニ因リ控除シタル物ヲ不當利得トシテ之カ返還ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス
- 法律上ノ相殺ニ於テハ無効ノ債權ハ之ヲ相殺ノ用ニ供スルヲ得サルモノナレハ利息制限法超過部分ノ利息ニ付テハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス
- 或不動産ノ所有權カ未タ其半額ノ引渡ヲ受クヘキ債權ノ讓受人ニ移轉セサルニ先チ之ヲ賣買ノ目的ト爲シ其代金ヲ以テ該債權ニ充當スルハ代物辨濟ニ外ナラスシテ異種ノ債權ニ對スル相殺ヲ認ムルモノニ非ス
- 手形債權者カ手形債務者ニ對シテ負擔スル債務ト手形債權トヲ相殺スル場合ニ於テハ商法第四百八十三條ノ準用ニ依リ手形ノ交付ヲ要スルモノト解スルヲ相當トス
- 假裝ノ法律行爲ニ基ク虛偽ノ債權ヲ真正ノ債權ナリトシテ讓渡シタル

六	二一九七
三	六一三
二	一七三
七	一九四七
六	七三六

第五百五條

ニ因リ善意ノ債權讓受人カ其債權ヲ相殺ニ利用シ之ニ依テ自己ノ債務ヲ消滅セシメタル場合ニ於テハ虛偽ノ債權ノ讓渡ト債務消滅トノ間ニ因果關係アリト認ムヘキモノトス

『第五百五條』

- 損害ノ賠償金ハ其損害ノ生シタル時ニ於テ既ニ賠償スヘキ義務ヲ負擔スルモノナレハ其辨濟期ハ即チ其損害ヲ生シタル時ニ於テ到來セルモノナリ
- 寺院ノ住職タル者カ在職中自己ノ私財ヲ以テ其寺院ノ爲メニ必要ナル費用ヲ立替ヘ置キ後日什金ヲ以テ辨濟ヲ受ケントスル場合ニハ宗規所定ノ手續ヲ經ルコトヲ要ス從テ其立替金ノ債權ト什金返還ノ債務トハ相殺スルコトヲ許サス
- 金錢ノ消費貸借ノ豫約ニ基キ豫約者ニ對シ相手方ノ有スル債權ハ金錢ノ支拂ニ因リ消費貸借ヲ成立セシムルコトヲ目的トスル債權ニシテ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ニ非ス從テ豫約者ノ相手方ニ對シテ有スル金錢給付ノ反對債權ヲ以テ之ト相殺ヲ爲スコトヲ得ス

(同主旨)

消費貸借豫約ノ場合ニ於ケル豫約者ノ債務ハ消費貸借ヲ成立セシムヘキ債務ナルヲ以テ相手

七	一九九三
三	二七
四	五二二
二	四五六

方カ豫約者ニ對シ有スル請求權ノ實質ハ金錢其他ノ代替物支拂ノ債權ニハ非スシテ消費貸借ヲ成立セシムルノ債權ナリトス從テ相手方ハ豫約者ニ對シ自己ノ負擔スル金錢其他ノ代替物給付ノ債務ト相殺スルヲ得ス

○保證人ハ種種ナル抗辯ヲ爲スノ權利ヲ有スルヲ以テ保證債務ハ其抗辯權ノ附著スル間ハ性質上相殺ニ適セサルモノトス

○債權ノ讓受人カ讓受債權ヲ以テ債務者ノ有スル反對債權ト適法ニ相殺ヲ爲シタル後ニ於テハ縱令債務者カ債權讓渡ノ通知ヲ受クル前讓渡人ニ對シテ相殺ニ適スル債權ヲ有シタリトスルモ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○頼母子講ノ落札講員カ講關係以外ノ法律關係ニ於テ敷札人ニ對シテ有スル債權ト敷札人カ該講員ニ對シテ有スル落札金ノ掛戻ヲ求ムル債權トハ其性質上相殺ニ適セサルモノトス

○當事者ノ一方カ訴訟費用ノ辨濟ヲ求ムル權利ハ公法ノ規定ニ依リテ發生シタルモノナリト雖モ其性質タル私法上ノ金錢債權ノ一種ニ外ナラサレハ民法ノ規定ニ從ヒ相殺ノ主張ヲ許スモノト解スルヲ相當トス

(參照)

貸金ト預金トハ五ニ相殺シ得ヘキモノトス

四	三	四	四	三	四
二五	七	四	四	三	二五
六五	一九七	二四九	四八	九三	二五八

(第五百六條)

『第五百六條』

○相殺ノ抗辯ヲ答辯書ニ記載シテ相手方ニ送達シタルトキハ相殺ノ意思表示トシテ有效ナリ

○民法第五百六條第一項ニ所謂相手方トハ意思表示ヲ爲ス債務者カ自己ノ債務ヲ履行スヘキ其人ヲ指稱ス從テ同法第四百六十八條第二項ノ場合ニ於ケル讓受人ノ如キモ亦之ニ包含セラルルモノトス

○被告カ原告ニ對シ相殺ニ適スル債權ヲ有スルモ口頭辯論終結前相殺ノ意思表示ヲ爲サザリシトキハ未タ債務消滅ノ事由發生セザリシモノナレハ敗訴ノ判決確定後ニ至リ相殺ノ意思ヲ表示シ以テ其債務ヲ消滅セシムルコトヲ得

○貸借ノ利息申利息制限法超過部分ノ債權ト將來物品ノ賣却ニ因リ生スヘキ代金ノ債權トヲ相殺スヘキ旨ノ豫約ハ利息制限法ノ禁止規定ニ違反スルヲ以テ無効ナリ從テ右賣却代金ノ發生シタルニ際シ相殺ノ意思表示ヲ爲スモ其意思表示ハ法律上ノ效果ヲ生セス

○相殺ノ目的タル債務ハ其意思表示ノ當時ニ存在スルコトヲ要スルヲ以テ意思表示以前ニ於テ時効ニ依ル場合ヲ除キ辨濟其他ノ原因ニ依リ既ニ適法ニ消滅シタル債務ニ對シテハ相殺ノ效果ヲ及ホササルモノトス

四	二	四	三	二	四
二五	七	四	四	三	二五
六五	一九七	二四九	四八	九三	二五八

○甲乙互ニ債權ヲ有シ甲其一部ノミヲ訴求シタル場合ニ於テ乙ヨリ抗辯トシテ提出シタル相殺ハ債權全額ニ對シテ其效力ヲ生スルモノニ非ス
 ○シテ唯甲ノ訴求額ニ對當スル部分ニ對シテノミ之ヲ生スルモノトス
 ○原告カ被告ニ對シテ有スル立替金償還ノ債權及ヒ損害賠償ノ債權ノ合算額ヨリ被告ノ原告ニ對シテ有スル賣却代金ノ債權額ヲ差引キタル殘額ヲ請求シタル場合ニ於テハ反證ナキ限り原告ハ被告ノ有スル債權ニ對シ自己ノ有スル債權ノ對當額ヲ以テ裁判上相殺ノ意思ヲ表示シタルモノトス

○當事者カ互ニ債權ヲ有スル場合ニ其相互ノ債權共ニ履行期ニ在ルトキハ債務者ハ相殺ノ意思表示ヲ爲シ以テ債務ヲ消滅セシムルコトヲ得ル
 ○モノナレハ債權者ニ對シ反對債權ヲ有スルモノト爲シ其負擔スル債務ト相殺スル旨ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ相殺契約ノ有無ニ拘ハラス此相殺抗辯ノ適否ニ付キ判斷セサルヘカラサルモノトス
 ○訴訟費用ノ辨濟義務ハ費用額確定決定ヲ經テ始メテ辨濟期到達シ相殺適狀ヲ生スルニ至ルモノナレハ費用額確定決定ヲ經サル以前ニ於テ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ費用辨濟ノ義務ニ付キ相殺ノ意思表示ヲ爲スモ其意思表示ハ費用額確定決定ノ確定シタル時ニ至リ相殺ノ效力

七 一九七

七 二二三

元 九五二

六 八〇五

六 八〇五

六 八〇五

ヲ生セシメンコトヲ目的トスルモノナルヲ以テ無効ナリ
 ○縱令二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債務ヲ負擔スル場合ト雖モ各債務者ハ當然相殺ニ因リ其債務ヲ免ルルモノニ非スシテ相殺ニ因リ債務ヲ免ルルニハ必ス相殺ノ意思表示アルコトヲ要スルモノトス
 ○相殺ノ意思表示ハ既往ニ遡リテ其效力ヲ生スルモ期限ノ利益ノ拋棄ハ斯ノ如キ遡及效ヲ有セサルヲ以テ辨濟期ニ在ラサル債務ハ讓渡ノ通知アルマテニ期限ノ利益拋棄ノ事實アルニ非サレハ未タ相殺ニ適セサルモノト云ハサルヲ得ス
 ○民法第五百六條第二項ニ所謂雙方ノ債務カ互ニ相殺ニ適シタルトハ當事者雙方ノ辨濟期ニ至リタル債權カ互ニ相對立シ甲カ乙ノ債權者タリ乙カ甲ノ債權者タル場合ナリトス
 ○甲カ乙ニ對スル丙ノ債權ヲ讓受ケ乙ノ債權者ト爲リタルハ大正二年七月二十九日ニシテ乙カ甲ニ對スル丁ノ債權ヲ讓受ケ甲ノ債權者ト爲リタルハ同年八月二十一日ナルトキハ雙方ノ債權ハ同年八月二十一日ニ至ラサレハ相對立セス隨テ相殺ニ適シタルモノニ非ス
 ○第三債務者ハ質權設定者ニ對シテ有スル債權ニシテ其質權ノ通知迄ニ辨濟期ニ達セサルモノヲ質權ノ目的タル債權ト相殺スル爲メ辨濟期到

三九五

來ノ後質權者ニ對シテ有效ニ其旨ノ意思表示ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

(第五百八條)

『第五百八條』

○民法施行前ニ生シタル債權ニシテ同法施行後時効ニ因リ消滅シタルモノト雖モ其消滅前相殺ニ適シタル場合ニハ其債權ハ相殺ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(同旨)

民法施行前ニ生シタル債權ニシテ同法施行後時効ニ因リ消滅シタルモノト雖モ其消滅以前相殺ニ適シタル場合ニハ民法施行法第五十八條民法第五百八條ニ依リ其債權者ハ相殺ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(第五百九條)

『第五百九條』

○不法行為ニ因ル債務ノ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得サルモ當事者ノ契約ヲ以テ之ヲ約スルハ法律ノ禁スル所ニ非ス
○取消サレタル賣買行為ニ付キ取消ノ原因タル不法行為ヲ爲シタル者ハ其行為ニ因ル債務ニ付キ相手方ニ相殺ヲ對抗スルヲ得サルモノナルヲ以テ相手方ノ受ケタル利益ヲ控除シ自己ニ存スル利益ノ限度ニ於テ返還スルヲ以テ足ルモノニ非ス

第三款 更改

○當事者カ前債權ニ擔保ナシト誤信シタル爲メ更改ヲ爲シタル場合ニ於テハ其擔保ナシトノ信念カ更改契約ノ成立要件タリシモノナルヲ以テ該契約ハ要素ニ錯誤アルモノト謂ハサルヲ得ス

○債務者カ既存ノ債務ニ關シ債權者ニ約束手形ヲ裏書讓渡スルハ代物辨濟若クハ更改ナルコトアリ又支拂ノ爲メナルコトアリテ其何レナルヤハ各場合ニ於ケル當事者ノ意思ヲ解釋シテ之ヲ決スヘキモノトス從テ更改ノ意思ナキニ拘ハラス當然更改ナリト爲ヌヲ得サルハ勿論他ノ意思ノ認ムヘカラサルノ故ヲ以テ更改ノ意思ナリト推定スルヲ得ス

(第五百十條)

『第五百十三條』

○債務ノ要素トハ債務ノ成立ニ必須ノ事項ヲ指スモノニシテ利子ノ割合ヲ増加シ又ハ辨濟ヲ怠リタルトキ期日前ノ延滞利子ヲ元金ニ組入ルル如キ追約ハ債務ノ要素ヲ變更シタルモノニ非ス
○代金ハ賣買ヲ組成スル一要素ナルカ故ニ一旦取結ヒタル賣買契約ニ於テ代金ヲ變更シタルトキハ前契約ハ更改セラレタルモノナリトス
○當事者間ニ於テ數多ノ舊債權ヲ一箇ノ債權ニ更改シタルトキハ新舊債權ノ數額同シカラス即チ債權ノ目的同一ナラサルコトハ自明ノ理ナル

七

二四三

三

六九九

三

五六七

元

一〇二八

三

五二五

二

七六四

六

九四九

三

八七

三

五三

ヲ以テ更改ノ要素ヲ具備セシヤ否ノ點ニ付キ特ニ判斷スルノ要ナシ
○手形ノ當事者ニ於テ手形債務ヲ消費貸借ニ更改スルニ當リ第三者カ特
ニ其當事者ト連帶シテ新債務ヲ負擔スヘキコトヲ約諾スルハ違法ニ非
ス

○利息ヲ元本ニ組入レ若クハ更ニ返濟期限ヲ約シテ證書ヲ書換フルカ如
キハ債務ノ要素ヲ變更セルモノニ非サレハ民法ノ所謂更改ニ該當セス

○手形債務ヲ普通債務ニ更改シタル場合ニ於テ其手形カ法定ノ要件ヲ具
備セサル爲メ無効ナルトキハ手形ヲ相手方ニ返還シタル後ト雖モ更改
契約ノ無効ナルコトヲ主張スルコトヲ得サルモノニ非ス

○普通債務ノ成立ニハ敢テ證書ノ存在ヲ必要トスルモノニ非サルモ手形
債務ニ在テハ證書ハ其成立ニ缺クヘカラサル要素ナルヲ以テ手形債務
ヲ普通債務ニ變更スル場合ニ於テハ債務ノ要素ヲ變更スルモノニシテ
民法第五百十三條ノ更改ニ該當スルモノトス

(同三三)

約束手形ノ債務ヲ變更シテ金錢ノ給付ヲ目的トスル手形以外ノ債務ト爲シタル場合ニハ舊債
務ハ更改ニ因リテ消滅スルモノトス
他ノ債務ヲ手形債務ニ變更シ若クハ手形債務ヲ他ノ手形債務ニ變更セル場合ニ於テハ舊債務

三五	一〇	二五
三九		
四〇		一六二
二		八三三
二		八三三
二		八三三
三六		一一一

ハ更改ニ因リテ消滅スルモノトス

手形ハ他ノ證書ノ如ク管ニ債務ノ存在ヲ證明スルノ具タルニ止マラス債務ノ成立ニ缺クヘカ
ラサル要件ナルヲ以テ手形以外ノ債務ヲ手形債務ニ變更シ又ハ手形債務ヲ他ノ債務ニ變更ス
ルハ民法第五百十三條ノ更改ニ該當ス

三九

三六

○金百圓ヲ支拂フ二箇ノ債務ヲ金二百圓ヲ支拂フ一箇ノ債務ニ變更スル
トキハ目的ノ變更ニ因ル更改ヲ生スルモノトス

四

四六四

○賣買契約ヲ爲シタル當事者カ其賣買代金ヲ目的トシテ寄託契約ヲ締結
シタルトキハ該寄託契約上ノ債權發生ト同時ニ賣買代金ノ債權ハ消滅
スト雖モ債權ノ目的タル金錢ノ給付ニ變更ナキヲ以テ更改ハ成立セス

四

六〇〇

○手形債務ノ支拂ヲ延期スル爲メニ爲ス手形ノ書換ハ金額債務者ヲ變更
セサル限リ他ノ要件ヲ變更スルモ更改ヲ生セス

四

一七五

○雇傭契約ニ於ケル報酬ノ種類如何ハ契約ノ要素ニ非サレハ當事者カ曩
ニ報酬トシテ給料ヲ與フルノ約ナルヲ改メテ商品ノ販賣代金ノ歩合ヲ
與フルコトノ合意ヲ爲スモ之ヲ以テ契約カ更改セラレタルモノト謂フ
ヲ得ス

五

三二九

○當事者カ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其契約成立セサ
ルカ若クハ取消サレタルトキノ外舊債務ハ消滅スルヲ以テ縱令其後當

○事者カ解除ノ意思ヲ表示スルモ爲メニ一旦消滅シタル債務ハ當然復活スルモノニ非ス

五

九二八

○賃料ハ貸借成立ノ要素ナレハ當事者カ既定ノ賃料ヲ他ノ物ニ變更ハル合意ヲ爲シタル如キ場合ニ於テハ更改ヲ成スヘシト雖モ單ニ賃料ノ増額ヲ爲シタルニ過キサルトキハ債務ノ分量ヲ變シタルニ止マリ新ナル債務關係ヲ發生セシムル意思表示アリト謂フヲ得サレハ更改ニ必要ナル要素ノ變更アルモノニ非ス

五

一八四五

○消費貸借成立後ニ至リ第三者カ借主ト連帶シテ其債務辨濟ノ責任ヲ負擔スルコトヲ約スル場合ニ於テハ之カ爲メニ債務者ノ數ヲ増加シ其體様ニ變更ヲ來スコトアルモ債務ノ内容ハ同一ニシテ變更ヲ來ササルヲ以テ更改ヲ生スヘキモノニ非ス

七

九六一

○普通ノ債務ニ付キ約束手形ヲ發行シタル場合ニ於テ當事者ノ意思カ全然舊債務ヲ消滅セシメ之ニ代フルニ新ナル手形債務ヲ以テスルノ旨趣ニ出テタルトキハ更改契約成立スヘク若シ又之ニ反シテ既存債務ノ辨濟ヲ確保スルノ目的ニ出テタルトキハ普通ノ債務ト手形債務トハ共ニ併立シテ更改契約成立スルモノニ非ス

七

七七〇

○如上ノ場合ニ於テ其孰レニ屬スルヤハ一ニ各案件ニ就キ當事者ノ意思

六

二二五

○其他ノ事情ヲ斟酌シテ判定スヘキ事實問題ニシテ斯ル場合ニ更改契約成立シタルモノト推定スヘキ法則存セサルモノトス

七

七七〇

○既存ノ債務ニ付キ約束手形ヲ發行シタル場合ニ於テ其債務カ更改ニ因リテ消滅シタリヤ否ヤハ之カ決定ヲ當事者ノ意思ニ求ムヘク當事者ノ意思不明ナルトキハ既存債務ノ辨濟ヲ確保スル爲メ該手形ヲ發行シタルモノト認ムヘキモノニシテ之ニヨリ當然債務ノ更改アリト爲ヌヲ得サルモノトス

七

二〇七九

(參照)

債權ノ移轉單ニ債權者其人ノ變更ニ止マリ原債權者ト債務者トノ權義關係ニ付キ何等ノ利害影響ナキモノハ義務ノ更改ニ非ス

二五

一一三

第五百十四條

第五百十四條

○甲者カ債務ヲ負擔セル場合ニ於テ乙者之ニ加ハリ債權者ニ對シテ共ニ連帶債務ヲ約定スルハ債務ノ體様ヲ變シタルニ過キサレハ之ヲ以テ債務者ノ交替ニ因ル更改ナリト云フヲ得スニモテ債務者ノ交替ニ因リテ債權者ノ交替ニ因ル更改カ新債務者ノ詐欺ニ因リ成立シタル場合ニ於テ債權者カ其意思表示ヲ取消シタルトキハ舊債務ハ消滅セスト雖モ舊債務者ハ更改契約ノ第三者ナルカ故ニ其善意ナル限り之ニ對シ債權者

四〇

一一六一

ハ舊債務ノ存在ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス
 ○寺院ノ檀徒總代カ寺院ノ爲メニ自ラ爲シタル金圓貸借行爲ニ付キ其寺院ニ於テ之カ債務ヲ負擔スルニハ自ラ債務ヲ引受ヲ爲スカ又ハ債務者ノ交替ニ依ル更改契約ヲ締結スヘキモノニシテ無權代理ノ法理ヲ以テ此關係ヲ律スルコトヲ得サルモノトス

〔第五百十五條〕

○債權者ノ交替ニ因ル更改ト債權ノ讓渡トハ全然其性質ヲ異ニスル別箇ノ法律行爲ナリトス

〔第五百十八條〕

舊義務ニ附著シタル保證其他ノ擔保ハ特約ナケレハ更改ニ因リ消滅ス

第四款 免除

〔第五百十九條〕

○權利ノ拋棄ハ相手方ニ對シ其意思ヲ表示スルニ非サレハ其效力ヲ生セス
 ○權利ノ拋棄ハ權利者カ其意思ヲ表示スルト同時ニ其效力ヲ生シ一旦其意思ヲ表示シタル上ハ隨意ニ之ヲ取消スコトヲ得ス
 ○債務ノ免除ハ獨リ明示ノ意思表示ヲ以テスルコトヲ得ルノミナラス又

默示ノ意思表示ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得而シテ默示ノ意思表示ハ表意者ノ積極若クハ消極ノ行爲ヨリ之ヲ推定シ得ルモノトス

○權利ノ拋棄ハ民法施行前ニ於テモ相手方ニ對スル明示又ハ默示ノ意思表示ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノトス

○債權者カ第三者ニ對シテ債權ヲ拋棄スルコトヲ約シ之ニ對シテ第三者カ債務者ノ債務ト同一内容ヲ有スル債務ヲ負擔スルコトヲ約シタルトキハ債權者ハ第三者ニ對シテ債務者ノ爲メニ債權ヲ拋棄スヘキ債務ヲ負擔シ第三者ハ債權者ニ對シテ債務者ノ債務ト同一ノ債務ヲ負擔スル一種ノ雙務契約成立スルニ至ルモノトス

○如上ノ契約ニ於テ債權者カ第三者ニ其履行ヲ求メタルトキハ債權者カ債務者ニ對シテ債權ヲ拋棄スル意思ヲ表示スルカ若クハ債務者カ債權者ニ對シテ利益享受ノ意思ヲ表示スル迄第三者ハ同時履行ノ抗辯ヲ主張スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ債務者ノ交替ニ因ル更改契約又ハ第三者カ債務辨濟ノ豫約ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

○民法第五百十九條ハ單獨行爲ニ因ル債務免除ノ場合ニ付テノ規定タルニ過キサレハ契約ニ依ル債務免除ノ場合ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

四	一〇八七
五	一三六二
四三	一五
四二	一〇三
三九	一一三
三三	一
三	一四〇
四〇	一五五
三	三
二	六五四
二	六五四
五	二二六

權利ノ拋棄ハ法律ノ明文指示ノ合意アルトキノ外拋棄ノ意思ヲ確認シ得ル格段ノ事情アル場合ニ非サレハ之ヲ推定スルコトヲ得ス
權利ノ拋棄ハ法律上推定ヲ許サス

二四
二元
二五
二六

第五款 混同

(第五百二十條)

『第五百二十條』

○債權及ヒ債務カ同一人ニ歸シタル場合ニ於テ其債權ハ混同ニ因リ當然消滅スヘキコトハ民法實施前ニ在リテモ亦法理トシテ認メラレタル所ナリ

三六
三八

第二章 契約

○事實裁判所ハ事情ニ依リ契約ノ真意ト其契約書ノ明文トカ相符合セサルモノト認ムルトキハ其明文ニ反シテ契約ノ旨趣ヲ解釋スルコトヲ得ヘシ

三三
三二

○一旦適法ニ成立シ後日或事由ニ依リテ消滅シタル契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ其效力ヲ復活スルコトヲ得

三三
三二

○貸座敷營業者ト娼妓トノ間ニ於ケル金錢貸借上ノ契約ト身體ヲ拘束スルヲ目的トスル契約トハ各自獨立ニシテ身體ノ拘束ヲ目的トスル契約

三三
三二

ハ無効ナリ

三三
三二

○當事者ニ於テ或債務履行ノ爲メ期間ヲ定メ其期間ノ經過ノミニ依リ直ニ契約ヲ解除シ得ヘキ旨ヲ特約スルコトハ當事者ノ自由ニシテ斯ノ如キ契約ハ民法實施前後ヲ問ハス有効ナリ

三三
三四
三七

○契約ハ債權即チ對人關係ナルヲ以テ一般ノ承繼人ノ外當事者以外ノ者ニ其效力ヲ及ホスコトヲ得サルモノトス

三三
三五

○甲者カ乙者ヨリ讓受ケタル營業ニシテ他ノ關係上其營業自體ニ制限アルトキハ甲者ハ前營業者ノ有セサル過大ノ權利ヲ讓受クヘキ理ナキニ依リ制限ヲ踰越シテ他人ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルハ勿論ナルモ是レ前營業者ノ他ニ對スル契約上ノ義務ヲ繼承シタルニ非スシテ制限アル營業ヲ爲スノ權利ヲ繼承シタルニ外ナラサルモノトス

三三
三五

○手形ニ署名セスシテ内實手形債務ヲ負擔シタル者カ更ニ普通契約ヲ以テ手形面ノ金額ノ支拂ヲ約シタルトキハ該契約ヨリ生スル債務ヲ履行スヘキ責任ヲ負フモノトス

三七
三九

○宅地ノ一部ヲ賣渡シタル者カ後日分割ノ上名義書換ノ手續ヲ行フヘキ特約ヲ以テ便宜上其他宅地ノ全部ニ付キ賣買登記ヲ了シタル場合ニ於テハ該契約ハ一種ノ無名契約ト云フヲ得ヘキモ敢テ法律ノ禁止セル事項

○ノ内容ヲ有スル債務ノ支拂ヲ契約スルコトヲ得サルモノニ非ス
○法律ニ依リ認めラレタル契約ノ自由ハ府縣令ヲ以テ制限シ得サルモノトス

四

一〇九四

○債務者ノ遲滞ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任ハ其遲滞力過失ニ

四

一四二

因リテ生シタル場合ニ付テハ契約自由ノ一般ノ原則ニ從ヒ當事者間ノ
特約ヲ以テ豫メ之ヲ免ルルコトヲ得ヘシト雖モ其遲滞力故意ニ因リテ

五

二〇〇

○契約ノ目的及ヒ内容ハ契約自由ノ原則ニ依リ各人ノ任意ニ之ヲ定ムル

五

二〇〇

コトヲ得ルモノナレハ射伴契約モ亦其契約カ射伴ノ性質ヲ有スルノ故
ヲ以テ當然無効ナルモノニ非スト雖モ其目的トスル事項カ公ノ秩序善
良ノ風俗ニ反スルトキハ其無効ナルコト論ヲ竣タス

五

一六四六

(同主旨)

射伴ノ性質ヲ有スル契約ト雖モ特ニ法規ノ禁止セサルモノハ當然無効ナリト云フヲ得ス

三六

一五九九

○不法行為者カ既ニ爲シタル不法行為ノ責任ヲ承認シ因テ被ムラシメタ

三六

一五九九

ル損害ヲ賠償スヘキコトヲ被害者ニ對シテ豫メ約スルコトヲ得ルモノ
ニシテ此場合ニ於ケル債權ノ發生原因ハ不法行為ナルモ契約ヲ以テ其
賠償責任ヲ明確ナラシメタルモノト解スルヲ相當トス

五

二二六二

○自由廢業トハ藝娼妓カ抱主ノ同意ヲ得スシテ自儘ニ其稼業ヲ廢止スル
コトヲ謂フモノトス

六

五二五

○他人ノ財産ヲ管理シタル者ニ於テ負擔スル計算ノ義務ハ契約關係ヨリ
生シタルト將タ法律ノ規定ニ依リ直接生シタルトヲ問ハス常ニ債權關
係ニ外ナラサルモノトス

七

一〇二七

○第三者タル丙カ乙ト藝妓稼業契約ヲ爲シ一定期間其稼業ニ從事スルコ
トヲ以テ甲カ乙ニ對スル契約ノ目的ト爲シタルトキハ甲ハ丙ノ藝妓稼
業契約ノ締結及ヒ其契約ノ履行ヲ乙ニ對シテ契約シタルモノナレハ法
律上有效ナリトス

七

一九五四

○如上ノ場合ニ於テ丙カ甲對乙間ノ契約ノ履行トシテ乙ニ對シ藝妓稼業
ヨリ生スル利益ヲ乙ノ所得ト爲スヘキ約款ノ下ニ其稼業ニ從事シ居リ
タル事實アリトセハ丙カ自己ノ契約上ノ債務タル藝妓稼業ヲ爲スコト
ニ依リテ同時ニ甲ヨリ乙ニ對スル債務ヲ履行セラルル結果ヲ生スルヲ
以テ乙ハ甲ニ對シ丙ノ藝妓稼業ヨリ生スル利益ヲ取得スル債權ヲ有ス
ルモノトス從テ丁カ丙ヲ誘拐シ同人ヲシテ乙方ニ於テ藝妓稼業ヲ爲シ
得サラシメタルトキハ丁ハ乙ニ對シ丙ノ藝妓稼業ニ因リテ得ヘカリシ
利益ヲ償還スヘキモノトス

七

一九五四

○承諾ノ期間ヲ定メスシテ對話者ニ爲シタル申込ハ直ニ承諾ヲ爲スニ非サレハ契約成立スルコトナシ

第二款 契約ノ效力

○第三者ノ所有スル地所ニ工事ヲ施スコトヲ契約シタル場合ト雖モ其履行ヲ爲サントスルニ當リ第三者之ヲ承諾スルニ於テハ履行可能ナルカ故ニ該契約ハ不能ノ事項ヲ約シタル無効ノ行爲ナリト云フヲ得ス從テ當事者ノ一方カ相手方ニ對シ其履行ヲ請求スルハ不能ノ行爲ヲ強ユルモノニ非ス

○第三者カ債務者ニ對シテ豫メ其債務ヲ辨濟スヘキ旨ヲ約スル契約ハ有效ナルヲ以テ第三者カ其約旨ニ基キ辨濟ヲ爲ササルトキハ債務者ニ對シテ不履行ノ責アルコトヲ免レス

(參照)

公示セサル契約ハ第三者ヲ羈束スル效力ナシ
公示ノ方法ハ第三者ヲシテ安全ニ其權利ヲ取得セシムルモノナルニ依リ秘密契約ヲ以テ公示ヲ經テ取得シタル第三者ノ權利ヲ失ハシムルコトヲ得ス
義務履行期限ノ契約ハ單ニ期限ノ經過ニ依テ義務ノ消滅若クハ變更ヲ來スヘキモノニ非ス
契約ノ目的物カ結納ノ當時他人へ抵當ニ差入レアリシコト明瞭ナルニモセヨ債務者ノ處分權内ヲ離脱セサル以上ハ其實力ヲ盡シテ之ヲ受展シテ契約ヲ履行スルノ義務アルモノトス

三九	二四三
四〇	一〇七四
四〇	二二九
四五	二二六
四五	二二六
四一	二二六
四二	二二六
四三	二二六
四四	二二六
四五	二二六
四六	二二六
四七	二二六
四八	二二六
四九	二二六
五〇	二二六
五一	二二六
五二	二二六
五三	二二六
五四	二二六
五五	二二六
五六	二二六
五七	二二六
五八	二二六
五九	二二六
六〇	二二六
六一	二二六
六二	二二六
六三	二二六
六四	二二六
六五	二二六
六六	二二六
六七	二二六
六八	二二六
六九	二二六
七〇	二二六
七一	二二六
七二	二二六
七三	二二六
七四	二二六
七五	二二六
七六	二二六
七七	二二六
七八	二二六
七九	二二六
八〇	二二六
八一	二二六
八二	二二六
八三	二二六
八四	二二六
八五	二二六
八六	二二六
八七	二二六
八八	二二六
八九	二二六
九〇	二二六
九一	二二六
九二	二二六
九三	二二六
九四	二二六
九五	二二六
九六	二二六
九七	二二六
九八	二二六
九九	二二六
一〇〇	二二六

凡ソ適法ニ成立シタル契約ハ當事者雙方ノ承諾ニ出ツル歟又ハ契約ノ目的ヲ履行シ能ハサル正當ノ原因ヲ證明スルニ非サルヨリハ一方ノ意思ヲ以テ轉ク廢罷スルコトヲ得ス
契約ノ當事者ニ非スシテ其契約ノ履行ヲ求ムルヲ得ス
秘密契約ハ第三者ニ對シ效力ヲ及ホササルヲ通例トス故ニ秘密契約ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

『第五百三十三條』

（第五百三十三條）

○雙務契約者ノ一方カ一部ノ履行ヲ爲ササル場合ニ於テハ他ノ一方ハ之ニ應スル一部ノ履行ヲ拒ムヲ得ヘキモ他ニ特別ノ理由ナキ限ハ之ヲ以テ全部ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ス

○雙務契約ノ履行ニ付キ相手方ノ行爲ヲ要スル場合ニ在テハ現實物件ノ提供ヲ爲ササルモ提供ノ準備ヲ爲シ之ヲ相手方ニ通知シテ辨濟ヲ受クヘキ旨ヲ催告スルトキハ提供アリタルモノト看做スヘキモノトス

○同時履行ノ原則ハ契約當事者ノ一方カ債務ノ履行ヲ爲ササル場合ニ於テ相手方ニ自己ノ債務履行ヲ拒絕シ得ヘキ權利ヲ付與シタルニ過キスシテ當事者雙方ノ義務カ同時ニ履行セラレタリトノ推定ヲ生セシムルモノニ非ス

○雙務契約ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルニ拘ハラス

二六	二二	二三五
二七	二二	三三〇
三〇	二二	六六
三三	二二	二六
三三	三三	一一三
三七		一四

○相手方ニ對シテ債務ノ履行ヲ請求スルトキハ相手方ハ契約ヲ解除スルコトナク他ノ一方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテ自己ノ債務ノ履行ヲ拒絕シ得ルモノトス

○雙務契約當事者ノ一方ハ相手方カ前ノ辨濟期ニ屬スル債務ノ履行ヲ提供セサルコトヲ理由トシテ後ノ辨濟期ニ屬スル自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス

○雙務契約當事者ノ一方カ相手方ヨリ債務履行ノ請求ヲ受ケタル時同時履行ノ抗辯權ヲ行使セスシテ債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ノ訴訟提起アリタル後之ヲ行使セントスルハ時期ヲ失シタルモノナリ

○同一ノ雙務契約ヨリ生シタル雙方ノ債務ハ特別ノ意思表示アラサル限り其目的物ノ性質可分タルト不可分タルトヲ問ハス各一箇ノ債務ヲ構成スルニ過キサレハ縱令其履行ハ分割シテ之ヲ爲スヘキ場合ト雖モ依然トシテ一箇ノ債務存在スルニ外ナラス

○買主カ賣主ニ對シテ訴ヲ以テ代金ト引換ニ目的物ノ引渡ヲ爲スヘキコトヲ請求シタルトキハ賣主ハ目的物ヲ引渡スト同時ニ其代金ヲ受領スルコトヲ得ヘク又買主カ代金ヲ支拂ハサルニ於テハ目的物ヲ引渡ササルコトヲ得ヘキヲ以テ其買主ノ請求ハ民法第五百三十三條ノ規定ニ適應

セルモノトス

○買主タル原告カ自己ノ債務ハ既ニ之ヲ履行シ了リタルコトヲ主張シ相手方ノ債務履行ノミヲ求ムル場合ニ於テ相手方之ヲ争ヒ裁判所モ亦未タ原告ノ債務ノ履行ナキコトヲ認メタルトキハ原告ニシテ其履行ノ提供ヲ爲スカ又ハ其請求ヲ更メ自己ノ債務ノ履行ト同時ニ相手方ノ債務履行ヲ求ムル旨趣ト爲ササル限ハ之ヲ不當ナリトシテ却下スルヲ相當トス

○雙務契約ニ於ケル當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スニハ自己ノ債務ノ履行ヲ提供スルコトヲ必要トセス從テ提供ト伴ハサル請求ト雖モ請求トシテ效力アルモノトス

○雙務契約當事者ノ一方カ曾テ一度履行ノ提供ヲ爲シタルコトアル場合ト雖モ苟モ其提供ニシテ繼續セサル以上ハ相手方ニ於テ同時履行ノ抗辯ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

○債權者カ第三者ニ對シテ債權ヲ拋棄スルコトヲ約シ之ニ對シテ第三者カ債務者ノ債務ト同一内容ヲ有スル債務ヲ負擔スルコトヲ約シタルトキハ債權者ハ第三者ニ對シテ債務者ノ爲メニ債權ヲ拋棄スヘキ債務ヲ負擔シ第三者ハ債權者ニ對シテ債務者ノ債務ト同一ノ債務ヲ負擔スル

三

四

四

四

六九三

四七七

四七七

四七七

四二

七三三

四二

三三四

四二

三九二

四二

七七一

一種ノ雙務契約成立スルニ至ルモノトス

二

六五四

○如上ノ契約ニ於テ債權者カ第三者ニ其履行ヲ求メタルトキハ債權者カ債務者ニ對シテ債權ヲ拋棄スル意思ヲ表示スルカ若クハ債務者カ債權者ニ對シテ利益享受ノ意思ヲ表示スル迄第三者ハ同時履行ノ抗辯ヲ主張スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ債務者ノ交替ニ因ル更改契約又ハ第三者カ債務辨濟ノ豫約ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

二

六五四

○賣買ニ於ケル履行期日經過ノ後ハ各當事者ハ何時ニテモ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シ相手方ニ對シ其債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ其一方カ相手方ニ對シ履行ヲ請求シ且自己ノ爲スヘキ履行ノ提供ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方カ之ヲ拒ミ履行ヲ爲ササルトキハ遲滞ノ責アルモノトス

二

九九三

○雙務契約ニ於テ當事者ノ一方カ債務ノ履行ヲ提供スルモ相手方ハ債務ヲ履行セサルノ意思明確ナル以上ハ相手方カ債務履行ヲ提供セサルモ他ノ一方ハ自己ノ不履行ニ付キ違約ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

三

九九九

○雙務契約ニ因ル雙方ノ債務カ共ニ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ其一方カ債務履行ノ資力ヲ有セスシテ爲シタル履行ノ請求ハ相手方ニ遲滞若クハ不履行ノ責ヲ生セサルモノトス

四

七九七

○山林ノ買主カ代金殘額支拂ノ債務ヲ變シテ賣主ヲ債權者トスル消費貸借ト爲シタル以上ハ民法第五百八十八條ノ規定ニ依リ其殘代金支拂ノ債務ヲ完済シ新ニ該金圓ヲ借受ケタルコトト爲ルヲ以テ相手方カ山林ノ引渡ヲ爲ス迄ハ代金支拂ヲ拒ムコトヲ得ル抗辯權ヲ失フモノトス

五

一〇七四

○請負契約ハ雙務契約ナレハ當事者ノ一方ハ民法第五百三十三條ノ規定ニ依リ相手方カ債務ヲ履行セサル限り自己ノ債務ヲ履行セサルモ遲滞ノ責ヲ負フコトナシト雖モ相手方カ其債務ヲ履行シタルニ拘ハラズ自己ノ債務ヲ履行セサルニ於テハ遲滞ノ責ニ任セサルヘカラサルハ論ヲ竣タス

五

二二〇

○請負契約當事者ノ一方カ請負工事ノ完成ヲ遲延スルトキハ一定ノ違約金ヲ相手方ニ支拂フヘキコトヲ約シタル場合ニ於ケル違約金支拂ノ債務ハ工事完成ノ遲延ニ因リ發生セルモノニシテ請負契約ニ因リ發生セルモノニ非サルハ勿論其債務ノ變形若クハ延長ニ過キサルモノト謂フヲ得ス從テ相手方ノ請負契約ニ因リ發生セル報酬金債務トハ其發生原因ヲ異ニスルモノナレハ民法第五百三十三條ノ適用ナキモノトス

五

二二〇

○雙務契約ノ當事者カ同時ニ債務ヲ履行スヘキ場合ニ於テ其一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供セサル限ハ自己ノ債務ノ履行ヲ遲延スルモ債

務不履行ノ責ニ任スヘキモノニ非ス

(同主旨)

賣買ノ當事者雙方カ履行期日ニ提供ヲ爲サスシテ其期日ヲ徒過シタルトキト雖モ各當事者ハ同時履行ノ抗辯權ヲ有シ一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スル迄ハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ルヲ以テ當然遲滞ノ責ニ任スルモノニ非ス

雙務契約ノ場合ニ於テ雙方ノ債務カ共ニ辨濟期ニ在ルトキハ其一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供セサル限ハ期限徒過ノ一事ヲ以テ直ニ遲滞若クハ不履行ノ責ニ任スヘキモノニ非ス

○辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ爲スコトヲ要スルカ故ニ相手方カ債務ノ履行トシテ提供シタル辨濟ノ目的物カ契約上ノ數ニ不足ナルトキハ提供ノ效ナキヲ以テ當事者ノ一方ハ尙ホ債務不履行ノ責ニ任セサルモノトス

○雙務契約當事者ノ一方カ相手方ノ債務履行ニ先チ自己ノ債務ヲ履行スヘキ場合ニ於テハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供セサルノ故ヲ以テ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得サレハ自己ノ債務ノ履行ヲ遲延スルトキハ相手方カ債務ノ履行ヲ提供セサルニ拘ハラズ債務不履行ノ責ニ任セサルヘカラス

○雙務契約ニ因リテ生シタル債務カ同時ニ履行ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ縱令履行期限ノ定アルモ其到來ト同時ニ債務者ハ遲滞ノ責ニ任スヘキモノトス

○雙務契約當事者ノ一方カ相手方ノ履行ノ提供ヲ爲シタルニ拘ハラズ自己ノ債務ヲ履行セサル場合ニ於テ始メテ遲滞ノ責ニ任スヘキモノトス

○地所賣買ニ付キ買主カ賣主ヨリ賣買代金殘額ノ支拂ヲ請求セラレタル場合ニ於テ金圓ヲ所持セス又之ヲ調達ヲ爲スノ見込ナカリシ一事ハ未ダ以テ代金支拂行爲カ買主ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ全然不能ト爲リタルモノト云フヲ得サルノミナラス又買主カ代金支拂ノ債務ヲ履行セサルノ意思明確ナル場合ニモ非サレハ買主ハ相手方タル賣主ノ債務不履行ヲ原因トシテ自己ノ債務不履行ヨリ生スル責任ヲ免ルルコトヲ得ルモノトス

○雙務契約ノ當事者カ一定ノ履行期日ニ債務ヲ履行セサルトキハ違約金ヲ支拂フヘキコトヲ約シタル場合ニ於テ其履行期日ニ雙方共履行ノ提供ヲ爲サス期日ヲ經過シタルトキハ反證ナキ限ハ其後ニ至リ當事者ノ一方カ相手方ヨリ債務ノ履行ノ請求ヲ受ケ相手方カ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シタルニ拘ハラズ之ヲ履行セサル爲メ遲滞ノ責ニ任シタル場合ニ於テ該違約金ヲ支拂フヘキコトヲ約シタルモノト推測スヘキモノトス

○原告カ雙務契約ノ當事者ニ非サルモ其當事者ノ一方ヨリ相手方ニ對ス

六

三四二

二

九九三

四

七九七

六

三四二

六

三四二

六

六四九

六

一七五三

六

一九四二

ル債權ノミニ付キ轉付命令ニ依リ轉付ヲ受ケタル場合ニ於テ被告カ同時履行ノ抗辯ヲ提出シタルトキト雖モ原告前主ノ履行ノ提供力繼續スルト否トヲ問ハス其現實ニ履行セラレサル間ハ引換的ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス

六 一九六〇

○如上ノ場合ニ於テハ被告ハ原告ニ對シ原告ノ前主カ被告ニ對シテ負擔スル債務ノ履行トシテ其目的タル宅地ニ付キ賣買ニ因ル所有權移轉登記手續ヲ爲スト同時ニ原告ノ請求ニ係ル代金及ヒ損害金ヲ支拂フヘキ訴外者ノ債務履行ト引換ニ被告カ原告ニ給付ヲ爲スヘキ判決ヲ與フヘキモノトス

六 一九六〇

○不動産ノ賣買ニ於テ賣主ノ義務ニ屬スル所有權移轉ノ登記手續ノ完了ト代金授受トノ間ニハ取引ノ實際ニ於テ已ムヲ得サル時間上ノ前後アルコト勿論ナリト雖モ賣主カ登記ニ因リテ所有權移轉ヲ完全ナラシメ買主カ之ニ對シテ代金ヲ支拂フ法律上ノ觀察ニ於テハ之ヲ以テ賣主買主雙方ノ債務カ同時ニ履行セララルモノト謂フヲ妨ケサルモノトス
○雙務契約當事者ノ一方カ自己ノ債務ノ履行ヲ提供スルコトナク單ニ相手方ニ對シ其債務ノ履行ヲ請求シタル場合ニ若シ相手方ニ於テ同時履行ノ抗辯ヲ提出シタルトキハ裁判所ハ原告ノ請求全部ヲ排斥スルコト

七 二四五

ナク被告ニ對シ原告ノ債務履行ヲ條件トシテ交換的ニ債務ノ履行ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ與フヘキモノトス

七 六八七

(同主旨)

雙務契約當事者ノ一方カ訴ヲ以テ單純ニ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求シタル場合ニ於テ相手方カ同時履行ノ抗辯ヲ提出シタルトキハ裁判所ハ其請求ヲ全部排斥スルコトナク雙方債務ノ履行ヲ引換ニテ相手方ニ其履行ヲ命スヘキモノトス

四 七七二

○原告ノ請求ハ縱令交換的給付ヲ求ムルコトヲ明言セストスルモ相手方ニ對スル雙務契約履行ノ請求中ニハ如上條件附請求モ當然之ニ包含セラルルモノト解スルヲ相當トス

七 六八七

○賣買立木ノ引渡ヲ爲シタル後代金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ニハ立木引渡ノ債務ト代金支拂ノ債務ハ引換ニ之ヲ履行スルモノニ非スシテ立木債務ノ履行アリタル後茲ニ始メテ代金債務ノ履行期到來スルモノトス從テ引渡債務ニシテ履行セラレサル以上ハ縱令其辨濟ノ提供ヲ爲スモ之ニ依リテ直ニ代金債務ノ履行期カ到來スルモノニ非ス

七 八〇三

(參照)

雙務契約一旦成立シテ雙方ノ者既ニ各別ノ義務ヲ負擔シタル以上ハ其義務ハ各自獨立スヘクシテ以後其運命ヲ共ニスヘキモノニ非ス是故ニ義務ノ免脱ヲ得ルニハ各自各別ニ法律上義務消滅ノ原因ニ依ラサルヘカラス乃チ一方(上告人)ノ義務ノ一部タルモノカ契約上ノ引渡期限

以前ニ在リテ天災ノ爲メ滅盡シ引渡ノ義務ヲ盡ササルニ非ス之ヲ盡ス能ハサルコトニ至ルト
ハ法律上義務消滅ノ原因中所謂履行ノ不能ニ依リ當然其義務ノ免脱ヲ得ヘキモノトス然ル
ニ原院ハ目的物一部ノ滅盡ニ對シ一方(上告人)ニ所有權アルニ執拗シ他ノ一方(被上告人)ニ
代金支拂ノ義務ナキモノト判決シタルハ其當ヲ得サルモノナリ
雙務契約ノ履行ヲ要求スル者ハ先ツ自己ノ義務ヲ履行スルヲ要ス
雙務契約ハ給付ノ順序ニ付キ特約ナキトキハ當事者雙方ニ於テ同時ニ之ヲ履行スヘキモノト
ス故ニ未タ義務ヲ履行セサル一方ハ他ノ一方ニ對シ之ヲ履行ヲ求メ得ヘキモノニ非ス

第五百三十四條

『第五百三十四條』

○民法第五百三十四條物ノ滅失ノ事由カ債務者ノ責ニ歸スヘキトキトハ
其滅失カ債務者ノ行爲又ハ過失ト事實上原因結果ノ關係ヲ有シ其行爲
又ハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セザリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ
○請負ニ係ル建築物カ其竣工前天災ニ罹リ破壊シタルトキハ之ニ因テ生
シタル損害ハ所有者タル請負人ノ負擔ニ歸スヘキモノナルヲ以テ特別
ノ事情ナキ限ハ注文者ニ對シ其工事ニ關スル費用ノ賠償ヲ求ムルコト
ヲ得ス

第五百三十六條

『第五百三十六條』

○請負工事ノ履行不能カ注文者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ原因シタルトキハ
請負人ハ自己ノ債務ヲ免レタルニ因リテ得タル利益ヲ注文者ニ償還ス

第五百三十七條

『第五百三十七條』

ルコトヲ要スルモ請負ノ報酬ヲ受クル權利ハ之ヲ失フコトナシ
○使用者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ勞務者カ勞務ニ服スルコト能ハサ
ルニ至リタルトキハ民法第五百三十六條第二項ノ適用ニ依リ勞務者ハ
其勞務ヲ終ラサルトキト雖モ報酬ヲ受クル權利ヲ有スルモノトス
○第三者ノ爲メニスル契約モ亦自己ノ爲メニスル契約ト同シク之ニ因テ
生スル債務ニ期限若クハ條件ヲ附着セシメ得ルモノトス
○民法第五百三十七條ハ當事者カ第三者ノ利益ノミヲ爲メニスル場合ハ
勿論第三者カ契約ヨリ生スル利益ヲ享受セント欲セハ自ラ反對給付ヲ
爲ササルヘカラサルカ如キ場合ヲモ併セテ規定シタル法條ナリトス
○民法施行前ニ於テモ第三者ノ利益ノ爲メニスル契約ハ書面ヲ以テ締結
セサレハ之ヲ取消スコトヲ得ルトノ規定存在シタルコトナシ
○契約ハ當事者ヲ拘束スルニ止マリ第三者ニ其效力ヲ及ホササルヲ原則
トスルカ故ニ民法第五百三十七條ノ如キ特別ノ規定アルニ非サレハ第
三者ハ其契約ニ基キ直接ニ履行ヲ請求スルコトヲ得ス
○契約當事者カ第三者ヲシテ權利ヲ取得セシムル意思ナクシテ單ニ其
方カ相手方ノ第三者ニ對スル債務ヲ辨濟スヘキコトヲ約シタルニ止マ

元	1066
四	1356
三	299
三	299
四	907
三	221

二七	494
二九	68
二九	62
三〇	111
三五	100

ルトキハ其效力ハ第三者ノ爲メニ生セス從テ第三者カ受益ノ意思表示ヲ爲スモ之ニ因リ其第三者ハ右當事者ノ一方ニ對シ直接ニ給付ヲ請求スル權利ヲ取得スルモノニ非ス

○當事者ノ一方カ第三者ニ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ要約者ハ諾約者ニ對シ第三者ニ給付ヲ爲スヘキコトヲ要求スル權利ヲ有シ其權利ノ消滅時効ハ契約ニ始期ヲ附セサル限り契約成立ノ時ヨリ進行スルモノニシテ第三者カ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示セサルニ依リ其進行ヲ妨ケラルヘキモノニ非ス

○如上ノ場合ニ於テ第三者カ要約者ノ權利ノ時効ニ因リ消滅スル迄ニ利益享受ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ諾約者ニ對スル給付請求ノ權利發生シ獨立シテ時効ノ進行ヲ始ムヘキハ勿論ナリト雖モ要約者ノ權利カ時効ニ因リ消滅シタル以後ニ於テ爲シタル利益享受ノ意思表示ハ第三者ノ權利ヲ發生セシムル效力ナキモノトス

○第三者給付ノ契約ハ契約當事者カ契約ノ目的タル給付ノ上ニ第三者ヲシテ一定ノ權利ヲ取得セシムル目的ヲ以テ當事者ノ一方カ相手方ニ對シ第三者ニ給付スヘキコトヲ約スルニ因リテ成立スルモノナレハ要約者ト第三者トノ間ニ新ナル獨立ノ給付ヲ約シタル場合ノミナラス既存

債務ノ履行ヲ引受ケ支拂ヲ爲スコトヲ約スル場合ニ於テモ當事者ノ意思カ第三者ヲシテ權利ヲ取得セシムルニ在ルトキハ第三者ノ爲メニスル契約ハ成立スルモノトス

(反對)

民法第五百三十七條ハ契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ノ規定ニシテ其第三者ハ債務者ニ對シ直接ニ契約ノ目的タル給付ヲ請求スル權利ヲ取得スルニ至ルモノナレハ第三者カ給付ヲ受クヘキ債權關係ハ契約當事者ノ一方ト第三者トノ間ニ於テ未ダ曾テ存在セサルモノナルヲ要ス

契約當事者ノ一方カ第三者ニ對シ既ニ負擔セル債務ヲ相手方ニ引受ケシムヘキコトヲ約シタル場合ノ如キハ民法第五百三十七條ノ規定ニ該當セス

債務者カ他人ヲシテ其債務ヲ引受ケシムヘキコトヲ契約セル場合ニ於テ債權者カ其他人ニ對シ直接ニ債務ノ履行ヲ請求スルニハ自己モ亦契約一般ノ規定ニ從ヒ該契約ノ當事者ニ加入シタル事實ナカルヘカラス

○民法施行前ニ在リテハ戶主カ家族ノ利益ノ爲メニ或者ト契約ヲ爲ストキハ家族ヲ代表シタルト同一ノ效力ヲ有シ家族ハ之ニ依リ當然契約ノ利益ヲ享受シタルモノトス

○民法第五百三十七條第一項ニ所謂第三者ハ必スシモ契約當時既ニ存在セル者タルヲ要セスシテ將來出現スヘシト豫期シタル者ヲ以テ第三者

一七五

一五二

一五二

一三七

六

六

六

四

三七

四二

四二

七

四七三

一一

一一

五五

ト爲シタル場合ニ於テモ其契約ハ同條ニ於ケル第三者ノ爲メニスル契約ナリトス

○如上ノ場合ニ於テハ第三者ノ出現ト受益ノ意思表示トノ法律條件ノ下ニ契約ハ有效ニ成立シ唯條件ノ成立スル迄ハ其效力ヲ發生セサルモノトス

(同三三)

他日成立スヘキ會社ノ爲メニ締結スル契約ハ其會社ノ成立ヲ條件ト爲シタル契約ニ外ナラスシテ斯ル場合ニハ其利益ヲ享受スヘキ第三者ハ其契約當時必スシモ現存スルコトヲ要セス

○契約ニ依リ利益ヲ受クヘキ者カ廢家ヲ再興スヘキモノナル場合ニ於テ契約當時再興者カ未タ確定セサリシ故ヲ以テ民法第五百三十七條第一項ニ該當セサル契約ナリト謂フヲ得サルモノトス

○民法實施前ニ在リテモ契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ニ第三者カ債務者ニ對シ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタルトキハ其表意ノ時ヨリ直接ニ該給付ヲ請求スルノ權利ヲ取得スルモノトス

(同三三)

契約當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スヘキコトヲ結約シタル場合ニ於テ第三者カ其

利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタルトキ債務者ニ對シテ直接ニ其請求ヲ爲シ得ルコトハ民法實施以前ニ於テモ法理トシテ認めラレタルモノトス

○契約當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ニ於テ第三者カ其契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタルトキ債務者ニ對シテ直接ニ給付ヲ請求シ得ルコトハ法理上當然ニシテ特ニ規定ノ存在ヲ要スルモノニ非ス故ニ民法實施前ニ在テモ第三者ヨリ債務者ニ對シ直接ニ給付ヲ請求スルコトヲ得

○民法施行前ニ於テモ契約當事者ノ一方カ自己ニ屬スル特定物ニ關スル物權ヲ第三者ニ移轉スヘキコトヲ約シタルトキハ該物權ハ其第三者カ債務者ニ對シ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル時ニ移轉スルモノニシテ物權移轉ノ爲メニハ第三者ト債務者トノ間ニ於テ更ニ契約ヲ締結スルコトヲ要セサリシモノトス

○第三者ノ爲メニスル契約ニ在リテハ第三者ノ權利ハ其第三者カ債務者ニ對シ受益ノ意思ヲ表示シタル時ニ發生スルモノナルモ當事者間ニ在テハ直ニ其效力ヲ生スルモノナルヲ以テ第三者カ契約ノ利益ヲ享受スルコトヲ拒絕シ履行不能ニ終ルコトアルモ債務者ハ必ス其目的タル給付ヲ爲スヘク之ヲ爲ササルトキハ遲滯ノ責ニ任スルモノトス

○當事者間ノ契約ニ於テ其一方カ第三者ニ對シテ有スル債權ヲ免除スルコトヲ約シタル場合ト雖モ其契約ハ有效ニシテ第三者ノ受益ノ意思表

七 二二三

七 二二三

三六 二九

七 二二三

三六 三六

三七 六三

三七 八〇九

四一 九〇七

三 三三

示アリタル時ヨリ免除ノ效力ヲ生スルモノトス

○改正前ノ商法中生命保險ニ關シ民法第五百三十七條ノ適用ヲ除外セル規定ナケレハ商法改正前ノ生命保險契約ニ於テ保險金受取人カ第三者ナルトキハ其者ノ權利ハ民法ノ通則ニ從ヒ利益享受ノ意思表示ヲ爲シタル時ニ發生シ及ヒ確定シタルモノトス

○如上ノ場合ニ於テハ第三者カ保險者ニ對シテ利益享受ノ意思表示ヲ爲ス迄ハ保險契約者ハ自由ニ保險金受取人ヲ變更シ又ハ指定スルコトヲ得ヘク敢テ第三者ノ承諾ヲ要セザリシモノトス

○第三者ノ爲メニスル契約ニ於テ第三者ノ債務者ニ對スル受益ノ意思表示ハ民法上ノ意思表示ナリト雖モ訴訟上ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(參照)

合意ハ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ限り效力ヲ有スルハ普通ノ原則ナリト雖モ變例トシテ第三者ニ效力ヲ及ホスコトアリ
戸主カ家族ノ利益ノ爲メ契約ヲ爲ストキハ家族カ代表セラレタルト同一ノ效力ヲ有シ家族ニ於テ當然其契約ノ利益ヲ享受スルハ我國ノ慣例ナリ
家族ノ利益ノ爲メニ締結シタル戸主ノ契約ニ付テハ家族ニ於テ其權利ヲ訴求スルコトヲ得
實家ノ戸主ト他家ニ縁組シタル家族トノ關係ニ付テモ前項ト同様ナリ

五	二二六
五	一三六
五	一三六
七	二二二
二九	七三
二九	七三
二九	七三
二九	七三

第三款 契約ノ解除

○賣主ハ賣買ノ條件ヲ履行セサル買主ニ對シテ賣買ヲ解除スルモ買主ノ轉賣ニ付キ保證人タルトキハ原賣買ノ條件ヲ了知セサル轉得者ニ對シ轉賣者ノ承繼人ナリトシテ原賣買ノ解除アリタルコトヲ主張スルコトヲ得ス

○違約者ハ違約セサル相手方ニ對シテ契約解除ノ權利ヲ有スルコトナシ
○契約當事者ハ苟モ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル以上ハ相手方ノ不履行ニ因ル解除ノ場合ト約定條件ノ到來ニ因ル解除ノ場合トヲ分タス豫メ有效ニ其解除權ヲ拋棄シ得ルモノトス

○契約カ適法ニ解除セラレサル限ハ縱令當事者間ニ解除ノ有無ニ關スル爭アリテ權利拘束ノ存續スル間ト雖モ債權者ハ仍ホ債務者ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

○契約ノ解除ハ契約ノ效力ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ一旦解除シタルトキハ解除以前ノ期間ハ當事者間ニ契約關係存續セシモノト看做ス

二九	一〇	一三三
三五	五	一五二
三七		二二九
三七		二二五
四二		四七七

ヲ得ス

○賣買契約ノ解除ハ賣買ノ效力ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ縱令買主ニ於テ一旦遲滞ノ責ニ任シタリシニセヨ其後賣買契約ノ解除アリタルトキハ遲滞ノ責ニ因ル損害賠償ヲ爲スノ義務ナキモノトス

○指名債權ノ讓渡ヲ解除シタル場合ニ於テ其債權者ノ轉換スル事實ハ讓渡ノ場合ト異ナラサルヲ以テ債務者ノ承諾アルカ若クハ之ニ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

(同旨)

指名債權ノ讓渡ニ付キ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ若クハ債務者カ之ヲ承諾シタル以上債務者其他ノ第三者ハ讓受人ヲ以テ真正ノ債權者ト認ムヘキコト勿論ナレハ讓渡契約解除ノ場合ニ於テモ亦其實質ヲ債務者ニ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○如上ノ場合ニ於ケル解除ノ通知ハ一旦債權者ノ地位ニ在リシ債權讓受人之ヲ爲スヘキモノトス

○陸軍兵器本廠ニ對スル銃彈藥拂下ノ契約カ拂下人ノ不履行ニ因リテ解除セラレ保證金全部ノ沒收處分アリタルトキハ其處分ニシテ取消サレ又ハ無効ト爲ラサル限リ拂下人ヨリ他人ニ與ヘタル該金圓取下ノ委任

ハ目的物消滅ノ爲メニ終了シタルモノトス

○契約ハ當事者間ノ契約ヲ以テ之ヲ解除シ前契約上ノ債權關係ヲ既往ニ遡リ消滅セシムルコトヲ得ルモノナレハ契約ヨリ生スル債權ノ目的カ性質上可分ナル場合ニ於テハ當事者間ノ契約ヲ以テ右契約ノ一部ヲ解除スルコトヲ得ルモノトス

○商法第二百八十六條ハ買主カ其目的物ヲ引取ラサル場合ニ於テ賣主ニ其供託又ハ競賣ノ權利ヲ認メタルニ過キスシテ之カ爲メ賣買代金ヲ提供シ目的物ヲ引取ラサル買主ニ對シ賣買契約ヲ解除シ損害ノ賠償ヲ求ムル權利ヲ賣主ニ認メタル民法ノ規定ノ適用ヲ妨クルモノニ非ス

○特定物ヲ目的トスル賣買ニ於テモ即時ニ其所有權ヲ移轉スル場合ニハ賣買契約即チ所有權ヲ移轉スルコトヲ約スル意思表示ニ因リ其目的タル所有權ハ契約ト同時ニ買主ニ移轉スルモノナルヲ以テ其賣買契約ヲ解除シタルトキハ契約ノ解除ハ當事者間ニ成立シタル權利關係ヲ消滅セシムルモノナルカ故ニ賣買契約解除ノ效果トシテ所有權ハ當然賣主ニ歸屬スルモノト解スヘキモノトス

○特定セル集團ニ付キ其數量ヲ示シテ爲シタル特定物ニ關スル賣買契約ニ於テハ其一部不履行アリ得ルモノトス

七五四

二四七

三三四

二六二

一四七五

五三三

一三五

二一〇

二五

二五

○契約ノ解除ハ特別ノ規定若クハ意思表示ナキ限り當然全部ニ及フヘキモノナレハ數回ニ分チ債務ノ履行ヲ爲スヘキ場合ニ於テモ債權者ハ一部不履行ニ因リ全部ノ契約ヲ解除シ得ルモノトス

(同三三)

契約ノ解除ハ特別ノ規定若クハ意思表示ナケレハ當然其全部ニ及フモノトス從テ契約ニ因ル債務チ一時ニ辨濟スヘキ場合タルト數回ニ分チテ之ヲ辨濟スヘキ場合タルトテ論セス債權者ハ一部ノ不履行ニ因リテ全部ノ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ

○解除權ハ其目的タル債務關係ノ繼續的ナルト否トニ拘ハラス之ヲ遡及的ニ消滅セシムルヲ原則トスルモノナルモ解約權ハ常ニ繼續的債務關係ヲ將來ニ向テノミ消滅セシムルモノトス

○解約權ハ常ニ基本契約ニ伴ヒ之ト運命ヲ共ニスヘキモノニシテ基本契約ノ存續スルニ拘ハラス獨リ時効ニ因リ消滅スルモノニ非ス

(參照)

契約取消ノ訴訟ハ必スシモ其契約關係者チ同時ニ被告ト爲ササルモ成立ツヘキモノトス一旦成立シタル契約ヲ解除セラレタルモノトスルニハ其解約カ暗黙ノ合意ニ因ルトキハ其實又一方ノ解除權ノ行使ニ因ルトキハ其者ノ意思表示又解除條件ノ到來ニ繫ルトキハ其條件到來ノ事實アルコトヲ要ス故ニ此等ノ事實又ハ意思表示ノ有無ヲ確メス單ニ當事者カ一年有餘間契約ノ履行ヲ拋擲シタリト云フ事實ト他ノ事情トヲ以テ暗黙ノ解除アリタルモノト認定

シタル裁判ハ不法ナリ

第五百四十四條

『第五百四十四條』

○契約ノ解除權ヲ有スル者カ其權利ヲ實行セントスルニハ相手方ニ向テ之カ意思表示ヲ爲スヘキコトハ民法施行前ニ於テモ尙ホ今日ト異ナラズ

○契約ノ解除ハ意思表示ノミニテ足り訴ヲ以テスルヲ要セサルニ付キ裁判上契約解除ノ承認ヲ言渡スカ如キハ失當ナリ

○契約解除ノ意思ヲ表示スルニハ明示ノ方法ニテモ又ハ默示ノ方法ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキニ因リ解除權ヲ有スル者カ契約ノ存續ト相容レサル請求ノ訴狀ヲ相手方ニ送達シタルトキハ解除ノ效力ヲ生スルモノトス

○當事者ハ一旦成立シタル契約ヲ解除シ又ハ其契約ヲ變更シ得ルモ一度解除シタル契約ヲ復活シテ最初ヨリ解除セラレサリシカ如ク爲スコトヲ得ス

○契約ニ依リ當事者ノ一方ニ解除權ヲ付與シタル場合ニ於テ相手方カ債務ヲ履行セサルトキハ敢テ履行ノ催告ヲ爲スコトヲ要セス其相手方ニ對スル意思表示ヲ以テ直ニ解除權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ

四三二

三七

三三

三四

三三

三四

三三

三四

三三

三四

三三

三四

三三

三四

三三

三四

三三

○契約解除ノ意思表示ニ付テハ法律上何等ノ方式ヲ要スルモノニ非サレハ訴訟當事者ハ訴狀答辯書若クハ口頭辯論ニ於テ攻撃又ハ防禦ノ方法トシテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

(同主旨)

○契約解除ノ意思表示ニハ法律上特ニ方式ノ規定ナキニ因リ買戻契約ノ當事者間ニ於テ買戻ヲ請求スル旨ノ訴狀カ相手方ヘ送達セラレタルトキハ則チ意思表示カ相手方ヘ到達シタルトキナルヲ以テ賣買契約ノ解除ハ此時ニ於テ其效力ヲ生スルモノトス

○契約解除ノ意思表示ヲ爲ス方法ニ付テハ法律上一定ノ方式アラサルヲ以テ何等ノ方式ニ依リテモ之ヲ爲シ得ヘキモノトス故ニ訴訟提起ト共ニ訴狀ニ依リテ其意思表示ヲ爲ストキハ訴狀カ相手方ニ送達セラレルト同時ニ其意思表示モ亦相手方ニ到達スルヲ以テ茲ニ解除ノ效力ヲ發生スヘシ

○月賦辨濟ノ契約ニ於テ債務者カ月賦辨濟ヲ怠リタルトキハ一時ニ殘金全額ノ辨濟ヲ請求シ得ヘキ旨ノ約定アル場合ニハ縱令債務者カ辨濟ヲ怠ルモ其請求權ヲ行使スルト否トハ債權者ノ自由ナレハ苟モ債權者ニ於テ取消ノ意思ヲ表示セサル限り該契約ハ依然トシテ有效ニ存在スルモノトス

○民法施行前ニ成立シタル買戻契約ニ依リ其施行後解除權ヲ行使スルニハ民法ノ規定ニ據リ相手方ニ對スル意思表示ヲ以テ足ルモノトス

○契約解除ノ意思表示ニ付テハ其原因ヲ明示スルコトヲ要スル旨ノ規定ナキカ故ニ之カ明示ヲ爲ササルモ苟モ解除ノ原因存シ之ニ基キテ解除ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思表示ハ有效ナリトス

○基本タル一ノ契約ニ附隨シ該契約ノ存在ヲ前提トシテ當事者間ニ從タル契約ヲ締結シタル場合ニ於テ其基本タル契約カ適法ナル原因ニ依リ解除セラルルトキハ其從タル契約ニ對シ特ニ解除ノ意思ヲ表示スルコトヲ要セス基本タル契約ト共ニ當然解除セラルルモノトス

(參照)

○雙務契約ハ當事者一方ノ義務不履行ノ爲メ當然解除セラルヘキモノニ非ス判決ヲ以テ其解除ヲ認メシムルニ依リ始メテ解除ノ効ヲ生ス
 ○義務ノ懈怠ヲ原因トスル雙務契約ノ解除ハ裁判所ノ判斷ヲ受クルニ非サレハ之ヲ行フ能ハス
 ○解除權ハ當然行ハルヘキモノニ非ス故ニ之ヲ行使セントスルモノハ相手方ニ對シテ其意思ヲ表示セサルヘカラス

『第五百四十一條』

○手附流ノ契約ト雖モ履行時期ノ徒過ハ契約解除ノ原因タルニ止マリ之カ爲メニ其義務ハ當然消滅スルモノニ非ス
 ○民法施行前ヨリ契約上ノ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リテモ尙ホ之ヲ履行セサルトキハ債權者ハ民法施行法第五十三條ノ規定ニ依リ

(第五百四十一條)

三六	一七八
三五	一五
三六	五九二
三九	一五九八
四一	一四一

元	七二六
五	一七三
二九	二〇
二九	五三
三	八七
三	一〇九

契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

三六

四〇三

○雙務契約ニ於テ當事者ノ一方カ自ラ盡スヘキ債務ノ提供ヲ爲シ相手方ノ債務履行ヲ要求セルニ拘ハラス其相手方カ債務ヲ履行セサルトキハ民法第五百四十一條ノ債務不履行者タルコトヲ免レス

四二

三六九

○注文者カ民法第五百四十一條ニ依リ請負人ノ債務不履行ヲ理由トシテ解除ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テ請負人ニ債務ノ不履行ヲ責ムヘキ事實ナキトキハ請負契約ハ依然トシテ其效ヲ有スルモノトス又其既ニ無効ニ歸シタル解除ノ意思表示ヲ以テ同第六百四十一條ニ依ル解除ノ效ヲ生シタルモノト爲スヲ得ス

四四

五

○不動産賣買ノ場合ニ於ケル賣主ノ登記義務ハ所有權移轉ノ義務ニ附隨シテ負ハシメタルモノナレハ賣買ヨリ生シタル債務ナリト云フヘク從テ登記義務ノ不履行ハ民法第五百四十一條ニ當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキトアルニ該當スルモノトス

四四

七〇八

○期間ヲ定メテ契約履行ノ催告ヲ爲スト同時ニ其期間内ニ履行ナキトキハ契約ヲ解除スル旨ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニハ其期間ノ經過ニ因リ契約解除權發生スルト同時ニ契約ハ解除セラレルモノトス

四五

四四六

同法條

民法第五百四十一條ニ依リ契約ノ解除ハ必スシモ催告ヲ爲スニ方リ定メタル期間内ニ相手方ノ債務ヲ履行セサルヲ待テ始メテ之ヲ爲シ得ルモノニ非ス其期間内ニ履行セサルコトヲ條件トシテ催告ト共ニ爲シタル解除ノ意思表示モ亦有效ナリ

四三

九一〇

○債務者ノ遲滯後ニ於ケル給付カ債權者ノ利益ト爲ラサルカ又ハ遲滯ノ爲メ給付不能ヲ生スルカ如キ特別ノ事由ナキ限り契約上ノ債務ニ對シテハ債權者ハ契約ヲ解除シタル後ニ非サレハ履行ニ代ルヘキ全部ノ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

四四

九三二

○民法第五百四十一條ノ規定ハ當事者ノ一方ニ債務不履行ノ責アル場合ニ於テ其相手方ヲ保護スル旨趣ニ出テタルモノナレハ一方ニ不履行ノ責ナキ以上ハ縱令相手方カ催告及ヒ解除ヲ爲スモ法律上其效ヲ生セサルモノトス

四五

五六一

○民法第五百四十一條ニ依リ契約ノ解除ヲ爲スニハ必ス先ツ相當ノ期間ヲ定メテ債務ノ履行ヲ催告スルコトヲ要スルモノナレハ其期間カ不相當ナルトキハ催告ハ無効ナリ從テ之ニ定メタル期間經過後幾日ヲ經過スルモ該催告ハ有效ト爲ルヘキ理由ナケレハ之ニ基ク契約解除ノ意思表示モ亦其效ナキモノトス

四六

二二六

○民法第五百四十一條ノ規定ニ從ヒ相當ノ期間ヲ定メテ債務ノ履行ヲ催

四六

二二六

民法 債權 契約 總則 契約ノ解除

四三七

二二六

○告シタル場合ニ於テ其期間内ニ履行ナキノ一事ヲ以テ當然解除セラレ
ヘキ特別ノ事由ナキ限ハ其期間經過後解除權行使前ニ債務ノ履行アリ
タルトキハ解除權ヲ行使スルコトヲ得サルモノトス

六

二二八

○債權者カ民法第五百四十一條ニ依リ契約ノ解除權ヲ有スルニハ債務ノ
不履行即チ債務者ノ付遲滯ヲ前提トスヘキモノナリト雖モ履行期ノ定
ナキ債務ニ在リテハ債務者ヲ遲滯ニ付スルカ爲メノ催告ヲ爲シタル後
更ニ同條所定ノ催告ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非スシテ債務者カ過失
ニ因ルト否トヲ問ハス債務ヲ履行セサルニ當リ債權者ハ相當ノ期間ヲ
定メテ履行ヲ催告シ遲滯ニ付スルト同時ニ其期間内ニ履行ナキトキハ
契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノトス

六

二五三

○民法第五百四十一條ニ所謂相當ナル期間トハ債務ノ履行ヲ準備シ之ヲ
履行スルカ爲メ要スル期間ヲ謂フモノニシテ其相當ナルヤ否ヤハ履行
スヘキ債務ノ性質其他客觀的事情ニ因リテ定ムヘク債務者其人ノ病氣
旅行等ノ如キ主觀的事情ヲ考察シテ定ムヘキモノニ非ス

六

二五三

○契約ヲ解除スルカ爲メニ其履行ノ催告ヲ爲スニハ當事者ノ一方ハ債務
ヲ履行セサル相手方ニ對シ辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ於テ履行ヲ爲スヘキ
旨ノ催告ヲ爲スニ非サレハ其效ナキモノトス

七

一三五

○相手方カ契約上ノ債務ヲ履行セサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ其不履
行ヲ原因トシテ契約ヲ解除シタルトキハ其契約ニ於テ偶々手附ノ交付
ニ因リ解除權ヲ留保セラレタリトスルモ其解除權ヲ行使スルニ非スシ
テ民法第五百四十一條以下ノ規定ニ依ル解除權ヲ行使スルモノナレハ
同第五百四十五條第三項ノ適用ヲ受ケ不履行ニ因リ生シタル一切ノ損
害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘク同第五百五十七條第二項ノ適用ナキ
モノトス

(參照)

支拂期日ヲ怠リタルトキハ賣戻約定ハ當然無効タルヘシトノ賣戻約定證ヲ所謂條件附ノ契約
ト認定シタル上ハ遲滯ニ付スルヲ要セス直ニ解除セラルヘキハ契約ノ性質上當然ルヘキコ
トナリ

義務不履行ハ損害ノ證明ナキモ契約ノ解除ヲ求ムル理由ト爲ルモノトス
契約者ノ一方カ違約者タル事實確定シ契約ヲ履行スル能ハサル情況アルトキハ他ノ一方ハ契
約解除ノ權アルコトハ雙務契約ニ於ケル普通ノ法理ナリトス
雙務契約ハ一方ニ於テ義務ヲ怠リタル事實アルモ他ノ一方ニ於テ何等ノ手續ヲモ盡サス當然
其契約ヲ解除シ得ヘキモノニ非ス
賣買契約ニシテ特約ナキ限ハ單ニ其豫定ノ履行期限經過シタル一事ヲ以テ契約ハ當然解除セ
ラルヘキモノニ非ス

二七	二六	二六	二九
三	四	一	二
四八二	一五六	七〇	六〇

債權者カ債務者ニ對シ債務履行ノ猶豫ヲ與ヘタル事跡ナク反テ他ノ事實ニ依リ其反對ノ意思ヲ知り得ラルル場合ニハ必スシモ特ニ其債務者ヲ遲滯ニ付スルヲ要セス直ニ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

賣買契約ハ其債務者ニ對シ履行ノ催告ヲ爲シ之ヲ遲滯ニ付シタル上ニ非サレハ之ヲ解除スルコトヲ得ス

義務ノ不履行ニ因リ契約ノ解除ヲ求ムルニハ相手方ヲ遲滯ニ付スルノ手續ヲ爲スヘキハ裁判上認ムル所ノ慣習ナリト雖モ相手方カ不當ノ主張ヲ爲シ以テ義務ヲ履行セサル事實明確ナル場合ニ於テハ更ニ遲滯ニ付スルノ手續ヲ爲スノ要ナシ

『第五百四十三條』

(第五百四十三條)

○民法第五百四十三條ハ契約ノ履行カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ絶對ニ不能ト爲リタル場合ヲ規定シタルモノニシテ其履行カ單ニ困難ト爲リタル場合又ハ債務者ニ於テ其債務ヲ履行セサルコトヲ明言シタル場合ヲ規定シタルモノニ非ス

○民法第四百十五條同第五百四十三條ニ所謂履行不能ハ必スシモ物理的不能ヲ意味スルモノニ非ス一般取引ノ觀念ニ從ヒ之ヲ不能視スヘキモノナルトキハ其履行ハ尙ホ不能タルヲ妨ケス

○賣主カ賣買ノ目的物ヲ第三者ニ讓渡シタル場合ニ於テ之ヲ第三者ヨリ回復シ買主ニ移轉スルコトハ取引上ノ通念ニ於テ不能ニ屬スヘキモノ

トス從テ買主ハ賣主ニ對シ全部賠償ノ請求權及ヒ契約解除權ヲ有スルモノト云ハサルヘカラス

(第五百四十四條)

『第五百四十四條』

○事務管理者ノ爲シタル契約解除ノ意思表示カ本人ニ效力ヲ生スルニハ其追認ヲ必要トスルヲ以テ買主カ自己ノ爲メニ賣買契約解除ノ意思ヲ表示シ併セテ自己ト共同ニテ買主ト爲リタル他ノ者ノ事務管理者トシテ其者ノ爲メニ賣買契約解除ノ意思ヲ表示スルモ其者ノ追認ナキ以上ハ之ヲ以テ買主ノ全員ヨリ爲シタル契約ノ解除アリト斷スルコトヲ得サルモノトス

『第五百四十五條』

(第五百四十五條)

○契約ノ解除ハ反對ノ規定若クハ反對ノ意思表示アラサル場合ニ於テハ當事者間ニ未タ曾テ法律關係ノ存セサリシカ如ク看做スヘキモノナレハ當事者ハ互ニ相手方ヲ原狀ニ復セシムルノ義務ヲ負フモノトス

○契約ヲ解除シタルトキハ雙方ノ當事者ハ互ニ其相手方ヲシテ契約締結以前ノ情態ニ復セシムルヲ以テ足ル故ニ特定物ノ買主ハ其原物ヲ返還シ不特定物即チ代替物ノ買主ハ其原物若クハ之ト同種類同品位ノ物ヲ返還スルヲ以テ足ルモノトス

三七

二六

三七

七

二

一五三

九七

一四三

三七

二

三七

三

二九

二九

三

八

四

三七

一四五

二六

七

三〇

○買主カ手附金ヲ交付スヘキ債務ヲ負擔セル場合ニ於テ賣主ニ對スル債權ト之ヲ相殺シタルトキハ縱令其賣買契約ハ解除セララルモ相殺ハ依然其効力ヲ存スヘキモノナレハ買主ハ手附金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

三

五五四

○契約當事者ノ一方カ相手方ニ債務不履行ノ責アリトシテ契約ヲ解除シ原狀回復ノ爲メ物ノ返還ヲ訴求シタル場合ニ於テ事實上相手方ニ不履行ノ責ナキカ爲メ解除權發生セサリトキハ其請求ハ無原因ニ歸スルヲ以テ縱令相手方ノ解除權行使ニ因リ當事者雙方ニ原狀回復ノ權利義務ヲ生シタル場合ト雖モ尙ホ之ヲ棄却セサルヘカラス

四

二九六

○權利讓渡ノ契約ヲ履行シタル後ニ至リ當事者カ其讓渡契約ヲ解除スルコトヲ合意スルハ當初ヨリ契約ヲ締結セサリシカ如キ狀態ニ回復セシムルコトヲ目的トスルモノニシテ斯ル法律行為ハ固ヨリ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスルモノニ非サルヲ以テ有效ナリトス

四五

五三九

○更改契約ヲ解除シタルトキハ反對ノ意思表示ナキ限り民法第五百四十五條ニ準據シ解除ノ効力ヲ既往ニ遡及シ各相手方ヲ原狀ニ回復スルノ義務ヲ生スト雖モ其効力ハ當事者間ニ局限セララルモノニシテ第三者ニ及ハサルモノトス

六

六三八

○交換契約一部ノ解除アリタルトキハ各當事者ハ其部分ニ付キ相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フモノニシテ給付ノ目的カ特定物ナルトキハ其所有權ハ直ニ相手方ニ移轉スルモノトス

六

二四七

○契約ノ解除ハ契約上ノ債務關係ヲ遡及的ニ消滅セシムルモノニシテ原狀回復ノ義務ハ既ニ履行セラレタル給付カ其原因タル債務關係ノ消滅ニ因リ法律上ノ原因ナキニ至リタルヲ以テ之ヲ返還セシムルヲ目的トスルモノナレハ其原理ニ於テ不當利得返還ノ義務ナリトス

六

一八七

(反對)
契約ノ解除ハ各相手方ヲシテ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フモノナレハ相手方ヨリ給付ヲ受ケタル金錢ハ之ヲ返還スヘク其返還義務ハ契約解除ノ效果トシテ生スルモノニシテ不當利得ニ基クモノニ非ス

六

一三九

○民法第五百四十五條第一項但書ノ第三者トハ解除セラレタル契約ニ基ク債權其モノヲ讓受ケタル特定承繼人ヲ包含スルモノニ非ス

七

一八一

(同主旨)

民法第五百四十五條第一項但書ニ所謂第三者トハ如上ノ場合ニ於テハ特別ナル原因ニ基キ雙務契約ニ於ケル一方ノ債權者ヨリ其受ケタル給付ノ物體ニ付キ或權利ヲ取得シタル者ヲ指稱シ解除セラレタル契約ヲ基礎トシテ生シタル債權ヲ讓受ケタル者ノ如キハ之ニ包含セス(第四百六十六條四二年四九〇頁參照)

四

四九〇

○民法第五百四十五條第三項ハ契約上ノ債務關係ハ契約ノ解除後モ尙ホ存在ストノ見地ニ基クニ非スシテ解除權行使者ヲシテ原狀回復ニ依リテハ未タ償フニ足ラサル損害ノ補償ヲ得セシメ其利益保護ヲ全フセントスル旨趣ノ規定ニ外ナラサレハ同條ヨリ推シテ原狀回復ノ債務關係ハ契約上ノ債務關係ノ變形ナリト論スルヲ得サルモノトス

○契約當事者ノ一方カ債務ヲ履行セサル場合ニ於テ相手方カ其契約ヲ解除シ且損害賠償ヲ請求スルニ付テハ其債務ノ目的カ特定物タルト不特定物タルトニ因リ差異ヲ生スルモノニ非ス

○債務不履行ニ因ル契約ノ解除ニ在リテハ解除權者ハ自己ノ被ムリタル損害ノ賠償ヲ相手方ニ對シ請求スルコトヲ得ルニ反シ民法第五百五十七條第一項ニ依ル契約ノ解除ニ在リテハ解除權者ハ相手方ノ被ムリタル損害ヲ其相手方ニ賠償スルコトヲ要スルモノトス

○相手方カ契約上ノ債務ヲ履行セサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ其不履行ヲ原因トシテ契約ヲ解除シタルトキハ其契約ニ於テ偶々手附ノ交付ニ因リ解除權ヲ留保セラレタリトスルモ其解除權ヲ行使スルニ非スシテ民法第五百四十一條以下ノ規定ニ依ル解除權ヲ行使スルモノナレハ同第五百四十五條第三項ノ適用ヲ受ケ不履行ニ因リ生シタル一切ノ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘク同第五百五十七條第二項ノ適用ナキモノトス

○債務不履行ヲ原因トスル契約解除ニ基ク損害賠償タル差額ヲ算定スルニハ必スシモ契約解除當時ノ時價ヲ標準トスルヲ要セス苟モ其差額カ債務不履行ノ爲メニ其不履行ノ事實アリタル以後ニ於テ事物自然ノ趨勢ニ從ヒ生シタル損害額ト爲スニ足ルモノナル以上ハ契約解除以前ニ生シタルモノナルト否トヲ問ハス之カ賠償ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス

(同主旨)

賣主カ買主ノ代金支拂ノ債務不履行ヲ原因トシテ賣買契約ヲ解除シタル上多少ノ時日ヲ經過シタル後ニ至リ該賣買ノ目的タリシ物件ヲ下落シタル時價ニテ他ニ賣却シタル場合ト雖モ其代金ト時價トノ差額ヲ以テ契約解除ノ爲メニ事物自然ノ趨勢ニ從ヒ通常生スヘキ損害ト爲スニ足ル以上ハ之ヲ損害額トシテ賠償ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス
契約解除ニ基ク賠償請求權ノ目的タル損害カ苟モ債務不履行ニ因リテ通常生スヘキモノナルニ於テハ縱令契約解除後ニ生シタルモノト雖モ普通ノ取引觀念ニ於テ其間ニ因果關係ノ存スルモノト認ムヘキ以上ハ賠償ノ請求ヲ爲スヲ妨ケサルモノトス

第五百四十六條

○當事者ノ一方ニ原狀回復ノ義務アリトスルモ相手方ニ於テ同時履行ノ

七	五	七	七
二二六九	一九九一	二二六〇	一五七六

六	七	七	六
一八六七	一四七五	一五七六	一八六七

抗辯ヲ提出セサル限り裁判所ハ民法第五百四十六條ニ依リ同第五百三十三條ヲ準用スヘキモノニ非ス

〔第五百四十八條〕

○契約ノ解除權ヲ有スル者カ自己ノ行爲又ハ過失ニ因テ契約ノ目的物ヲ滅失セシメ爲メニ相手方ヲ原狀ニ回復セシムルコトヲ得サルニ至ラシメタルトキハ其解除權ヲ行使スルコトヲ得サルモノトス

○民法第五百四十八條第一項ノ規定ハ解除權行使ノ結果原狀回復ニ付キ不確實ナル損害賠償ノ方法ニ依ルノ外適當ニ其目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルカ如キ場合ヲ豫想シタルモノナレハ苟モ一般取引ノ觀念ニ於テ原狀回復ノ目的ヲ適當ニ達スルコトヲ得ヘキトキノ如キハ同法條ノ規定ニ依リ解除權ヲ消滅セシムル法意ニ非スト解スヘキモノトス

第二節 贈與

○明治三年卒族解放ノ結果廢祿ト爲リタル者ニ對スル賦與金ノ下付ハ畢竟贈與ニ外ナラス

○民法施行前ニ於テモ贈與者カ戸主タル場合ナルト否トヲ問ハス贈與スヘキ財産ノ多寡ニ一定ノ制限アリテ之ヲ超過スル贈與ヲ無効ト爲ス

法則存在シタルニ非サレハ贈與財産ノ多寡如何ニ依リ契約ノ無効ヲ來スヘキモノニ非ス

○法律上給付ヲ爲スノ義務アルカ爲メ無償ニテ財産ヲ與フル契約ヲ爲シタルトキハ其財産ヲ與フルハ止ムヲ得サルニ出ツルモノニシテ單純ニ相手方ニ財産ヲ移轉スルノ意思ニ基キタルモノニ非サレハ贈與契約ナリト謂フヲ得ス而シテ如上ノ契約ハ或ハ辨濟若クハ代物辨濟タルコトアリ或ハ一種ノ無名契約タルコトアルモノトス

○婚姻ノ成立ニ際シ嫁聲ノ兩家ヨリ相互ニ又ハ其一方ヨリ他ノ一方ニ贈與ル結納ナルモノハ他日婚姻ノ成立スヘキコトヲ豫想シテ授受スル一種ノ贈與ニシテ婚約カ後ニ至リ當事者雙方ノ合意上解除セラレタルトキハ當然其效力ヲ失ヒ給付ヲ受ケタル者ハ其目的物ヲ相手方ニ返還スヘキ義務ヲ帶有スルモノトス

○未登記ノ土地ヲ他人ニ贈與シタル者カ其所有權移轉ノ登記ヲ爲スニ至ラスシテ死亡シタルトキハ其相續人ハ被相續人ノ登記義務ノ承繼者トシテ受贈者又ハ其相續人ニ對シ所有權移轉ノ登記手續ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スルモノトス

(參照)

七 九四九

三 二二四

四 八三

三 六三

五 四〇五

五 一四五〇

六 二九二

七 二八五

(參照)

贈與ハ其目的物ヲ引渡スニ非サレハ成立セサルモノニ非ス即チ引渡ハ其成立ノ有無ニ毫モ關係ナク唯贈與者ハ引渡前ニ在テハ其贈與ヲ隨意ニ取消シ得ルニ過キササルノミ

第五百五十二條

○民法第五百五十二條ノ定期ノ給付ヲ目的トスル贈與ハ反對ノ意思表示ナキ限り贈與者又ハ受贈者ノ死亡ニ因リ其效力ヲ失フヘキモノニシテ該贈與カ終期ノ定アル期限附贈與ナルト否トニ依リ法ノ適用ヲ左右スヘキモノニ非ス

第五百五十三條

○負擔附贈與ニ於ケル負擔ノ内容カ永久ニ所有物ノ處分ヲ禁止スルニ在ルトキハ其負擔契約ハ無効ナリト雖モ負擔契約ト贈與契約トハ自ラ別箇ノ法律行為ニシテ唯彼此主従ノ關係アルニ過キサレハ負擔契約ノ無効ナルカ爲メニ贈與契約ハ無効ト爲ラス

第三節 賣買

○或期間中契約者雙方隨意ニ解除ヲ爲シ得ヘキ約款ヲ附シタル賣買契約ヲ其儘存在セシメ其代金支拂期日ヲ該期間終了前ニ短縮スルモ當事者ノ隨意ニシテ不合法ノ契約ニ非ス

○地所建物ノ所有者カ其物件ヲ各別ニ二人ニ賣渡シタル場合ニ於テ最初

ニ之ヲ登記シタル者ハ他ノ者ヨリ優等ノ權利ヲ取得ス

○係爭山林ノ登記ヲ經サル先買者ハ均シク登記ヲ經サル他ノ買得者ニ對シ其權利ノ確認ヲ求ムルコトヲ得

○縱令裁判所ノ競賣ニ依リ地所ヲ買受ケタル者ト雖モ實際其被競賣者ニ

所有權ナク他ニ第三者ニ對抗スルヲ得ヘキ正當ノ手續ニ依テ之ヲ所有

スル者アル場合ニ於テハ其真正ノ所有者ニ對抗スルヲ得ス

○當事者間ニ於テ債權ヲ擔保シ且抵當權設定ノ便宜上竝ニ差押豫防ノ爲

メ不動産ノ賣買ヲ爲シタルトキハ債權擔保ノ爲メニスル所有權移轉ヲ

以テ其内容ト爲シタルモノニシテ其他ノモノハ附隨ノ事項トシテ觀察

スヘキモノナレハ所謂賣渡抵當即チ信託行為ノ一種ニ外ナラス

○賣買ニ因リ幼者名義ノ不動産ヲ其法定代理人ヨリ取得セントスル場合

ニ於テ買主タル者ハ其法定代理權ニ欠缺ナキヤ否其他權原ニ瑕疵ナキ

ヤ否ニ付キ調査ヲ怠ラサルコトハ普通注意ヲ用フル人ノ通常施スヘキ

注意ニ屬スルヲ以テ斯ル注意ヲ缺キタル爲メ右法定代理權欠缺ノ事實

ヲ知ラサリシハ過失ナリトス

○不動産ノ買主カ登記簿上其賣主カ所有名義ヲ有スルコトヲ認メ登記ヲ

二六

五二〇

六

二七三

四五

四七五

三

二六

三五

二六

三五

五

三五

八四

四五

六九二

二

五九六

○經テ其所有權ヲ讓受ケタルトキハ買主ハ一般取引上ノ觀念ニ從ヒテ取引ヲ爲シタルモノニシテ過失ノ責ナキモノトス

(刑)
○甲カ乙ニ辨濟ヲ擔保スル目的ヲ以テ山林ヲ賣渡シ之カ登記ヲ經由シタルトキハ當事者間ニ於ケル内部關係ニ於テハ所有權ノ移轉ナシト雖モ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ所有權ハ受任者タル乙ニ移轉スルヲ以テ第三者カ右信託ノ事實ヲ了知スルト否トヲ問ハス乙ト第三者トノ間ノ賣買ハ有效ニシテ之ニ因リ第三者ハ有效ニ所有權ヲ取得スルモノトス

○當事者間ニ於テ債權ヲ擔保スル爲メ所有權移轉ノ效果ヲ生セシムル意思ヲ以テ動産ノ賣買讓渡ヲ爲スハ俗ニ賣渡抵當ト稱セラルル信託的行爲ニシテ其目的物ノ不動産タル場合ト同シク法律上有效ナルモノトス
○賣渡抵當ハ債務者カ辨濟ヲ爲ササル場合ニ債權者ニ於テ目的物件ヲ處分シテ辨濟ニ充當スルコトヲ得セシムル爲メノモノナレハ縱令當事者ノ内部關係ニ於テハ債權者ニ所有權ナキモ債權者ニ於テ之カ處分ヲ爲スコトヲ得ル場合ニハ債務者ハ契約ノ旨趣ニ從ヒ該目的物ヲ債權者ニ引渡スノ義務アルモノトス
○權利ノ信託的讓渡ハ一定ノ目的ヲ達スルノ手段トシテ其目的ニ超過ス

二	六三七
二	九五五
三	八六五
四	一七四

ル權利讓渡ノ形式ヲ取りタル意思表示ニシテ其内容ハ或ハ第三者ニ對スル外部關係ニ於テノミ權利ヲ移轉シ或ハ全然權利ヲ移轉シテ唯一定ノ制限ヲ超ヘテ之ヲ行使スヘカラサルノ債務ヲ受信者ニ負擔セシムル等其目的如何ニ依リテ差異ヲ生スルモノトス

○權利ノ信託的讓渡ノ效力ハ箇箇ノ場合ニ就キ其意思表示ノ内容如何ヲ觀テ之ヲ判定スヘキモノナルカ故ニ甲者ヨリ乙者ニ内部關係ニ於テモ外部關係ニ於テモ漁業權ヲ移轉シ唯乙者ヲシテ擔保ノ目的ヲ超エテ權利ノ行使ヲ爲サス且期限内辨濟アリタルトキ擔保ノ目的物ヲ返還スルノ債務ヲ負擔セシメタル契約ナルコトヲ認メ權利ノ信託的讓渡ト爲シタル判決ハ正當ナリトス

○權利ノ信託的讓渡ハ無制限ニ權利ヲ讓渡スルモノニ非スシテ目的ニ依リ制限ヲ加ヘタル讓渡ノ意思表示ナルカ故ニ金錢ノ給付ヲ對價トシテ無制限ニ權利ヲ讓渡スル賣買ト同一視スヘキモノニ非ス
○不動産ノ賣渡抵當又ハ賣渡擔保トハ賣買ノ形式ニ依リ不動産ヲ擔保ニ供スル一切ノ行爲ヲ汎稱スルモノナレハ其内容及ヒ效力ハ常ニ一定スルモノニ非スシテ當事者ハ法規ニ違反セサル限り契約自由ノ原則ニ從ヒ擔保ノ目的ヲ達スルニ適當ナリト思量スル法律關係ヲ設定シ得ルモ

四	三三二
四	三三二
四	三三二
四	三三二

ノトス

五

一三七四

○賣渡擔保ニ基ク信託的所有權讓渡行為ニ在リテハ當事者ノ内部關係ニ於テハ所有權移轉ノ效果ヲ發生セスト雖モ之ニ依リテ擔保セラレタル債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ債權者ハ外部關係ニ於テ有スル權利ニ基キ目的物ノ交付ヲ受ケ之カ處分ヲ爲シ得ヘキ權利ヲ有スルモノトス

五

二五〇七

○債權擔保ノ目的ヲ以テスル信託的所有權讓渡行為ニ在リテハ第三者トノ關係ニ於テノミ所有權移轉ノ效果ヲ發生シ當事者内部ノ關係ニ於テハ同一ノ效果ヲ發生セサルモノト爲スヲ通常トスト雖モ當事者間特別ノ意思表示ヲ以テ外部關係ニ於ケルト共ニ内部關係ニ於テモ所有權ヲ移轉スヘキモノト爲スヲ妨ケス

五

一八二

(同旨)

賣渡擔保ハ所有權移轉ノ效果ニ制限ヲ加ヘ之ニ依リテ債權擔保ノ目的ヲ達セントスルモノナルカ故ニ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ其所有權ハ債權者ニ移轉スルモ當事者間ノ内部關係ニ於テハ移轉スルコトナク債務者ハ依然トシテ所有權ヲ有スルモノトス

三

八六五

○當事者間内部關係ニ於テモ所有權移轉ノ效果ヲ發生セシムル旨趣ヲ以テ信託的賣買ヲ爲シタル場合ニ於ケル當事者ノ意思ハ真正ニ所有權ヲ

三

六九二

讓渡スルニ在リテ單ニ質權又ハ抵當權設定ノ場合ト同一ノ效果ヲ發生セシメンカ爲メ所有權ノ移轉ヲ假裝シタルモノト觀ルヘキモノニ非サ

五

一八二

レハ債權者カ債務者ヲシテ其債務ノ辨濟ヲ受ケル迄目的物ヲ自己ニ代リ占有セシムルモ民法第三百四十五條ノ禁止規定ノ適用ヲ避脱センカ爲メニスル不正行為ヲ以テ目スヘキモノニ非ス

五

二九三

○賣渡擔保カ當事者間ニ於テハ所有權ヲ移轉セサル一種ノ信託行為ナル場合ニ於テハ買戻條件附賣買ノ性質ヲ有スル本物返シ契約ト其性質ヲ異ニスルモノトス

五

二九三

○明治十八年頃ニ於テモ賣渡擔保ノ如キ信託契約ハ之ヲ禁シタル法規存

五

二九三

在セス又公序良俗ニ反スル事項ニ非サリシモノトス

五

二九三

○賣渡擔保ニ於テ當事者カ表示スル所有權移轉ノ意思ハ債權擔保ノ目的ニ伴隨シテ制限セラレ當事者間ノ内部關係ニ於テ所有權ヲ留保スルモノナレハ債務者ハ絶對的ニ所有權ヲ債權者ニ移轉スルノ意思ヲ有スルモノト謂フヲ得ス

五

二九三

(同旨) 債務者カ其所有財産ノ名義ヲ移轉スルコトニ依リテ之ヲ其債務ノ擔保ニ供シタル事實アリトスルモ其所有權ハ常ニ必スシモ債權者ニ移轉シタルモノト爲スヲ得ス裁判所ハ當事者ノ意思

ヲ探究シ職權上該移轉行為ノ性質ヲ決スルノ責務アルモノトス

○買主カ單ニ第三者ト養子縁組ヲ爲スコトヲ條件トスル賣買契約ハ必スシモ養子ト爲ルヘキ買主ノ自由ヲ強制スルモノニ非サレハ公ノ秩序ニ反スルモノト謂フヲ得サルモノトス

○動産又ハ不動産ニ對スル所有權ノ信託的讓渡ハ一種ノ法律行為タルヲ以テ其效果ノ内容ハ一ニ當事者ノ意思表示ニ依リ定マリ信託的讓渡ナルカ故ニ其所有權ノ歸屬ニ關スル一定ノ法則アルモノニ非ス

(同主旨)

不動産ノ賣渡抵當又ハ賣渡擔保ハ其内容如何ニ依リ或ハ不動産ノ所有權ヲ債權者ニ移轉シ或ハ依然債務者ニ殘存セシムルコトアルヲ以テ此等ノ行為ハ總テノ場合ニ於テ當時者間ニ所有權移轉ノ效果ヲ生セサルモノト論斷スヘキモノニ非ス

○債權擔保ノ爲メ不動産ヲ信託的ニ賣買シ之カ登記ヲ爲シタル場合ハ内部關係ニ於テ所有權ヲ移轉セサル當事者間ニ於テモ其登記ハ有效ナリトス

○土地ト分離セサル硯石ヲ目的トシテ賣買契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其法律行為ハ買主ヲシテ之カ採取ヲ爲サシムヘキ債權的效力ヲ生スルニ過キサレハ買主ハ硯石ヲ採取スル債權ヲ有シ得ヘシト雖モ其所有權

ヲ有スルコト能ハサルモノトス

○賣券擔保ハ信託行為ノ一種ニシテ賣買ノ意思表示ニ依リ成立スルモ債權擔保ノ實ヲ舉クルコトヲ本旨トスルヲ以テ買受人ハ債務者カ辨濟ヲ怠リタルトキハ目的物ヲ處分シテ辨濟ニ充當スルコトヲ得ヘシト雖モ辨濟期前ニ於テハ自由ニ處分スルコトヲ得サルノミナラス債務者カ辨濟ヲ爲シタルトキハ之ヲ返還スル手續ヲ爲ササルヘカラサルモノニシテ當事者間ノ債權關係ハ決シテ賣券擔保ノ提供ニ因リ消滅スルモノニ非ス

○債務者カ自己ト債權者及ヒ第三者ノ三人合意ノ上債權擔保ノ目的ヲ以テ土地ヲ第三者ニ信託的ニ賣買スル契約ハ之ニ因リ債務者ヲシテ其債務ノ辨濟ヲ爲スニ非サレハ第三者ヨリ土地ノ返還ヲ受クルコトヲ得サラシメ以テ債權擔保ノ實ヲ舉クルコトヲ得ルモノナレハ適法ナル信託行為ノ一種ニ屬シ契約自由ノ範圍内ニ在ル有效ノ法律行為ナリトス

○周旋業者ニ依リ他人トノ間ニ賣買ヲ爲ス場合ニ於テ周旋業者ノ言フ所ノ眞實ナルヤ否ヲ調査セス直ニ其言ヲ盲信シ其結果相手方トノ間ニ契約カ有效ニ成立シタリト思惟シテ契約ノ成立ヲ前提トスル行動ヲ敢テスルカ如キハ取引ノ觀念上相當ナル注意ヲ用キタルモノト謂フヲ得ス

隨テ之カ爲メ相手方ノ權利ヲ侵害シタルトキハ其侵害ハ過失ニ因ルモノニシテ相手方ニ對シ之ニ因テ生シタル損害ヲ賠償スル責アルモノトス

(參照) 係爭物ノ賣買ハ法律ノ禁スル所ニ非ス唯其目的物ノ係爭物ナルカ故ニ裁判ノ結局ニ因リテハ其契約ヲ解除スルニ至ルヘキ條件ヲ含蓄スルモノタルニ過キサルコトハ契約普通ノ法則ナリ故ニ係爭物タルコトヲ知得シタリト云フヲ以テ其損失ヲ擔當シテ買受ケタリトハ云フコトヲ得ス

地所假差押ノ登記カ抹消セラレタル後其地所ノ賣買登記ヲ受ケルモ假差押登記ノ抹消カ不法ニ出テ假差押ヲ爲サシメタル債權者之ニ關與セサルトキハ假差押ノ效力ハ依然トシテ失ハス從テ所有權ハ後ノ賣主ニ移轉スルモノニ非ス

村長カ村會ノ決議ヲ執行スルカ爲メ區有ノ地所ヲ賣却スルトキハ其行爲ハ公務上ニ出ツルト雖モ其賣買ハ私法上ノ行爲タル性質ヲ失フモノニ非ス村長カ公務ニ依リ一ノ私法上ノ行爲ヲ爲スモノトス從テ其賣買ノ取消ヲ求ムル訴ハ民事ニ屬シ裁判所構成法第二條ニ依リ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトス
凡ソ單純ナル再賣買ノ場合ニハ單ニ期限ヲ空過シタリトテ直ニ權利ヲ失却スルモノニ非スト雖モ權利ノ失却ニ關シ特約アルモノハ決シテ普通ノ場合ト同一ニ論スルヲ得ス
完全ニ成立シタル不動産讓與ノ如キハ爾後ノ登記手續等ニ不都合アルモノ之ヲ改正セシムルニ止マリ該讓與ヲ無効トセス
解除條件ヲ附シタル賣買ト單純ノ賣買ニシテ其代金支拂ヲ確實ナラシムル爲メ特約ヲ以テ期

七
一
二四九
二六
一
二七

二七
一
二七〇

二六
一
二〇八
二四
二七〇

第五百五十五條

『第五百五十五條』

根本タル讓與ニシテ全然無効ニ屬シ所有權ノ移轉ヲ生セサルトキハ縱令其物件カ表見ノ所有者ヨリ更ニ他人ニ轉讓シタルハトテ之カ爲メ轉得者ニ所有權移轉ノ效果ヲ生スルコトナシ
○所有權ヲ有セサル表見相續人ノ爲シタル不動産ノ賣買ハ特ニ法律ノ規定セル場合ノ外所有權移轉ノ效力ヲ生スルモノニ非ス
○數筆ノ田畑ヲ併合シテ賣買シ其契約證ニ掲ケタル合反別ニ僅ノ過不足アルモ其目的物カ適合スル以上ハ該契約ヲ有效ト認ムルニ妨ナシ
○代金ハ賣買ヲ組成スル一要素ナルカ故ニ一旦取結ヒタル賣買契約ニ於テ代金ヲ變更シタルトキハ前契約ハ更改セラレタルモノナリトス
○賣買ニ於テハ賣主及ヒ買主ノ意思ハ通常相手方ノ誰タルヲ問ハス單ニ權利ヲ移轉シ又ハ自己ニ取得シ金錢ヲ與ヘ又ハ之ヲ得ント欲スルニ過キサレハ當事者ノ何人タルヤハ其要素ト爲スニ足ラサルモノトス

三
一〇
三五

三三
六
一五五

三四
三
六九

三五
二
二五三

四〇
一
一六七

未必條件附賣買ハ條件ノ成就ト同時ニ賣買契約有效ニ成立シ其物件ノ所有權ヲ移轉ス
 賣買代價ハ必スシモ賣買物件ノ實價ト符合スルヲ要セス故ニ其代價カ實價ニ相當セサルモ賣
 買代價未定ナリト云フヲ得ス
 明治十五年八月内務省番外達第一條第二條ハ一丈以上ノ樹木ノ伐採ヲ禁シタルモノニシテ隨
 テ其樹木ノ處分ヲ禁シタルモノナレハ之ニ適合スル樹木ハ賣買ノ目的物タルヲ得ス
 賣買契約ハ合意ノミヲ以テ其目的物ノ所有權ヲ移轉スルノ效力ヲ生ス
 賣買目的物ノ引渡ト代金ノ支拂トハ之ヲ異日ニ期スルコトヲ得ヘク而シテ其引渡ノ行爲ハ直
 ニ代金支拂濟ノ推定ヲ生セス
 賣買代價ハ契約ノ際必スシモ之ヲ確定スルヲ要セス故ニ裁判所カ豫定價額ヲ認定シタル上其
 取引ヲ賣買ナリト判斷シタルハ相當ナリ
 差押中ノ物件ヲ目的トシタル二箇ノ賣買存スルトキ其間權利ノ優劣ヲ判スヘキモノニ非スニ
 箇ノ賣買共ニ無効ト爲スヘキモノトス
 普通ノ賣買契約ハ單ニ其期日經過ノミヲ以テ契約ヲ無効ニ歸セシムルコトヲ得ス
 賣買契約ハ特約ナキ以上ハ單ニ代金支拂期限ノ經過ノミヲ以テ無効ト爲ルヘキモノニ非ス
 賣買價額ハ賣買當時ノ需用供給ノ程度及ヒ物品ノ新舊等ニ依リ異ナルモノナレハ單ニ其製造
 費ノミヲ以テ標準ト爲スヲ得ス
 犯罪ニ原因スル地所建物ノ賣買ハ有效ニ成立セス從テ善意ノ買得者ト雖モ其實買登記ヲ取消
 シ所有名義ヲ眞所有者ニ復歸スヘキモノトス
 賣買ハ當事者ノ一方カ相手方ニ物ノ權利ヲ移轉シ又ハ移轉スルコトヲ約シ相手方ハ賣買代金
 ノ支拂ヲ約シタル事實アルコトヲ要ス故ニ單ニ價額ヲ定メ物ヲ引渡シタル事實アルノミニテ

三〇	二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二	一〇	八	二	二	二	二	二	二
七	九	七	二〇	九	八	七	七	六

(刑)

ハ必スシモ之ヲ賣買ナリト云フヲ得ス
 賣主カ一箇ノ物件ヲ時日ヲ隔テテ甲乙二者ニ賣却スルノ契約ヲ爲スモ之カ爲メニ先キニ締結
 セル賣買契約ハ當然消滅スヘキモノニ非ス
 賣買契約ハ代價ノ全部若クハ一部ノ支拂ヲ爲ササル間ハ完成セサルモノトスル慣習若クハ法
 理存セサルモノトス
 不動産ノ賣買ハ其登記ヲ爲ササレハ第三者ニ對抗スルヲ得スト雖モ當事者間ニ在テハ賣買契
 約ノ完結ト同時ニ其目的物ノ所有權ハ買得者ニ移轉ス
 強制競賣ニ付テハ賣主ハ裁判所ノ認ムル最高價格ヲ以テ其目的物ノ所有權ヲ移轉セシムルコ
 トニ付キ豫メ合意シタルモノト看做スヘキハ當然ナリ從テ強制競賣ニ於テモ合意カ所有權移
 轉ノ要素タルコトハ普通賣買ト異ナルコトナシ
 所有權ナキ者ノ爲シタル地所賣買ハ無効ナリ故ニ爾後幾回轉轉シ其都度登記書換ヲ爲スモ其
 所有權ハ移轉スルモノニ非ス
 冒認販賣ノ如キ犯罪行爲ニ因リテ他人ノ土地ヲ賣買スルモ其實買ハ固ヨリ無効ニシテ買得者
 ノ意思ノ善惡ト登記ノ有無トハ其效力ニ消長ヲ來サス

(第五百五十六條)

『第五百五十六條』

○再賣買ノ豫約ハ法律上之ヲ許スヘキモノトス從テ一旦豫約ヲ爲シタル
 以上ハ法律上時効ニ罹リ若クハ事實上豫約權利者カ明カニ權利ヲ拋棄
 セサル限ハ之ヲ無効視スルコトヲ得ス
 ○買戻契約ハ必スヤ賣買契約ト同時ニ爲スコトヲ要ス若シ賣買契約ノ後

三三	三二	三	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
二	七	四	一〇	六	六	五	四	四
七	一	一八	九	二五	二五	九	六	六

○ニ至リテ之ヲ爲ストキハ再賣買ノ豫約ニシテ買戻契約ニ非ス

三

九

二六

○買戻ト再賣買ノ豫約トハ法律上其性質ヲ異ニスルヲ以テ法律上買戻ノ條件ヲ具備セサルニ於テハ當事者ノ意思ニ拘ハラズ再賣買ノ豫約ト看做スコトヲ得

三

九

二六

○賣買ノ一方ノ豫約ニ基キ權利者ヨリ相手方ニ對シテ賣買ノ締結ヲ請求スルコトハ所謂方式ニ屬スルモノナレハ其請求當時ノ法律ニ從フヘキモノトス

三

九

二六

○期間ヲ定メテ賣渡ノ豫約ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方カ訴ニ依リ賣買完結ノ意思ヲ表示スルニハ期間内ニ訴狀ノ送達アリシコトヲ必要トス

三

九

二六

○不動産ノ賣主カ賣買代金ト同額ノ代金ヲ支拂フトキハ更ニ所有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ旨ノ契約カ賣買ノ契約ト同時ニ締結セラレタリトスルモ賣主ニ解除權ヲ留保スル意思ヲ以テセルニ非スシテ更ニ新ナル賣買契約ヲ締結セントスル意思ニ出ツルモノナルトキハ之ヲ以テ買戻ノ契約ナリト云フヲ得ス

七

七

三〇七

○當事者間ニ貸借ノ目的物タル土地ノ再賣買ノ豫約成立スルモ貸借ハ當然消滅スルモノニ非スシテ貸借人ニ於テ賣買完結ノ意思ヲ表示セサル限り土地ノ所有權ハ貸借人ニ存スルモノトス

七

七

一六七五

○當事者ハ豫約ヲ以テ代金支拂ト同時ニ登記手續ノ完了スルニ非サレハ本契約タル賣買ノ成立セサルコトヲ特約スルヲ妨ケサルモノトス

七

一六七五

○不動産ノ賣買豫約ヲ爲シタルトキハ相手方カ豫約者ニ對シテ賣買ヲ完結スル意思ヲ表示スルノミニ因リ直ニ賣買ノ效力ヲ生シ該不動産ノ所有權ハ當然相手方ニ移轉スヘク相手方カ右賣買ノ意思ヲ表示スルニ當リ必スシモ賣買代金ノ提供ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非ス

七

一六九九

（同法旨）

不動産ノ賣買ニ付テハ特別ノ事由アル場合ノ外賣買契約ノ成立ト同時ニ其所有權ハ買主ニ移轉スルモノナレハ賣買ノ豫約ノ場合ニハ相手方カ賣買完結ノ意思表示ヲ爲シ賣買ノ效力發生スルト同時ニ所有權ヲ移轉アルモノト認ムルヲ相當トス

七

三〇七

○賣買豫約ノ當事者カ一定ノ期間内ニ代金ヲ支拂フコトヲ以テ賣買契約成立ノ一要件ト爲シタルトキハ豫約權利者ハ其期間内ニ賣買完結ノ意思表示ト共ニ代金ノ提供ヲ爲スニ因リテ賣買契約ハ成立スルモノトス

七

二六三五

○如上ノ場合ニ於テ豫約義務者カ代金ノ受領ヲ拒絶シタルトキハ豫約權利者ハ代金ノ提供ヲ爲スニ因リテ賣買ノ成立ニ必要ナル代金支拂ノ要件ヲ履行シタルモノト謂フヘク豫約權利者カ其代金ヲ供託スルカ如キハ賣買ノ成立ニ必要ナラサル手續ナレハ之ヲ爲ササルモ賣買豫約上ノ

七

二六三五

權利ヲ失フモノニ非ス

(參照)

賣買豫約ヲ爲シタル後賣渡豫約人カ買受豫約ニ對スル負債ヲ以テ代金ニ充當シ賣買ヲ結了シタル以上ハ豫約ト云フコトヲ得ス

單純ノ賣買ヲ遂ケタル後買戻契約ヲ取結フモ再賣買ノ豫約ニ過キス

一旦賣渡シタル地所ニ付キ受戻金額並ニ期日ヲ定メ新ニ成立チタル一ノ和解契約ハ地所ノ再賣買ヲ約シタルモノニシテ未必條件附ノ賣買ニ非ス故ニ其買戻人ヲ遲滯ニ付シタル上ニ非サレハ期限ノ經過ノミヲ以テ直ニ買戻權能ヲ失ヒタルモノト爲スヘカラス

手附金ヲ授受シ賣買ノ條件及ヒ期日ヲ約シタル場合之ヲ賣買ノ豫約ト認ムヘキ一般ノ慣習ナシ故ニ斯ル場合ニ於テ當事者ノ意思何レニ存スルヤヲ認定スルハ事實承審官ノ職權ニ屬ス

(第五百五十七條)

『第五百五十七條』

○金錢以外ノ物件ヲ手附トシテ授受シタル場合ニハ必ス遲滯ニ付シタル後ニ非サレハ手附流ヲ認ムルヲ得ストノ規定ナシ

○民法第五百五十七條第一項ノ規定ニ依ル手附ノ拋棄又ハ其倍額ノ償還ハ解除權ノ内容ヲ成スモノニシテ買主又ハ賣主ハ手附ノ拋棄若クハ其倍額ノ償還ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ解除スルノ權利ナキモノトス

○買主カ賣主ニ交付スル手附ハ買主賣主雙方ノ爲メ解約ノ方法タルヲ通常トスルモノヲ以テ買主ノ債務履行ヲ確保スルニ過キサルモノトシ買

主カ契約ニ違反シタルトキ之ヲ拋棄シテ賣主ノ所得トスヘキコトヲ特約スルヲ妨ケサルモノトス

○民法第五百五十七條第一項ハ手附ノ交付ニ因リテ各當事者ハ解除權ヲ留保スルモノト爲シ買主カ其解除權ヲ行使スルニハ賣主ニ對スル損害賠償トシテ其手附ヲ拋棄スヘク賣主カ解除權ヲ行使スル場合ニ於テハ買主ニ對スル損害賠償トシテ手附金ノ倍額ヲ償還スヘキモノト爲シタルモノトス故ニ此場合ニ於ケル契約ノ解除ハ各當事者カ契約ニ因リテ有スル解除權ノ行使ニ依ルモノニシテ相手方ノ債務不履行ヲ原因トスルモノニ非ス

○債務不履行ニ因ル契約ノ解除ニ在リテハ解除權者ハ自己ノ被ムリタル損害ノ賠償ヲ相手方ニ對シ請求スルコトヲ得ルニ反シ民法第五百五十七條第一項ニ依ル契約ノ解除ニ在リテハ解除權者ハ相手方ノ被ムリタル損害ヲ其相手方ニ賠償スルコトヲ要スルモノトス

○手附ノ交付ニ因リ解除權ヲ留保シタルトキハ契約ヲ以テ解除ニ因リ生スヘキ損害ヲ豫定シタルモノナレハ解除ニ因リ相手方カ一層多大ナル損害ヲ被ムリタルトキト雖モ豫定セラレタル手附金又ハ其二倍ノ金額ヨリ以上ノ損害ヲ賠償スルコトヲ要セサルモノトス

民法 債權 契約 賣買 總則

七 二六五

二四 一 一四

二四 一 二八

二六 三九

三〇 六 二五

三四 五 二五

三 一〇六

六 四二

七 一五七六

七 一五七六

七 一五七六

○相手方カ契約上ノ債務ヲ履行セサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ其不履行ヲ原因トシテ契約ヲ解除シタルトキハ其契約ニ於テ偶、手附ノ交付ニ因リ解除權ヲ留保セラレタリトスルモ其解除權ヲ行使スルニ非スシテ民法第五百四十一條以下ノ規定ニ依ル解除權ヲ行使スルモノナレハ同第五百四十五條第二項ノ適用ヲ受ケ不履行ニ因リ生シタル一切ノ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘク同第五百五十七條第二項ノ適用ナキモノトス

(參照)

手附金ノ性質豫約賣買ノ擔保トシテ交付セシモノニ非スシテ即時ニ完成セシ賣買價額ノ一部ニ充當セシモノナルコト明カナルトキハ明約アルニ非サレハ買主ニ於テ賣買ノ履行ヲ怠ルコトアルモ直ニ過怠ノ損失トシテ其責任ヲ買主ニ歸セシムルコトヲ得ス

〔第五百五十九條〕

○船舶ノ賃貸借ニ於テ貸賃人ニ契約違反ノ廉數多アリテ賃借人カ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ民法第五百五十九條第五百七十條第五百六十六條ノ準用上賃貸借ノ解除權ヲ有スルモノトス

○甲ノ建設スル家屋ノ落成シタルトキ之ヲ乙ニ賃貸スル契約ヲ締結スヘ

キ旨ノ契約ハ賃貸借契約ノ豫約ナルヲ以テ賃借人タルヘキ乙ハ其家屋落成シタルトキ甲ニ對スル賃貸借契約完結ノ意思表示ヲ爲シ賃貸借契約ヲ成立セシメ得ヘク該賃貸借契約ヲ成立セシムルニ付キ甲ノ意思表示ヲ必要トセサルモノナレハ甲ニ對シ斯ル意思表示ヲ求ムル法律上ノ利益ヲ有セサルモノトス

第二款 賣買ノ效力

○買主カ既ニ給付ヲ受ケタル契約ノ目的物ヲ返却シ代金ノ返還ヲ求ムルカ如キハ契約ヲ爲ササル以前ノ原狀ニ復セシムルモノナルカ故ニ契約ノ解除ヲ爲サスシテ損害賠償ニ因ル代金ノ返還及ヒ目的物返却ノ爲メニ要シタル費用ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

○數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ其數量ヲ超過セル場合ニ付テハ民法上特ニ規定スル所ナケレハ契約ノ一般ノ原則ヲ適用シ賣主ニ代金増額ノ請求權アリヤ否ヤノ問題ハ一ニ當事者ノ意思ヲ解釋シテ之ヲ決定スヘキモノトス

○土地ノ分割讓渡ヲ目的トスル場合ニ於テハ其地番反別共ニ特定シタリトスルモ未タ分割手續ノ完了セサル間ハ分割スヘキ土地ノ部分ハ獨立シタル一箇ノ物ニ非サルヲ以テ之ニ對シ所有權ヲ取得シ得ヘキモノニ

七

一五七六

二五

五

九〇

六

八六九

七

三四一

三

一三六三

四

二九五

非ス

○物ノ買主ハ其目的物ヲ受領スヘキ權利ヲ有スルモ之ヲ受領スヘキ義務ヲ負フモノニ非ス

三

一〇八五

○物ノ買主カ其目的物ノ受領ヲ拒絕シタリトセハ是レ權利ノ不行使ニシテ債務ノ不履行ニ非ス從テ賣主ハ之ヲ理由トシテ賣買ヲ解除スルコトヲ得サルモノトス

四

八五六

○物上擔保權ノ目的タル不動産ノ買主ハ特約ナキ限り其擔保セラルル債務ヲ承繼スルモノニ非ス從テ買主カ其債務ヲ辨濟シタルトキハ賣主ニ對シ求償權ヲ有スルモノトス

四

八五六

○未登記不動産ノ賣主ハ先ツ自己ノ所有權ノ登記ヲ爲シテ買主カ所有權ノ取得登記ヲ爲スニ妨ナカラシムヘキモノナレハ若シ任意ニ其義務ヲ履行セサルトキハ買主ハ民法第四百二十三條不動産登記法第四十六條ノ二ニ依リ之ニ代位シテ先ツ賣主ノ所有權ノ登記ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

四

二五〇

○甲者カ其所有ニ係ル一筆ノ土地全部ヲ乙者ニ讓渡シタルトキハ縱令土地ノ坪數境界ヲ誤認シ繩延地又ハ其他ノ剩餘地ノ存在ヲ意識セスシテ讓渡行爲ヲ完了シタル場合ト雖モ其行爲カ右ノ錯誤ノ爲メニ無効ト爲

五

七四

ラサル限り此等ノ繩延地及ヒ剩餘地ハ讓渡セラレタル地盤ト一體ヲ成スモノトシテ乙者ノ所有ニ歸スルモノトス

五

三三〇

○不動産ノ買主ハ縱令之ヲ轉賣シテ所有權ヲ喪失シタリトモ先ツ自己ノ所有權ノ取得登記ヲ爲シ其取得ヲ完全ナラシメ然ル後轉得者ニ對シテ所有權移轉登記ノ義務ヲ盡スヘキモノナルヲ以テ轉賣ニ因リ自己ノ登記請求權ヲ失フモノニ非ス

五

六七四

○雙務契約タル賣買ト雖モ一旦當事者間ニ成立シタル後ハ其買主ニ屬スル權利ト義務トヲ分離シテ各別ノ法律行爲ノ目的ト爲スコトヲ妨クルモノニ非ス

五

八〇五

○不動産ノ買主カ代金支拂ノ債務ヲ消費貸借ノ目的ト爲シ其擔保トシテ該不動産ノ上ニ抵當權設定ヲ約シタル場合ニ於テハ其物權的意思表示カ賣買成立ト同時ニ爲サルト他日爲サルヘキ豫約ナルトヲ問ハス有效ナレハ縱令其抵當登記カ賣買成立ノ後ニ爲サレタリトスルモ之カ爲メニ該不動産ハ抵當權ノ負擔ナクシテ買主ノ資産ニ歸シ其一般債權者ノ共同擔保ト爲リタルモノト謂フコトヲ得サルモノトス

五

一〇三

○電話使用權ノ賣買契約成立シタルトキハ賣主ハ契約ノ履行トシテ電話使用權ヲ買主名義ニ變更スヘキ義務アルハ勿論買主ヲシテ現實ニ其利

益ヲ享有セシムル爲メニ賣主自身之ヲ奪取セス若クハ他人ヨリ奪取セ

ラレサルヘク擔保スヘキ責任ヲ有スルモノトス

○電話使用權ノ賣買アリタル場合ニ於テ該使用權カ一旦買主名義ニ變更

セラレタルモ未タ以テ賣主全部ノ義務ヲ盡シタルモノト謂フコトヲ

得スシテ賣主カ不法ニ自己名義ニ之ヲ回復シタルニ於テハ賣主ハ更ニ

變更ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

○賣買契約ニ於テ賣主カ買主ニ交付スヘキ目的物中ノ一部ニ契約ノ旨趣

ニ適合セサルモノアルトキハ買主ハ其不完全給付ノ受領ヲ拒絕シ且之

ヲ原因トシテ契約ヲ解除シ代金支拂ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ヘシト雖

モ既ニ之ヲ受領シ且契約ノ解除ヲ爲ササル以上ハ其不完全給付ノ爲メ

ニ目的物ノ價格ノ上ニ減損ヲ來シタル程度ニ於テ代金減額ノ請求ヲ爲

スコトヲ得ルモ之ヲ原因トシテ直ニ賣買代金全部ノ支拂ヲ拒絕スルコ

トヲ得サルモノトス

○特定物ヲ目的トスル賣買ニ於テモ即時ニ其所有權ヲ移轉スル場合ニハ

賣買契約即チ所有權ヲ移轉スルコトヲ約スル意思表示ニ因リ其目的タ

ル所有權ハ契約ト同時ニ買主ニ移轉スルモノナルヲ以テ其賣買契約ヲ

解除シタルトキハ契約ノ解除ハ當事者間ニ成立シタル權利關係ヲ消滅

セシムルモノナルカ故ニ賣買契約解除ノ效果トシテ所有權ハ當然賣主

ニ歸屬スルモノト解スヘキモノトス

○不動産ノ賣買ニ於テ賣主ノ義務ニ屬スル所有權移轉ノ登記手續ノ完了

ト代金授受トノ間ニハ取引ノ實際ニ於テ已ムヲ得サル時間上ノ前後ア

ルコト勿論ナリト雖モ賣主カ登記ニ因リテ所有權移轉ヲ完全ナラシメ

買主カ之ニ對シテ代金ヲ支拂フ法律上ノ觀察ニ於テハ之ヲ以テ賣主買

主雙方ノ債務カ同時ニ履行セラルルモノト謂フヲ妨ケサルモノトス

○不動産ノ賣買ニ付キ其登記ヲ爲ストキハ買主ハ其所有權取得ヲ第三者

ニ對抗スルコトヲ得ヘク其引渡ヲ受クル以前ニ在テモ之ヲ處分スルコ

トヲ得ルモノナレハ賣買ノ目的物タル土地ノ境界カ判然セサル等ノ如

キ特別ノ事情又ハ特約ノ存セサル限ハ賣買ノ登記ヲ爲スト同時ニ買主

ハ代金ノ支拂ヲ爲スヘキモノニシテ賣主カ目的物ヲ引渡ササルコトヲ

理由トシテ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

(參照)

賣買ニ於テ別ニ契約ナキトキハ買主ハ其目的物ノ引渡ヲ受クルト同時ニ賣主ニ對シテ代金辨濟

ノ義務ヲ負擔ス又代金辨濟ノ不可分のナルコトヲ主張スル權利アルモノハ賣主ニシテ買主ニ

非ス

土地賣買ニ付キ地圖及モ境界取調書ノ交付ハ賣主ニ於テ當然負擔スヘキ義務ニ非ス

民法 債權 契約 賣買 賣買ノ效力

四七三

二九 二九 七 七 六

一〇 六 一〇 一〇 一〇

一九 一九 一六五 二四五 二六二

一四九 一四九 一六五 二四五 二六二

一四九 一四九 一六五 二四五 二六二

一四九 一四九 一六五 二四五 二六二

一四九 一四九 一六五 二四五 二六二

一四九 一四九 一六五 二四五 二六二

一四九 一四九 一六五 二四五 二六二

一四九 一四九 一六五 二四五 二六二

一四九 一四九 一六五 二四五 二六二

一四九 一四九 一六五 二四五 二六二

一四九 一四九 一六五 二四五 二六二

一四九 一四九 一六五 二四五 二六二

（第五百六十五條）

○セテ損害賠償ヲ請求スル場合ハ勿論單獨ニ損害賠償ノ請求ヲ爲ス場合ヲモ包含セルモノトス

（第五百六十六條）

『第五百六十五條』

○賣買契約締結ノ後賣主ヨリ送付シタル物件ノ一部カ契約ノ目的物トシテ不適當ナル場合ニハ買主ハ一面ニ於テ更ニ契約ニ適スル物ノ發送ヲ請求シ他ノ一面ニ於テ不適當ナル物ヲ返却シ損害賠償トシテ其返却費用ヲ請求シ得ヘキハ勿論若シ賣主カ更ニ其不足分ヲ發送セサルトキハ買主ハ契約ヲ解除スルコトヲ不完全履行トシテ該不足分ノ代金減額即チ其返還ヲ請求シ得ルモノトス

○民法第五百六十五條ハ賣買ノ目的物ニ一部ノ欠缺アル場合ニ於ケル賣主ノ擔保責任ヲ定メタルモノニ過キサレハ數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ其數量ヲ超過スル場合ニハ賣主ニ代金増額ノ請求權アルコトヲ包含スルノ旨趣ニ非ス

（第五百七十五條）

『第五百七十五條』

○賣買ノ目的物ニ隱レタル瑕疵アリタルカ爲メ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ買主カ契約ノ解除ヲ爲スニハ賣主ニ於テ其目的ヲ知リタルコトヲ要セサルモノトス

（第五百七十五條）

『第五百七十五條』

○民法第五百七十五條ニハ賣買ノ目的物ノ引渡ニ付キ期限ノ定アル場合及ヒ之カ引渡前ニ代金支拂ノ期限到來スヘキ場合ニ付キ其區別アルコトヲ規定セサルヲ以テ同條ハ當事者ノ遲滞ニ付セラレタルト否トニ關セス之ヲ適用スヘキモノト解スルヲ相當トス
○民法第五百七十五條ノ規定ハ賣買ノ目的物カ果實ヲ生スル場合ニノミ之ヲ適用スヘキ旨趣ニ非ス
○不動産ノ賣買ニ於テハ其目的物ノ引渡ヲ爲ス迄ハ賣主之ヲ使用收益シ得ルヲ以テ引渡前ノ公租公課ハ特約ナキ限り賣主ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノトス

（第五百七十六條）

『第五百七十六條』

○民法第五百七十六條ハ買主カ其買受ケタル財産權ノ全部又ハ一部ヲ追奪セラルヘキ虞アルニ拘ハラヌ賣主カ相當ノ擔保ヲ供セサル場合ニ買主ヲシテ其危險ノ限度ニ應シ代金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒絕スルコトヲ得セシメタル規定ナレハ買主ノ此權利ハ賣主ノ代金支拂請求ニ對スル抗辯權ニシテ其請求ヲ竣テ始メテ行使シ得ヘキモノトス
○不動産ノ買主カ目的物ニ抵當權ノ設定アルコトヲ了知シテ之ヲ買受ケ

三七

五五

四

二三五

四

二三五

四

二三五

四

二四四

四二

二九五

三六

一三三

三六

一三一

○タル事實ト追奪擔保ノ權利ヲ留保スルコトトハ互ニ相容レサルモノニ非ス

(參照)

買主カ買受物ノ追奪セラレントスル訴訟アル場合ニ於テ賣主其訴訟ニ參加シ買主ノ爲メ防禦ノ方法ヲ提出シ賣買代金返還ノ請求ニ應セサルコトヲ得ルナリ適チ其理由果シテ正當ナレハ代金返還ノ義務ナシ然ラサレハ損害賠償ノ責ニ當ラサルヘカラス抑追奪擔保ノ義務ハ賣渡シタル物カ追奪セラレタルト同時ニ生スト雖モ賣主カ買主ニ賣買代金ニ相當スル金額ヲ支拂フニ依リ賣買ハ解除スルモノニ非ス之カ損害ヲ賠償スルニ過キサルノミ

第三款 買戻

○買戻約款附ノ賣買ニ於テ買主ハ解除條件附ノ所有權ヲ取得シ賣主ハ停止條件附ノ所有權ヲ保有スルモノト看做スヘキ時代ニ在テハ賣主ヨリ其權利ヲ他人ニ讓與スルニ當リ買主ニ之ヲ通知スルニ及ハス又買主カ其權利ヲ他人ニ讓與スルニモ賣主ノ承諾ヲ要セス其讓與ハ孰レモ唯權利移轉ノ登記ヲ爲スノミニテ何人ニ對シテモ有效ニ成立ス
○賣買ノ目的物カ全然消滅シタルカ又ハ其他絶對ニ賣買ノ目的物タルコト能ハサルニ至リタル場合ニハ其物件賣戻ノ約定書ヲ交付スルノ義務ヲ免ルルト雖モ其物件ヲ他人ニ賣渡シ現時之ヲ所有セサルトノ事ハ未

三元

二二三

二七

三三

三

四

六四

タ以テ其義務ヲ免ルルノ理由トスルニ足ラス

○現行民法ニ於テハ買戻權ハ一種ノ債權ナリ然レトモ買戻權ヲ有スル者ハ不動産ノ轉得者ニ對シ直ニ買戻權ヲ行フコトヲ得

○買戻約款附賣買ハ唯一不可分ナル事實關係ニ非サルヲ以テ事實裁判所ハ賣買契約ト買戻契約トヲ分離シ賣買ノ事實ヲ肯定シ買戻約款附帶ノ事實ヲ否定スルモ當事者ノ主張ニ反シテ事實ヲ確定シタルモノト云フヲ得ス

(參照)

數筆ノ地所ニ付キ買戻契約履行ノ訴アリタルトキ單ニ一筆ノ土地ニ對スル契約ノミチ有效トシ他ノ地所ニ對スル契約ヲ無効ナリト判決シタルトキ其有效ナル買戻契約ヲ履行スル爲メ辨濟スヘキ代金額ハ當事者協議ヲ以テ定ムヘキモノニシテ該判決ニ之ヲ指定セサルハ不當ニ非ス

地所買戻權ヲ賣買スルモ賣戻ノ義務ヲ有スル者ハ何等利害ノ關係ナクハ買戻權ヲ賣買スルニ際シ特ニ賣戻ノ義務ヲ有スル者ノ承諾ヲ求ムルヲ要セス而シテ「合意」ノ效力ハ第三者ニ及ハスレトノ法則ハ一ノ合意ヲ以テ故ナク其合意ニ關與セサル第三者ニ義務ヲ負擔セシメ又ハ其權利ヲ侵害スルヲ得ストノ趣意ニシテ何等利害ノ關係ナキ場合ニ適用スヘキモノニ非ス土地買戻ノ約款ハ土地收用法ニ依リ其土地ヲ收用セラルト同時ニ消滅シ隨テ買戻人ハ收用代價ノ多寡ニ付キ容喙スルノ權利ナキモノトス

買戻契約期限内買戻ニ付キ出訴シタルモ形式上不適法トシテ却下セラレタル者ハ買戻期限經

三三

四

七六

三三

二

三三

四五

五四三

二四

一

二八

二七

二

五九

二六

二

四三

過後ト雖モ更ニ出訴スルコトヲ得ヘキモノトス
買戻契約ノ附シアル地所カ他ニ賣却サレタルトキ買戻權利者ハ之ヲ知ラス其契約期間内賣渡
人ニ對シ買戻ヲ出訴シタルトキハ地所買取人ニ對シテモ期間ノ經過ヲ中斷スルノ效アリ
地所賣戻ノ契約アルヲ認知シ之ヲ買受ケタル者ハ其約務ニ對スル特定承繼人ナルニ依リ其契
約ヲ履行スルノ責アリ

地所ノ賣主ニ於テ其地所ニ付キ第三者ニ對シ買戻權ヲ有スルトキ買主カ其地所ヲ買戻シ自ラ
其地所ノ所有主トラシテコトノ目的ヲ以テ賣主ニ代リ第三者ニ對シ買戻權ヲ主張スル者ハ賣買
契約上ノ買主權ニ因リテ動作スルモノニシテ共同擔保權ヲ原因トスル所ノ債權者ノ地位ニ立
ツモノニ非ス故ニ法理上代位訴訟ヲ提起スルノ資格ナシ
買戻條件附賣買ニシテ其條件ノ履行ヲ一定ノ期間ニ繫ラシメタルモノハ其期間相手方ニ對シ
履行ヲ求メタルヤ否ニ因リ條件ノ成否ヲ決スヘキモノナリ故ニ期間内ニ履行ヲ求ムル意思ア
リシモノト認メ得ヘキ場合ニ於テハ期限後ト雖モ相當ノ準備時間内ニ出訴スルハ條件カ成就
スルモノノ如ク斷定セル裁判ハ不法ナリ

第五百七十九條

『第五百七十九條』

○買戻ハ解除權ヲ留保シタル一種ノ賣買契約ニ外ナラス從テ買戻契約ニ
因ル損害賠償ハ其賣買ノ解除セラレタルニ拘ハラズ買主ノ行爲ニ因リ
直接履行ヲ爲スコト能ハサル場合ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス
○買戻契約ハ必スヤ賣買契約ト同時ニ爲スコトヲ要ス若シ賣買契約ノ後
ニ至リテ之ヲ爲スコトキハ再賣買ノ豫約ニシテ買戻契約ニ非ス

(同主旨)

買戻ハ賣買契約ノ解除條件トシテ約スルモノナレハ賣買契約ト同時ニ之ヲ爲ササルヲ得ス故
ニ賣買契約後ニ於テハ其性質上買戻ノ豫約ナルモノ存スル理ナシ

○買戻ト再賣買ノ豫約トハ法律上其性質ヲ異ニスルヲ以テ法律上買戻ノ
條件ヲ具備セサルニ於テハ當事者ノ意思ニ拘ハラズ再賣買ノ豫約ト看
做スコトヲ得

○解除條件ノ成就セラレサル以前豫メ代金ノ提供ヲ爲スハ買戻ナル契約
ノ性質上固有ノ必要條件ニ非ス

○買戻ノ契約アル物件ヲ買主ニ於テ第三者ニ轉賣シタル場合ニ買戻權利
者カ買主ニ對シ買戻ノ約定履行ヲ請求セスシテ直ニ損害要償ノ請求ヲ
爲スハ不法ナリ

○買戻條件附賣買ニ付キ買主カ期限内ニ賣主ヨリ買戻代金ノ内入ヲ異議
ナク受領シタルトキハ殘金拂入ノ猶豫ヲ與ヘ買戻ノ意思表示ヲ承諾シ
タルモノト看做スヘキモノトス

○民法施行前ニ成立セル買戻契約履行ノ場合ニ於テハ特ニ豫メ解除ノ意
思表示ヲ爲スヲ要セス買戻請求ノ訴狀ヲ相手方ニ送達シタルトキハ此
時ニ於テ解除ノ意思ハ表示セラレタルモノト看做スヘキモノトス

三九	三三	三二	三一	三〇	二九	二八
二六	四二	五一	二六	二〇	一六	一五

三五	三四	三四	三三	三三	三二	三二
二六	二〇	一七	一三	一三	一三	一三
三九	三六	四一	四四	四六	四六	四七

○民法第五百七十九條ニ於テ買戻ノ特約ニ基キ賣買契約ヲ解除ヲ爲シ得ル者ヲ不動産ノ賣主ニ限リタルハ動産ニ關シテハ買戻ノ約款カ第三者ニ對シ占有ノ效力ニ依リテ不動産ニ關スルモノト同一ノ效果ヲ收メ難キニ由ルモノニシテ動産ノ買戻ヲ全然禁止シ當事者間ニ於テモ其契約ヲ無効ナラシムルノ旨趣ニ非ス

○不動産ノ買戻ハ民法施行以前ニ於テモ賣主カ賣買契約ト同時ニ其解除權ヲ留保セルモノニ外ナラス

(同主旨)

民法施行前ト雖モ不動産ノ買戻ノ特約ハ賣買ノ時之ヲ締結シ且第三者ニ對シテハ賣買ノ登記ト同時ニ其特約ヲ登記シタル場合ニ非サレハ法律上所謂買戻ニ非ス

○民法施行以前ニ於テハ不動産ノ賣主カ買戻權ヲ行使スルニハ賣買代金ヲ返還スルヲ以テ足り契約費用等ヲ返還スルノ義務ナキヲ通例トス

(同主旨)

民法實施前ニ於ケル買戻ニ付テハ特種ノ事情ニ依リ特ニ契約ヲ爲シタルカ又ハ慣習アル場合ノ外賣主ハ賣買代金ヲ返還スルヲ以テ足り契約費用等ヲ返還スルノ義務ナシ

○買戻權ハ一ノ債權ニシテ財產權ナルヲ以テ之ヲ他人ニ讓渡シ得ヘキハ當然ナリ

(同主旨)

民法第五百七十九條ニ規定セル買戻ハ不動産ノ賣主カ賣買ヲ爲スニ當リ買主ヨリ支拂ヒタル代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還スルニ於テハ賣買ヲ解除シ不動産ヲ買戻シ得ヘキコトヲ特約スルモノニシテ此賣主ノ權利ハ債權ニ外ナラサレハ債權讓渡ノ規定ニ從ヒ之ヲ讓渡シ得ヘキハ當然ナリ

○不動産ノ賣主ヨリ其買戻權ヲ讓受ケタル者ハ即チ該賣主ノ承繼人ナルヲ以テ賣主其人ト看做スヘキモノトス故ニ其讓受人ニ於テ買戻權ヲ行使シ賣買契約ヲ解除シタルトキハ其結果トシテ不動産ノ所有權ハ當然讓受人ニ歸屬スルモノトス

○民法施行ノ前後ヲ問ハス買戻契約ニ於テハ賣主ハ買主カ拂ヒタル賣買代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還スルコトヲ約スルヲ通例トスレトモ賣買代金ノ外其利子ヲ併セテ返還スルコトヲ特約シ得サルモノニ非ス

○買戻ノ特約ハ賣買契約ニ附隨スル契約ナリト雖モ之ト一體ヲ成シ賣買契約ノ構成部分ヲ成スモノニ非サルヲ以テ後ニ至リ當事者ノ合意ヲ以テ之ヲ消滅セシムルモ賣買契約ニ何等ノ影響ヲモ生スルコトナシ

○本物返賣買ハ明治十九年前後ニ在テモ行ハレタルモノニシテ其性質買戻條件附賣買ニ外ナラサリシモノトス

○或不動産ニ付キ甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ各賣買アリタル場合ニ甲乙間ノ特約ニ因リ發生シタル甲ノ乙ニ對スル買戻權ヲ丙ニ於テ讓渡ニ因リ取

三六

三四四

四一

八五九

二

七四二

三

五五七

四

二三一

三九

八二

四

四一

三七

四五三

四

二四二

三

四五

四

八五九

得シタルニ拘ハラズ乙丙間ニ於テ更ニ買戻ヲ特約シタルトキハ乙ノ丙ニ對スル買戻權ハ之ニ因リ別箇ニ發生シタルモノナレハ丙ハ乙ニ對シ買戻ニ應スヘキ義務ヲ負擔スルト同時ニ丙ハ乙ニ對シテ更ニ買戻權ヲ行使シ得ヘキモ之カ爲メニ乙ノ買戻權行使ヲ拒否スルコトヲ得ス

○不動産ノ賣主カ賣買代金ト同額ノ代金ヲ支拂フトキハ更ニ所有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ旨ノ契約カ賣買ノ契約ト同時ニ締結セラレタリトスルモ賣主ニ解除權ヲ留保スル意思ヲ以テセルニ非スシテ更ニ新ナル賣買契約ヲ締結セントスル意思ニ出ツルモノナルトキハ之ヲ以テ買戻ノ契約ナリト云フヲ得ス

○不動産ノ賣買契約ニ在リテハ之ニ因ル權利移轉ニ付キ登記ヲ爲スコトハ當事者カ其權利移轉ノ第三者對抗要件ヲ完備セシメ以テ其契約ヲ確實ニスルニ缺クヘカラサル手續ナレハ其登記ノ爲メニ要スル登録稅ハ其契約ヲ締結スルニ付テ必要ナル費用ニ屬ス從テ民法第五百七十九條ニ所謂契約ノ費用ハ如上登記ノ爲メニ買主カ支出シタル登録稅ヲ包含スルモノト解スルヲ相當トス

(參照)

受戻條件附賣買ハ賣買契約ノ當時其一條件トシテ受戻ヲ約スルニ非サレハ成立セス

二四	七	七	二	五
一				一六八五
二二八	二〇三	三〇七		

賣買契約ニ買戻ノ約款ヲ附スルトキ買戻權能ヲ行使スレハ舊賣買契約ハ廢滅シ賣渡物ハ曾テ賣主ヲ離レサルモノト看做スモノナレハ賣買ニ係ル物ノ價額カ買戻以前ニ減少スルモ買主ノ過失ニ原因セサレハ其損失ハ買戻權能ヲ行フ者ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス

地所賣買ト同時ニ買戻ノ契約ヲ併セテ爲スモノハ未必條件附ノ賣買ナリ此種ノ契約ハ其期間ヲ過クレハ直ニ買戻ノ權能ヲ失フト雖モ一旦賣買ヲ結了シ爾後更ニ買戻契約ヲ爲スモノハ再賣買ニシテ未必條件附ノ賣買ニ非ス而シテ再賣買ニ係ルモノハ買戻人ヲシテ遲滯ニ付シタル上ニ非サレハ期限ノ經過ノミヲ以テ買戻權能ヲ失ヘルモノト爲スヲ得ス

買戻契約ハ賣買契約ト同時ニ締結セサルヘカラス

買戻契約ハ賣買證書中ニ記載スルモ又ハ別證書ヲ以テ締結スルモ當事者間ニ在テハ買戻契約タル效力ヲ有ス

地所買戻約款ニ解除條件ヲ附シタル以上ハ其條件成就ニ因リ賣主ハ當然買戻權ヲ喪失スヘシ地所買戻約定ヲ當初期限ヲ定メテ締結シ其期限ニ至リ元ノ賣買代價ニ幾割カノ増金ヲ爲シ之カ延期ヲ爲スカ如キハ從來其事例アリ且法律ノ制限スル所ニ非ス

無期間ノ地所買戻ノ特約ニ對シ後日其買戻期間ヲ定メ若クハ其代金支拂期限ヲ定ムルモ之ヲ以テ再賣買ト看做スヘキモノニ非ス

(第五百八十條)

『第五百八十條』

○期間ヲ定メサル買戻契約ト雖モ公ノ秩序ニ反スルモノニ非ス

○民法施行前ニ於テハ買戻期限ニ付キ法律上何等ノ規定ナク期限後何時ニテモ買戻シ得ヘシトノ條件ヲ以テ自由ニ賣買ヲ爲シ來レル慣習アリ

三三	三一	三二	二九	二六	二六	二七	二六
一	一〇	四	一五	五	五		二
五三	五五	六二	一四	一四	一四	二二	三八二

テ裁判上ニ於テモ一般ニ之ヲ認許セリ

(同主旨)

民法實施前ノ買戻契約ニ付キテハ買戻期間ニ付キ民法第五百八十條ノ如キ制限ノ規定ナカリシヲ以テ當事者カ何時ニテモ買戻シ得ヘキ旨ヲ約シタルトキハ其契約ハ法律上有效ナリト云ハサルヘカラス

○民法實施前ニ於テハ最初定メタル買戻期間ヲ後ニ至リ變更スルハ裁判上認メラレタル慣例ニシテ其變更スル期間ニ付テモ別ニ制限ナシ

○民法第五百八十條第一項ハ當事者ノ定ムヘキ買戻期間ノ最長期ヲ限定シタルモノニシテ買戻期間ハ法定期間ニ非サレハ民法施行法第三十四條ヲ適用スルヲ得ス

○民法施行以前ニ於テハ同第五百八十條第一項ノ如キ規定存セザリシヲ以テ十年ヲ超ユヘキ買戻期間ヲ定メタル契約ヲ爲スモ妨ナシ

○本物返賣買ノ慣習ニ依レハ賣主ハ契約ノ時ヨリ十年以後ハ土地ノ買戻ヲ爲スコトヲ得ザリシモノナレハ爾後其土地ハ無條件ニテ買主ノ所有ニ屬スルヲ以テ賣主ニ對シ其所有權ノ確認ヲ求メ得ヘキハ勿論單純ナル賣買ニ因ル所有權移轉ノ登記手續ヲ請求スルコトモ亦不當ニ非ス

(第五百八十一條)

『第五百八十一條』

○民法施行前ニ在テハ買戻ノ登記アルカ又ハ轉得者ニ於テ買戻條件附賣買ナルコトヲ知テ之ヲ買受ケタル場合ニハ直ニ轉得者ニ依リ買戻ヲ爲スコトヲ得セシメタルモノトス

(同主旨)

民法施行前ニ在テハ買戻契約ヲ登記シタル者ハ轉得者ニ對シ直ニ買戻權ヲ行フコトヲ得ルヲ以テ一般ノ慣例トセリ

○買戻約款ヲ附シ土地ヲ賣買スルニ當リ該特約ヲ登記シタルトキハ爾後買主ヨリ其土地ヲ買受ケタル者ハ特定承繼人トシテ買戻義務者ト爲ルモノトス從テ民法第四百六十七條第二項ニ所謂第三者ニ該當セス

○買主カ買戻ノ特約ヲ登記セル不動産ヲ第三者ニ轉賣シタル場合ニ於テハ最初ノ不動産賣主カ買戻ヲ爲サント欲セハ其第三者ニ對シテ代金等ヲ提供シ賣買解除ノ意思ヲ表示セサルヘカラス從テ既ニ權利關係ヲ離レタル最初ノ買主ニ對シテ其意思ヲ表示スルモ何等ノ效力ヲ生セス

○買戻權ハ賣買ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルカ故ニ其後ニ登記スルハ第三者ニ對抗スルノ效ヲ生セシムル登記ノ目的ニ副ハサルモノトス

(參照)

地所買戻ノ約款アルモ之カ登記ノ手續ヲ爲スニ非サレハ第三者タル善意ノ買得者ニ對抗スル

三五
三
五

三四
八
三七

三五
六
一九

四三
二〇一

三
一〇七六

四
二二二

三五
三
五

三三
二
三

三六
三四四

三九
一〇六六

七
五七〇

(第五百八十三條)

ヲ得ス

『第五百八十三條』

○民法實施前ニ在テハ地所買戻ノ請求ヲ爲スニ現實其買戻代金ヲ提供シ又ハ之ヲ供託セシムヘキ規定ナキヲ以テ當時ノ契約ニ依リ買戻權ヲ有スル者ハ此等ノ手續ヲ爲サスシテ買戻ノ請求ヲ爲スヲ得ヘキモノトス

(同三三)

民法施行以前ニ締結セラレタル地所建家買戻契約ニ付テハ民法施行法ニ民法ノ規定ヲ適用スヘキ法文ナキヲ以テ同法ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス而シテ民法施行以前ニ在テハ買戻ノ請求ヲ爲スニ當リ代金ノ提供ヲ要ストノ法規ナケレハ其代金ヲ提供セザリシトテ買戻權ヲ喪失スルモノニ非ス

民法施行以前ニ於テハ買戻條件附契約ニ付キ其買戻期限内ニ代金ヲ提供スルニ非サレハ買戻權ヲ喪失スル如キ規定ナキヲ以テ其當時ノ契約ニ付テハ民法第五百八十三條ノ規定ヲ適用シ得ヘカラサルモノトス

○民法施行前ニ於テハ民法第五百八十三條ノ如キ規定ナク單ニ買戻ヲ爲スヘキ意思ヲ表示シ履行ノ場合ニ至リ代金ト引換ニ買戻ヲ遂行スル慣習ニシテ裁判上ニ於テモ之ヲ認許セリ

○不動産ノ賣主ニ於テ代金ヲ提供シ賣買解除ノ意思表示ヲ爲スモ買主ニ於テ之ニ應シ所有名義書換等完全ニ所有權ヲ移轉スルノ手續ヲ履行セ

サルトキハ賣主ハ其代金等ヲ買主ニ交付スルノ義務ナシ

○不動産ノ賣主カ其賣買解除ノ意思表示ヲ爲スニハ之ト同時ニ其代金及ヒ契約費用ヲ現實ニ提供スルノ義務アリ

○不動産ノ買主カ其物件ニ付キ費用ヲ出ダシタル場合ニ於テハ賣主ハ買戻ノ際之ヲ償還スルヲ以テ足り當事者間ニ特約ナキトキハ代金及ヒ契約費用ノ如ク契約期間内ニ之ヲ提供セサルモ其買戻權ヲ失フヘキモノニ非ス

○民法第五百八十三條ハ辨濟ノ提供ニ關スル同法第四百九十三條ノ適用ヲ除外スルモノニ非サレハ買主ニ於テ豫メ買戻代金及ヒ契約ノ費用ノ受領ヲ拒絕スルノ意思ヲ表示シタルトキハ賣主ハ買戻權ヲ實行スルニ付キ現實ニ代金竝ニ契約ノ費用ヲ提供スルコトヲ要セス其辨濟準備トシテ認ムルニ足ルヘキ行為ヲ爲シタルコトヲ買主ニ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ルモノトス

(參照)

買戻契約ノ期限後ニ買戻代金ノ幾部ヲ受領シタル事實アルニ於テハ之ニ依リ買戻期間ヲ延期シタルモノナリトノ推定ヲ下スコトヲ得ヘシ
地所買戻ヲ請求スル者カ其契約ニ基キ期限内ニ和解申請ヲ爲シタルトキハ公然督促ヲ爲スノ地位ニ立チタルモノナレハ必スシモ代金ノ提供ヲ要セス一應ノ推測上對手者ニ違約ノ責ヲ負

三五	三五	二七	二七
四五	四五	七	七
四三	四三	二	二
四六	四六	二六四	二六四
八三	八三	八四	八四

二九	二九	三三	三三
一	一	二二	二二
一	一	三二	三二
一	一	三七	三七
一	一	一〇	一〇
一	一	三	三
一	一	五	五

ハシムヘキモノトス
 地所買戻ノ權利ヲ有スル者カ期間ニ至リ其買戻ヲ請求シ代金ノ收受ヲ拒絶セラレタルトキ即
 時之カ供託ヲ爲ササルモ失權ノ效力ヲ來スモノニ非ス
 地所買戻ノ請求ヲ爲スニハ買戻權能者ニ於テ現ニ其代金ヲ支拂フヘシト陳述スル上ハ必スシ
 モ代金提供ニ付キ形式上ノ手續ヲ爲ササルモ其權能ヲ喪失スルモノニ非ス
 實物提供ヲ買戻契約ノ條件ト爲シ特約シタル場合ニ於テハ其不履行ニ因リ當然買戻權ノ喪失
 ナ來スコトアルモ普通ノ買戻契約ニ付テハ豫定期間内ニ代金ノ提供ヲ要スル法規ナシ故ニ單
 ニ其代金提供ナキ爲メ買戻權ヲ喪失スヘキ道理ナキモノトス〔同一判例二九年一〇卷一三三
 頁、三〇年二卷六七頁〕
 受戻權ノ行使ハ約定期間内ニ賣買ノ代金ヲ買主ニ返還シ其實買ノ地所全部受戻ノ手續ヲ爲サ
 サルヘカラス故ニ無代價讓受又ハ一部受戻ノ申込ヲ爲シタルニ過キサルトキ之ヲ以テ期間内
 適法ニ受戻權ヲ行使シタルモノナリト斷定シタル裁判ハ不法ナリ

第五節 消費貸借

○身元保證ニ供スル目的ヲ以テ爲シタル無記名整理公債證書ノ貸借ハ消
 費貸借ニシテ其所有權ハ公債證書ノ交付ト共ニ貸主ヨリ借主ニ移轉ス
 ルモノトス
 ○無記名公債證書ヲ貸借シタル場合ニ於テ其法律行爲カ消費貸借ト爲ル
 へキヤ否ヤハ當事者ノ意思ニ依リテ定マリ其意思如何ハ裁判所之ヲ認
 定スヘキモノトス

二六	四	一〇〇
二元	九	二一九
二元	一〇	一四二
三	二	八
三	五	一七
三	三	六九
三		三

○頼母子講ニ於テ當籤者カ講金ヲ領收スルヤ異日掛戻ヲ爲ス義務ヲ負フ
 者ナレハ其辨濟方法ハ普通ノ消費貸借ト異ナルコトハ勿論ナリト雖モ
 其權利關係ノ性質ハ消費貸借ナルヲ以テ通例トス
 ○無盡講又ハ頼母子講ノ當籤ニ基ク權利關係ハ會主若クハ世話人ト債務
 者タル當籤者トノ間ニ直接ニ成立シ會主又ハ世話人自己ノ債權トシテ
 之ヲ請求シ得ルヤ將タ債務者タル當籤者ト未當籤者タル他ノ講員トノ
 間ニ成立スヘキヤハ一ニ各講會ノ契約如何ニ依リテ之ヲ判定スヘキモ
 ノニシテ法律上一定ノ條規アルコトナシ

(同主旨)

頼母子講ノ當籤ニ基因スル消費貸借ノ權利關係ハ債務者タル當籤者ト未當籤者タル他ノ講員
 トノ間ニ直接ニ成立スルヤ或ハ其關係ハ當籤者ト會主若クハ世話人等トノ間ニ成立シ而シテ
 會主若クハ世話人等ト未當籤者トノ間ニハ別ニ權利關係ノ成立スルヤハ當事者間ノ契約ニ依
 リテ定マルヘキモノニシテ法律上一定シタルモノアルコトナシ

○甲者カ乙者ニ若干ノ金圓ヲ貸付シ其元利金ノ辨濟ヲ受クル爲メ乙者ノ
 藝妓營業ヨリ生スル收入金ノ全部ヲ取得シ之ト同時ニ乙者ノ營業ニ要
 スル税金其他一切ノ費用ヲ負擔スヘキコトヲ約定シタルトキハ其契約
 ハ消費貸借ヲ包含セル一種ノ無名契約ナリトス
 ○金錢ノ貸借ハ商業ノ爲メニスルカ又ハ其貸借ヲ營業トスル爲メ他ヨリ

三五	六	五八
三七		三〇三
三七		六〇七

○金銭ノ借入ヲ爲スカ如キ場合ニ在ラサレハ之ヲ民法行爲ト認ムヘキハ當然ナリ

三

一五五

○競落ノ方法ニ依ル無盡講金ハ普通金融ノ必要上不利益ノ競落ヲ爲シ之ヲ借用スルモノナレハ其性質消費貸借ナリトス從テ其掛戻ハ特別ノ理由アルニアラサレハ之ヲ各箇獨立ノ債務ナリト云フヘカラス

四一

一〇二

○頼母子講ニ於ケル講員相互ノ權利關係ハ消費貸借ノ性質ヲ具有スルヲ通例トスルモ規約ヲ以テ特ニ講員相互ノ權利關係ヲ定ムルコトヲ得ルモノナルヲ以テ當籤者及ヒ未當籤者間ニ於ケル權利關係ノ如何ナルモノナリヤハ事實裁判所カ各箇ノ場合ニ就キ當事者間ノ規約ニ從ヒ判斷スヘキモノトス

四

七五九

（同主旨）

○頼母子講ノ講員カ其規約ヲ以テ特ニ相互ノ關係ヲ定メ之ニ消費貸借以外ノ性質ヲ有セシムルハ固ヨリ隨意ナルヲ以テ各箇ノ場合ニ就キ當籤者ノ義務ハ純然タル消費貸借ニ基ク借用金返還ノ義務ナルヤ否ヤヲ規約ノ旨趣ニ從ヒテ判斷スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス

四四

一八〇

○債券ノ發行行爲ハ金銭ノ消費貸借ト異ナリ特定人ヲ對手者トスルモノニ非サルヲ以テ發行者ノ法人タルト自然人タルトヲ問ハス消費貸借ヲ爲ス權能アル者必シモ債券發行ノ權能アル者ト云フヲ得ス

四四

八二五

○消費貸借ヲ擔保スル爲メ抵當權ノ設定アリタルトキハ其擔保セントスル消費貸借カ抵當權設定ノ當時ニ於テ成立セルモノナルト將タ後ニ金銭ノ授受アルニ因リ成立スルモノナルトヲ問ハス其抵當權ハ有效ニ之ヲ擔保スルコトヲ得ルモノトス

二

三二

○消費貸借ハ縱令其債權ヲ擔保スル爲メノ抵當權設定カ官廳ノ許可ヲ經サリシ爲メ無効ニ歸スルコトアルモ特別ノ事情存セサル限ハ當然無効ニ歸スルモノニ非ス

二

四二

○無盡講ニ於テ講務ヲ處理スル爲メ講元講總代若クハ世話人ト稱スル者アルモ此等ノ者カ當籤者ニ對シ當籤金ノ掛戻ヲ請求スル權利アリヤ否ヤハ一定ノ慣習法則ナケレハ各箇ノ場合ニ於テ講契約又ハ當事者間ノ契約ニ從ヒ判斷スヘキ事實ニ屬スルモノトス從テ右ノ慣習又ハ規約ノ如キハ之ヲ主張スル者ニ於テ立證ノ責ニ任スヘキモノトス

四

一八〇

○頼母子講ノ敷札人カ講員ニ對シテ落札金ノ掛戻ヲ求ムル權利ハ其法律關係ノ消費貸借ナル場合ニ在テモ講員全體ノ爲メニ講金ヲ蒐集スル權利ニ外ナラサレハ講ノ敷札人タル資格ニ於テ有スル債權ナリトス

四

二四九

○抵當ヲ供シテ金銭ヲ借受ケタル者カ其債務ヲ辨濟スル場合ニハ金銭ヲ授受シテ後抵當權設定登記ヲ抹消スルヲ以テ世間普通ノ状態トス

五

四二三

○頼母子講ノ會主カ契約上未落者ニ對シテ講會ヲ開催シ入札又ハ抽籤ノ方法ニ依リ落札者ヲ定メ講金ヲ交付スヘキ義務アル場合ニ於テハ既ニ講金ヲ受領シタル落札者ハ爾後所定金額ノ掛戻ヲ爲ス義務ヲ負擔スルニ止マリ會主カ講會ヲ開催セサルカ爲メ講契約ヲ解除スルノ權利ヲ有セサルモノトス

○如上ノ契約ニ於テ入札ヨリ生スル引金ハ講金ヲ受領シタル落札者ニ於テハ將來之カ分配利益ヲ受クル希望ヲ有スルノミニシテ講會開催ニ隨伴スル當然ノ權利ニ非ス

○講會ハ規約ヲ設ケ之ニ依リ各講員ヨリ毎回拂込ムヘキ一定ノ金額ヲ徵收シ其徵收金ヲ以テ定時ニ入札又ハ抽籤ヲ行ヒ落札又ハ當籤シタル講員ニ掛戻ノ辨濟方法ニ依リ一定ノ金額ノ貸付ヲ爲スヲ普通トス

○如上ノ場合ニ於テ講會ノ會主又ハ世話人ノ如キ其事務ヲ管理スル者カ講會ノ規約ニ依リ付與セラレタル權限ニ基キ講會ノ貸付金ニ付キ自己名義ヲ以テ債權者ト爲ルハ其規約ニ依テ講金ノ掛込又ハ掛戻ニ關スル事務ヲ管理スルカ爲メニ外ナラサレハ講會ノ規約ニ反シ掛込金以外ノ金錢ヲ他ヨリ立替ヲ受ケ之ヲ未落札者ニ貸付ケ乍ラ其辨濟方法ノミ講會ノ規約ニ從ヒ既落札者ノ掛戻方法ニ依ルヘキコトヲ約スルカ如キハ

講會ノ事務管理者ノ權限外ニ屬シ講會關係ノ行爲トシテ其效ナキモノトス

○消費貸借成立後ニ至リ第三者カ借主ト連帶シテ其債務辨濟ノ責任ヲ負擔スルコトヲ約スル場合ニ於テハ之カ爲メニ債務者ノ數ヲ増加シ其體様ニ變更ヲ來スコトアルモ債務ノ内容ハ同一ニシテ變更ヲ來ササルヲ以テ更改ヲ生スヘキモノニ非ス

○甲部落ヨリ同部落ノ積立金ノ管理ヲ委託セラレ居ル乙カ該金員ヲ自己一個ノ名義ニテ丙ニ貸與シタルトキハ右部落ト乙トノ間ノ委託關係カ適法ナルト否トニ拘ハラス乙ト丙トノ間ノ貸借ハ有效ナリトス

○甲ハ乙ノ周旋ニテ丙ノ使用人ニ雇入レラルルコトヲ條件トシテ乙ニ謝金ヲ給付スヘキコトヲ約シ當事者間ニ該謝金ヲ目的トシテ消費貸借ヲ爲シタル場合ニ於ケル所謂條件ハ之ヲ丙方ニ雇入レラルルコトヲ謝金契約ノ目的ト爲シタルノ意ニ解スルヲ相當トス

(參照)

債權者カ保證人ノ眞否債務者ノ財産如何ヲ調査セサリシトテ其人ノミナ信用シテ其財産ヲ目的トセサル異常ノ貸借ナリト云フヲ得ス

頼母子講ノ世話人若クハ發起人ハ規約又ハ規約ニ明記セル場合ノ外私財ヲ以テ講員ノ怠リタル掛金ヲ返償スルノ責務ナシ

六	七	七	七	二五	三〇
九八〇	九六一	二三五	一四八八	六一	一〇

五	五	六	五	五
五五一	五五一	九八〇	五五一	五五一

〔第五百八十七條〕

○金銭ノ消費貸借ハ當事者ノ一方カ同數量ノ金銭ヲ返還スヘキコトヲ約シテ相手方ヨリ金銭ヲ受取ルヲ以テ其法律行為ノ要素トスルモノニシテ抵當ノ如キハ貸借契約ニ附随スル一ノ擔保ニ過キササルヲ以テ縱令其順位ニ關シ意思表示ニ錯誤アリトスルモ之カ爲メ貸借契約ヲ無効ナラシムヘキモノニ非ス

○消費貸借ハ借主カ現ニ金銭其他ノ物ヲ受取ルカ若クハ金銭其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ場合ニ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキニ非サレハ成立セサルモノトス

○消費貸借ニ於ケル金銭其他ノ物ノ引渡ハ必スシモ現實ナルヲ要セス簡易ノ引渡方法ニ依ルモ妨ナシ故ニ貸主カ借主ノ意思ニ反セサル第三者ヨリ辨濟トシテ受クヘキ金銭ヲ消費貸借ノ目的物ト爲シ之カ授受ヲ省畧シテ第三者トノ間ニ消費貸借ヲ成立セシムルコトヲ得ルモノトス

○當事者ノ一方カ一定數量ノ金銭ヲ受取ルヘキ場合ニ代物ヲ領收シ而シテ同一數量ノ金銭ヲ以テ返還ヲ爲スヘキコトヲ約スルトキハ仍ホ消費貸借契約タルコトヲ失ハス

○貸主カ借主ニ交付スヘキ金額中ヨリ借主承諾ノ上利息ノ前拂トシテ相

三	三
三	六
三	二五
三	二五
三	二五
三	二五
三	二五
三	二五
三	二五
三	二五

四	四
四	四
四	四
四	四
四	四
四	四
四	四
四	四
四	四
四	四

當金額ヲ控除スルモ是レ貸與金額ノ授受ヲ省畧シタルモノニシテ前拂利息ニ相當スル金額ニ付キ消費貸借ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

(同主旨)

民法第五百八十七條ハ必スシモ現實ニ金銭其他ノ物ノ授受アルコトヲ要スル旨趣ニ非ス故ニ當事者カ簡易ナル手續ニ依リテ其授受ヲ爲スモ借主ニ於テ經濟上現實ノ授受ト同一ノ利益ヲ受クルトキハ消費貸借成立スルモノトス

消費貸借ノ成立ニハ當事者間ニ金銭其他ノ物ヲ現實ニ授受スルノ必要ナク簡易ノ引渡ヲ以テ之ニ代フルモ妨ナキモノトス

○消費貸借ニ於ケル目的物ノ授受ハ必スシモ消費貸借ノ意思表示ト同時ナルコトヲ要セス後ニ至リ之ヲ爲スモ妨ナシ唯其授受アル迄ハ消費貸借成立セサルノミナリトス

○消費貸借ハ消費ノ目的ヲ以テ一定ノ金額ヲ貸付ケ債務者ハ辨濟期ニ於テ之ト同一ナル金額ノ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スルモノニシテ給付ヲ受ケタル金銭其物ノ返還ヲ爲スヲ要セサルハ勿論特約ナキ限ハ同一種類ノ金銭ヲ以テ返還スルコトヲ要セサルモノトス

(參照)

何人カ出金スルモ證書ヲ授受シ貸借ノ合意アリタル上ハ其合意上ノ債權者ニ訴權ナシト云フヲ得ス

貸借ノ目的物カ代替物ナルトキハ其所有權當然借主ニ移轉シ特定物ナルトキハ反對ノ意思カ

二八	二八
二八	二八
二八	二八
二八	二八
二八	二八
二八	二八
二八	二八
二八	二八
二八	二八
二八	二八

(第五百八十八條)

表明セラレサル限ハ其所有權借主ニ移轉セス

『第五百八十八條』

○民法第五百八十八條ノ法則ハ民法施行前ニ於テモ一ノ條理トシテ是認スヘキモノナリ

○消費貸借ハ借主カ現ニ金錢其他ノ物ヲ受取ルカ若クハ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ場合ニ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキニ非サレハ成立セサルモノトス

○當事者カ利息制限法ノ規定ニ超過セル利息ヲ授受スヘキコトヲ約定スルモ其合意ハ固ヨリ不法ニシテ之ニ基キ有效ナル債務關係ヲ發生セシムルコトヲ得ス故ニ其債務關係ヲ以テ目的ト爲シタル消費貸借ハ全然無効ナリトス

○買主カ賣主ニ支拂フヘキ代金ヲ以テ消費貸借ノ目的物ト爲シ公正證書ヲ作成シタル場合ニ於テハ縱令其貸借ノ内容ヲ記載セサルモ之カ爲メニ契約ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナキハ勿論該證書ノ記載事項ヲ目シテ實際ノ事實ニ符合セサルモノト云フヲ得ス

○當事者カ現ニ引渡スヘキ物ヲ所持セサルモ既ニ成立シタル消費貸借及ヒ其不履行ニ因リテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ場合ニ其物ヲ

(第五百八十九條)

以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立スルモノトス

○約束手形ノ所持人カ商法第五百二十九條同第四百八十七條ノ手續ヲ履行セザル間ニ於テハ裏書人ハ金員ヲ給付スルノ義務ナケレハ民法第五百八十八條ニ依リ其手形上ノ義務ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約スルヲ得ス

○當事者相互間ニ於テ既ニ金錢其他ノ代替物ノ給付ヲ目的トスル債務カ存在スル場合ニ當事者カ之ヲ消費貸借ノ債務ニ變更スルハ毫モ妨ナク既存ノ債務カ消費貸借ニ基クト其他ノ原因ニ基クトハ之ヲ問フヲ要セ

○他ノ原因ニ基キ給付スヘキ金錢ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スニ依リ消費貸借カ成立シタル場合ニ於テ之ヲ證スル爲メ作成セラレタル私署證書又ハ公正證書ニ用キタル貸渡及ヒ受取ノ文字ヲ以テ直ニ現實金錢ヲ授受シタルノ意義ニ於テ用キタルモノト解スルハ實驗法則ニ反スルモノトス

○既存ノ債務カ制限外ノ利息ヲ包含スルモ之ニ基キテ成立シタル準消費貸借ハ全部無効ナルニ非スシテ元金及ヒ制限迄ニ引直シタル範圍ノ利

四二	五九
四三	一〇三
四四	一一
四五	九三

二九	八
三〇	一九
三一	五二七
三二	一〇六
三三	一四六
三四	一六六
三五	三六

○山林ノ買主カ代金殘額支拂ノ債務ヲ變シテ賣主ヲ債權者トスル消費貸借ト爲シタル以上ハ民法第五百八十八條ノ規定ニ依リ其殘代金支拂ノ債務ヲ完済シ新ニ該金圓ヲ借受ケタルコトト爲ルヲ以テ相手方カ山林ノ引渡ヲ爲ス迄ハ代金支拂ヲ拒ムコトヲ得ル抗辯權ヲ失フモノトス

○當事者間ニ於テ將來金錢其他ノ物ヲ給付スル債務ヲ生シタル場合ニ之ヲ以テ準消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ契約スルハ固ヨリ其自由ニシテ其後該債務ヲ生シタルトキハ何等特別ノ手續ヲ爲スコトナク準消費貸借契約ハ當然其效力ヲ發生スルモノトス

○準消費貸借ノ場合ニハ常ニ必ス舊債務ヲ消滅セシメ新債務ヲ發生セシムルモノト謂フヲ得ス或ハ債務ノ同一ハ之ヲ維持シ唯其内容ノミヲ變更スルニ止マルコトアリテ其孰レナリヤハ當事者ノ意思如何ニ繫ルモノトス

『第五百八十九條』

○消費貸借契約カ消費貸借豫約ノ一部履行ニ因リ成立シ同契約ノ期限ヲ以テ其期限ト爲ス場合ニ於テハ消費貸借豫約ニシテ解除セラレ全ク無効ニ屬スルトキハ別段ナル理由ノ存セサル限り之ニ基キ成立シタル消費貸借契約ノ期限モ亦當然無効ニ歸スルモノトス

○金錢ノ消費貸借ノ豫約ニ基キ豫約者ニ對シ相手方ノ有スル債權ハ金錢ノ支拂ニ因リ消費貸借ヲ成立セシムルコトヲ目的トスル債權ニシテ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ニ非ス從テ豫約者ノ相手方ニ對シテ有スル金錢給付ノ反對債權ヲ以テ之ト相殺ヲ爲スコトヲ得ス

(同主旨)

消費貸借豫約ノ場合ニ於ケル豫約者ノ債務ハ消費貸借ヲ成立セシムヘキ債務ナルヲ以テ相手方カ豫約者ニ對シ有スル請求權ノ實質ハ金錢其他ノ代替物支拂ノ債權ニハ非スシテ消費貸借ヲ成立セシムルノ債權ナリトス從テ相手方ハ豫約者ニ對シ自己ノ負擔スル金錢其他ノ代替物給付ノ債務ト相殺スルヲ得ス

(第五百八十九條)

三	七三
五	一〇四
七	三〇〇
七	一〇〇
七	五三

(第五百九十一條)

『第五百九十一條』

○消費貸借ノ當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ貸主ハ如何ナル方法ニ依ルモ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲シ得ルモノトス從テ督促手續ニ依リ其催告ヲ爲スモ違法ニ非ス

○民法第五百九十一條第一項ニ於テ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタルハ借主ヲシテ返還ノ準備ヲ爲サシムル爲メ之ニ相當ノ期間ヲ許與スルノ旨趣ナリトス

○消費貸借ノ當事者カ不確定ナル事實ノ發生ヲ豫期シ之ニ辨濟義務ノ履

三	一九二
四	六三
五	二五八
二	四五八
三	六七二

行ヲ繋ラシメタル場合ニ於テハ當事者ノ意思ハ其事實ノ發生シタル時若シ該事實ノ發生力不能ト爲リタルトキハ其時ニ於テ辨濟義務ヲ履行スルニ在リト爲スヘキモノトス

(同主旨)

當事者カ消費貸借上ノ債務ノ履行ヲ不確定ナル事實ノ發生ニ繋ラシメタルトキハ其意思ハ該事實ノ發生シタル時又若シ發生力不能ト爲リタルトキハ其時ニ於テ辨濟義務ヲ履行セントスルニ在リト解スヘキモノトス

○民法第五百九十一條ハ消費貸借ニ於ケル借主ノ利益ヲ保護スルカ爲メ借主ニ一ノ抗辯權ヲ付與シタルニ過キスシテ返還請求權ノ行使ニ付キ貸主ノ遵守スヘキ必要條件ヲ規定シタルモノニ非ス

(同主旨)

無期限ノ消費貸借ニ付キ貸主カ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ請求ヲ爲スコトハ返還請求權行使ノ絕對的必要條件ニ非スシテ借主ニ屬スル一ノ抗辯方法タルニ過キス從テ裁判所ハ借主ノ抗辯アリタル場合ニ限り之ヲ審判スルヲ以テ足り職權ヲ以テ此點ノ調査ヲ爲ス責務ナシ

民法第五百九十一條第一項ノ催告ハ返還請求權行使ノ必要條件ニ非ス寧ロ其催告ナキ場合ニ於テ借主ニ抗辯權ヲ發生セシムルニ過キス從テ裁判所ハ貸主ノ返還請求權ノ存否ヲ判斷スルニ當リ借主ニ於テ抗辯ヲ提出セサル以上ハ職權ヲ以テ右催告ノ有無ヲ調査スヘキモノニ非ス

○消費貸借ニ付キ當事者間ニ毎月分割辨濟スヘク一回タリトモ支拂ヲ延滞スルニ於テハ一時ニ未拂債務額全部ヲ辨濟スヘキ特約ノ存スルトキ

ハ債務者カ第一回ノ月賦辨濟金ノ支拂ヲ延滞スルニ於テハ債權者ハ其時ヨリ債務全部ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ヘク時効ハ此時ヨリ債權全部ニ對シ進行ヲ始ムヘキモノトス

第六節 使用貸借

○地上權設定契約ナルト使用貸借契約ナルトヲ問ハス合意上之ヲ新ナル地上權設定契約ニ變更スルコトハ當事者ノ自由ニシテ法律上妨アルモノニ非ス

(第五百九十九條)

『第五百九十九條』

○使用貸借契約ハ借主ノ死亡ニ因リ消滅スルハ格別債務完済ノ資力充實ト云フカ如キ不確定ナル事實ノ到來ニ至ル迄存續スヘキコトヲ約スルヲ妨ケサルモノトス

第七節 貸貸借

○貸貸借ノ目的タル家屋カ徵發令ニ依リ使用ノ爲メ徵發セラレタル場合ニ於テハ賃借人ノ爲メニ貸貸借契約ヲ解除スルノ權利發生スルニ止マリ當然其契約ノ消滅ヲ來スヘキモノニ非ス

○徵發令上ノ賠償金ハ徵發ノ爲メ生スル損害ヲ賠償スル目的ヲ以テ支給セラルルモノナレハ賃借人モ所有者ト同シク徵發ノ爲メニ損害ヲ被ム

民法 債權 契約 使用貸借 貸貸借

六 二〇〇五

四 一九三五

七 三〇〇

二 八七

三 一九一

七 一五七〇

六 二二五

六 四五九

七 二二五

三 一〇

三 一三

リタルトキハ其賠償金ノ分與ヲ受クル權利アルモノトス
○借地權ノ性質ハ民法上ノ用語ヲ了解シテ契約シタルモノト認メラルル
場合ハ格別ナレトモ單ニ借地證ニアル質借ノ文字ノミニ依リテ之ヲ定
ムルヲ得ス

○或土地ノ上ニ地上權存スルトキハ土地所有者ト雖モ之ヲ使用スルコト
ヲ得サルノミナラス他人ヲシテ使用收益セシムルコトヲ得サルモノナ
レハ特殊ノ事由存在セサル以上地上權ノ存スル土地ニ付キ所有者ト他
人トノ間ニ質貸借契約ノ締結ナキモノト認ムルヲ相當トス

○質貸借ノ目的タル土地ノ所有權ヲ質貸人タル所有者ヨリ取得シタル者
ハ當然質貸人ノ地位ニ代ルヲ得スト雖モ質貸人ト土地所得者トノ間ニ
土地所得者ヲ以テ質貸人ノ地位ニ代ラシムヘキ合意アリテ質借人カ其
更替ヲ承認シタルトキハ從來ノ質貸借關係ハ土地所得者ト質借人間ノ
質貸借關係ト爲ルヘキモノトス

(同主旨)

質貸借契約ノ存立セル地所ノ所有權カ他ニ移轉シタル場合ニ於テ當事者ノ合意ニ因リ地所ノ
新所有者カ其借地權ヲ承繼シタルトキハ其結果トシテ之カ債權債務ヲ引受ケ借地權者トノ間
ニ從來ノ法律關係ヲ持續スルコトト爲ルモノニシテ斯ノ如キハ契約自由ノ原則ニ從ヒ法律上
有效ナリトス

三三	一〇	一三
三四	七	三四
六		二五〇
六		二五〇
六		二五〇
四		三六
六		二五五

質貸借ノ目的タル不動産ノ所有者カ其不動産ヲ他人ニ讓渡シタル場合ニ於テ新所有者カ舊所
有者ニ對シテ其權利義務ヲ承繼スヘキコトヲ約シタルトキハ特ニ質借人ノ承諾ヲ經ルコトヲ
要セスシテ質貸借關係ハ新所有者ニ對シテ存續スルモノトス

○甲ノ建設スル家屋ノ落成シタルトキ乙ニ質貸スル契約ヲ締結スヘ
キ旨ノ契約ハ質貸借契約ノ豫約ナルヲ以テ質借人タルヘキ乙ハ其家屋
落成シタルトキ甲ニ對スル質貸借契約完結ノ意思表示ヲ爲シ質貸借契
約ヲ成立セシメ得ヘク該質貸借契約ヲ成立セシムルニ付キ甲ノ意思表
示ヲ必要トセサルモノナレハ甲ニ對シテ斯ル意思表示ヲ求ムル法律上ノ
利益ヲ有セサルモノトス

第一款 總則

【第六百一條】

○質料ヲ得テ漁業權若クハ其共有持分ヲ他人ニ貸付スル契約ニハ民法質
貸借ノ規定ヲ準用スヘキモノトス從テ此契約ニ附スルニ質貸借ノ名稱
ヲ以テスルモ妨ナシ
○質借權ハ借賃ヲ對價トシテ目的物ノ使用收益ヲ供セシムルノ權利ナレ
ハ借賃ハ質借權ノ内容ヲ構成スルモノトス從テ借賃ニ關スル事項ハ民
法第六百五條ニ依リ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スル

四		五八〇
七		三四一
四〇		二九六

ヲ得サルモノトス

○物ノ所有權者ハ自ラ賃借人トシテ其物ヲ目的トスル貸借契約ノ當事者タルヲ得サルモノトス

○賃料ハ貸借成立ノ要素ナレハ當事者カ既定ノ賃料ヲ他ノ物ニ變更スル合意ヲ爲シタル如キ場合ニ於テハ更改ヲ成スヘシト雖モ單ニ賃料ノ増額ヲ爲シタルニ過キサルトキハ債務ノ分量ヲ變シタルニ止マリ新ナル債務關係ヲ發生セシムル意思表示アリト謂フヲ得サレハ更改ニ必要ナル要素ノ變更アルモノニ非ス

○土地ノ貸借契約ニ於テ賃借地所ノ坪數若クハ其所有者ニ關スル錯誤ナリトモ當事者カ之ヲ以テ意思表示ノ内容ト爲シタル以上ハ法律行爲ノ全部カ要素ニ錯誤アル無効ノモノニシテ其必要トスル一部ニ付テハ更ニ貸借契約ヲ締結スヘク之カ爲メ全部ノ無効ヲ來ササルモノト謂フヲ得サルモノトス

○賃借ハ當事者ノ一方カ其目的物ヲ所有スルト否トヲ問ハス相手方ニ對シ其目的物ノ使用及ヒ收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ賃金ヲ支拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生スルモノナレハ賃借人ハ縱令其目的物ヲ所有セサルモ賃借人ニ對シ之カ使用收益ヲ爲サシムル

キ義務ヲ負擔シ賃借人ハ賃借人ニ對シ賃金ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔スルモノトス

(同主旨)

賃借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ物ノ使用收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其賃金ヲ支拂フコトヲ約スルニ因リ成立スルモノニシテ賃借人カ其物ニ對シ所有權又ハ其他ノ權利ヲ有スルト否トハ契約成立ノ要件ニ何等ノ消長ヲ及ボサス

○目的物ヲ所有セサル者カ自己ノ名義ヲ以テ賃借人ト爲ルハ所有者ヨリ授與セラレタル權利又ハ權限ニ基クコトヲ通常トスヘシト雖モ斯ノ如キ權利又ハ權限ノ有無ハ所有者ト賃借人トノ間ノ關係ニ屬シ賃借借ヲ契約シタル者カ其契約ノ當事者タルノ關係ニ影響ヲ及ボスヘキモノニ非ス

(第六百二條)

第六百二條

○民法第六百二條ノ規定ニ違背セル契約ニ依リ抵當地所ヲ賃借スルモ其賃借權ハ無効ニシテ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ス故ニ其抵當權ノ實行トシテ抵當地所ヲ競賣ニ付スルトキハ競落人ハ完全ナル所有權ヲ取得スルモノニシテ賃借人ハ其競落ノ通知ヲ受クルト同時ニ惡意ノ占有者ト爲ルモノトス

七 三九 三 七

九七一 七七三 二六六 九七一

○民法第六百二條ニ定メタル質貸借ノ期間ハ同第三百九十五條ノ場合ニ於テモ亦之ヲ更新スルコトヲ妨ケス

○東京市ニ於テ通俗ニ地所家屋ノ管理人若クハ差配人ト稱スル者ハ地所又ハ家屋ノ質貸借ニ關シ地主又ハ家主ノ代理人トシテ一定ノ權限ヲ有スルモノナリトノ慣例法則ノ徵スヘキナキヲ以テ其代理權ノ有無竝ニ代理權限ノ範圍如何ハ一ニ地主又ハ家主トノ契約ノ旨趣ニ因テ定マルモノトス

第二款 質貸借ノ效力

○無期限ニテ宅地ヲ借受ケタル後租税ノ増額其他正當ノ原因生シタル場合ニ於テ地主ヨリ借地料ノ増加ヲ求メ得ヘキコトハ一般ノ慣例ナリ

○土地ノ質借人カ質貸借契約ノ期限中其土地ニ在ル建家ヲ他人ニ賣却スルモ契約ヲ解除セサル以上ハ質貸借關係ハ當然消滅スヘキモノニ非ス從テ質借人ハ自ラ其土地ヲ使用セサルモ質貸人ニ對シテ借地料支拂ノ義務ヲ負フモノトス

○慣習ニ依リ地代ノ値上ヲ爲スヘキ一定ノ事實發生シタル場合ト雖モ既定ノ地代カ値上ケスヘキ相當額ト相匹敵スルニ於テハ地主ハ其値上ヲ請求スルヲ得サルモノトス

四	三七	三五	四	四〇
		六		九七
九一〇	二九六	六	一四九	

○質借人カ直ニ質貸借ノ解除權ヲ行使シ得ル場合ニ於テ先ツ以テ質貸人ニ對シ質料減額ヲ請求シ同時ニ其請求ノ容レラレサルコトヲ條件トシテ契約解除ノ意思表示ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○船舶ノ質貸借ニ於テ質貸人ニ契約違反ノ廉數多アリテ質借人カ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ質借人ハ民法第五百五十九條第五百七十條第五百六十六條ノ準用上質貸借ノ解除權ヲ有スルモノトス

(參照)

借地料ニ關シ義務者カ遲滞ニ付セラレタルコトナク唯其義務ノ懈怠ノミチ原因トシテ地所明渡ヲ請求スルヲ得ス

質貸人ニ於テ質借人カ質借期限中其場所ニ從前ノ形狀ニ反シタル新工事ヲ施シ以テ質貸人ノ所有權ヲ害シタリトシ之カ復舊ヲ求ムル訴訟ニ付テハ當事者一方カ既ニ其新工事ニ干與セザリシコトヲ判示セラレタル上ハ其質借人タルト否ノ事實ハ之ヲ審究スルヲ要セス

(刑)

相當ノ借地料ヲ納メテ官有地ヲ借受ケタルトキハ其地上ニ生立スル樹木ハ反對ノ事實ナキ以上ハ借地者ノ所有ト認ムヘキモノナリ

當事者カ無期限ノ質貸借契約ヲ爲スニ當リ反對ノ意思ヲ表示セサルトキハ明示ノ約束ノ外一般ノ慣例ニ依ルヘントノコトヲ默示ニ約束シタルモノト看做ス

宅地ノ無期限質貸借契約ヲ締結シタル後租税ノ負擔比隣借地料ノ増加等ノ事由發生シタル場合ニ於テ其借地料ノ増加ヲ求メ得ルコトハ一般ノ慣習法ナリ

三	三	三〇	二六	二七	六	六
五	五	二	一			
八三	八三	九	五二	一五九	八六九	八六九

〔第六百五條〕

○質貸借ハ債權債務ノ關係ニシテ民法第六百五條及ヒ第三百九十五條ノ規定ニ該當スル場合ノ外其效力ハ當事者間ニノミ生シ第三者ニ及ハサルヲ原則トス〔同一判例二二六年七一九頁〕

○質借權ハ借賃ヲ對價トシテ目的物ノ使用收益ヲ供セシムルノ權利ナレハ借賃ハ質借權ノ内容ヲ構成スルモノトス從テ借賃ニ關スル事項ハ民法第六百五條ニ依リ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルヲ得サルモノトス

○民法第六百五條ハ不動産ノ質借權ハ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ否認スルニ付キ正當ノ利益ヲ有スル第三者ニ對抗スルコトヲ得サル法意ニ出テタルモノニシテ其第三者ノ物權者タルト將タ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有スル一般ノ債權者タルトヲ問ハサルモノトス

(參照) 地所ノ質貸借契約ハ法律上物權タル性質ヲ有セスト雖モ一種ノ權利トシテ地所ノ所有主ニ追隨スルハ我邦古來ノ慣習ナリ

〔第六百六條〕

○質貸人カ修繕義務ヲ履行セサル爲メ目的物カ使用收益ニ適スル狀態ヲ

回復セサル間ハ質貸借ノ期間中ト雖モ質借人ハ賃料支拂ノ義務ヲ負ハサルモノトス

○魚類ヲ飼養捕獲スル爲メ池沼ノ質貸借ヲ爲シタル場合ニ於テ賃貸人カ其池沼ノ一部ヲ掘下クル契約上ノ義務及ヒ民法第六百六條ノ修繕義務ヲ履行セサルトキハ質借人ハ其損害賠償又ハ賃料減額ヲ受クヘキ限度ニ於テ賃料ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ルモ全部ノ支拂ヲ拒ムノ權利ナキモノトス

〔第六百九條〕

〔第六百九條〕

○賃借人カ民法第六百九條ノ借賃ノ減額ヲ得ルニハ特ニ其意思表示ヲ爲スコトヲ要シ何等ノ行爲ナクシテ當然借賃ヲ免除セラルルモノニ非ス

○民法第六百九條ニ所謂借賃減額ノ請求ハ縱令賃料債權ノ讓渡セラレタル場合ト雖モ賃借人ヨリ賃貸人ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス

○借賃減額ノ請求ハ權利者タル賃借人ノ一方の意思表示ニ依リテ之ヲ爲スヘク相手方タル賃貸人ノ承諾ヲ要求スヘキモノニ非ス

〔第六百十條〕

○賃借人カ賃貸人ノ承諾ナクシテ賃借物ヲ更ニ第三者ニ質貸シタルトキハ其法律行爲ハ轉貸借トシテハ成立セサルモ賃借人ト第三者トノ間ニ

四 二〇八
五 一〇二
四 二六九
五 一六九
五 一六九

三〇 五
三六 三
三三 三
六 二
三 二
二九七

ハ貸借トシテ成立シ當然無効ナルモノニ非スシテ唯貸借人ヨリ貸借人ニ對スル契約解除ノ原因タルニ止マルモノトス

(同主旨)

貸借人カ擅ニ賃借物ヲ轉貸スルモ其行爲ハ當然無効ニ非スシテ唯契約解除ノ原因タルニ止マルモノトス

○他人ノ所有物ヲ賃借セル者カ其賃借權ヲ他ニ讓渡ス契約ハ他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲ス場合ト同シク有效ナル行爲ニシテ其讓渡主カ讓渡ニ付キ賃貸主ノ承諾ヲ得タルト否トハ問フ所ニ非ス

○賃借人カ賃貸人ノ承諾ヲ得スシテ其權利ヲ他人ニ讓渡シタル場合ハ縱令當事者間ニ讓渡カ有效ナルモ之ヲ以テ賃貸人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

(同主旨)

賃借人ハ賃貸人ノ承諾ヲ經サレハ其賃借權ヲ第三者ニ讓渡シ又ハ轉貸スルヲ得ス賃借人カ其權利ヲ他人ニ讓渡スニハ特約ヲキ限リ賃貸人ノ承諾ヲ要スルモノトス故ニ其承諾ヲキ賃借權ノ讓渡ハ之ヲ以テ賃貸人ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百十四條

○民法施行前ニ成立シタル賃貸契約ニ於テ辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別段ノ意思表示アラサルトキハ辨濟ハ債務者現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

(第六百十四條)

ヘキモノトス

○賃貸借ノ場合ニ於テ每辨濟期ニ賃料ノ支拂ヲ受クヘキ箇箇ノ權利ハ契約ノ當時直ニ發生スルモノニ非スシテ賃貸借ノ目的タル物ノ使用ニ應シ順次ニ發生スルモノナルモ其基本タル權利ハ契約ト同時ニ發生スルモノナルヲ以テ之ニ依リテ將來發生スヘキ箇箇ノ權利ノ辨濟ノ場所モ定マルモノトス

○賃料ハ法定果實ニシテ之ヲ收取スル權利ノ存續期間日割ヲ以テ之ヲ取得スヘキモノナレハ一箇年ノ期間ヲ定メタル賃貸借ニ在リテモ其目的タル土地カ他人ニ競落許可決定ト爲リ且其引渡アリテ賃貸人カ賃借人ヲシテ使用收益ヲ爲サシムルコトヲ得サルニ至リタルトキハ賃貸人ハ其以後ノ賃料ヲ請求スルコトヲ得サルニ止マリ其以前ノ賃料請求權ヲ喪失セサルモノトス

同一ノ所有者ニ屬スル家屋ト敷地トヲ併セテ賃借スル場合ニ其家屋ノ賃借料ト敷地ノ賃借料トヲ區別スルコトナク右兩者ニ對シ家賃ナル名稱ヲ以テ其支拂ヲ爲スコトハ一般普通ノ事例ニシテ此等ノ事項ニ付テハ裁判所ハ當事者ノ申立ヲ待タス之ヲ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得ルモノトス

四〇	五八
四〇	二四
四三	九八
七	一七六
三三	八二
四四	二七

二	四五
二	四五
六	五五
七	一〇〇

(第六百十六條)

『第六百十六條』

○土地ノ質貸借カ契約ニ定メタル期間ノ滿限ニ因リテ終了シタルトキハ質借人ハ質借地ヲ返還スルノ義務アリ而シテ此義務ハ土地ノ引渡ノ外尙ホ之ニ附屬セシメタル工作物ヲ取拂ヒテ契約當時ノ原狀ニ復スル義務ヲ包含シ其工作物カ法律ノ規定若クハ當事者ノ契約ニ因リ質借人又ハ地主ノ所有ニ歸スル場合ヲ除ク外質借人ニ於テ之カ履行ノ責ニ任セサルヘカラス

四

七九

○質借人カ質借物ヲ改良シタル儘之ヲ質借人ニ返還シタル場合ニ於テハ質借人ハ條理上不當ニ利得シタルモノナルヲ以テ改良ニ因リテ受ケタル利益ノ限度ニ於テ之ヲ質借人ニ返還スルノ義務ヲ有スルモノトス

四五

一

○土地ノ質借人カ其地上ニ建物ヲ建築シタル後第三者ノ爲メ之ニ抵當權ヲ設定セル場合ト雖モ質貸借終了ノ際質借人ハ質借人ニ對シ其建物ヲ收去シテ土地ヲ明渡スヘキ旨ノ請求ヲ爲ス權利ヲ有スルモノトス從テ債務者カ任意ニ明渡ヲ爲ササルトキハ強制執行ノ方法ニ依リ其權利ヲ實行シ得ヘキコト論ヲ竣タス

五

八六一

○如上ノ場合ニ於テ執行機關カ土地ノ質借人ニ對スル債務名義ノミニ基キ強制執行ヲ爲スニ當リ第三者タル抵當權者カ執行ノ方法ニ關ヘル異

三

四

議其他ノ手續ニ依リ異議ヲ主張セスシテ執行完結シタル以上ハ建物收去ノ爲メ不法行爲ニ因リテ其權利ヲ侵害セラレタルモノト云フヲ得ス

五

八六一

○質貸物ノ返還ハ共同質借人全員ニ對スルニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得サルモノニ非スシテ各質借人ハ質借人ニ對シ質貸物全部ヲ返還スルノ義務ヲ負擔スルモノナレハ質借人カ共同質借人ノ一人ノミヲ被告トシテ質貸物ノ返還ヲ訴求シタルハ正當ナリトス

七

四四五

第三款 質貸借ノ終了

○當事者間ニ質貸借ノ目的物タル土地ノ再賣買ノ豫約成立スルモ質貸借ハ當然消滅スルモノニ非スシテ質借人ニ於テ賣買完結ノ意思ヲ表示セサル限り土地ノ所有權ハ質借人ニ存スルモノトス

七

一六七五

(第六百十七條)

『第六百十七條』

○土地ノ明渡ニ一ノ年ノ猶豫期間ヲ要スル民法第六百十七條ノ規定ハ當事者間ニ質貸借關係存在シテ其期間ヲ定メサリシトキ當事者ノ一方ヨリ解約ノ申入ヲ爲シタル場合ニ限り適用スヘキモノトス

四

四九七

○民法第六百十七條ニ依ル解約ノ申入ハ同條所定ノ期間ヲ附シテ爲スコトヲ要スルモノニ非ス

○事者カ其存續期間ヲ定メサリシ總テノ場合ニ適用アルモノニシテ宅地ノ賃貸借ヲ除外シタルモノニ非ス

四

一三〇三

○民法第六百十七條ノ賃貸借終了時期ニ關スル規定ハ專ラ當事者ノ利益保護ノ爲メニ設ケタルモノナレハ之ニ異ナリタル慣行アル場合ニ於テ當事者カ該慣行ニ依ルノ意思ヲ以テ法律行爲ヲ爲シタルトキハ其意思ニ從フヘキモノトス

五

二五

〔第六百十八條〕

○民法第六百十八條ノ規定ハ單純ナル賃貸借ニシテ期間ノ定アルモ當事者ノ一方ニ於テ解約ヲ爲スノ權利ヲ留保シ特ニ其條件ヲ設ケサルカ爲メ殆ト期間ノ定ナキト同一ナル場合ニ適用スヘキモノナリトス

三七

二六四

〔第六百十九條〕

○民法第六百十九條第一項ニ同一ノ條件ヲ以テトアルハ更新セラレタル賃貸借契約カ内容ニ於テ前賃貸借ト同一ナルコトヲ意味スルニ過キスシテ其内容ヲ成ササル保證ヲモ追隨セシムルノ旨趣ニ非ス
○民法第六百十九條ニ所謂賃借人カ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合トハ賃借人カ賃貸借ヲ更新スル意思ヲ以テ引續キ使用又ハ收益ヲ爲ス場合ヲ指稱スルモノナレハ賃貸借ヲ更新スル意思ナク單ニ使用又ハ

五

一五四九

〔第六百二十條〕

○收益ヲ爲スニ過キサルトキハ縱令賃借人カ其使用又ハ收益ニ付キ異議ヲ述ヘサリシトキト雖モ同條ノ適用ナキモノトス

六

一六七四

(同旨)

○賃借ノ當事者カ契約ノ當時ニ於テモ其期間滿了ノ際ニ於テモ契約ヲ更新スル意思ナキトキハ縱令其期間滿了ノ後賃借人カ賃借物ノ使用ヲ繼續シ賃借人カ之ニ異議ヲ述ヘサリシトキ民法第六百十九條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

四一

一〇一一

○如上ノ賣買カ成立シ買主ニ於テ建物ヲ占據使用セル以上ハ特別ノ事由ナキ限リ賃借人ニ於テ地所ヲ使用スル要ナケレハ單ニ建物賣買ノ登記ナキヲ理由トシテ賃貸借期間經過後尙ホ賃借人カ地所ヲ使用スルモノト斷言スヘキモノニ非ス(第七百七十七條六年一六七四頁其二參照)

六

一六七四

○賃貸借ニ期間ノ定アル場合ニ於テ期間滿了シ賃貸借終了スルトキハ同時ニ民法第六百十九條第二項ニ依リ賃借人ノ保證人ト爲リタル者ノ保證債務モ亦當然消滅スルモノナレハ縱令該賃貸借ニ默示ノ更新アリタリトスルモ之カ爲メニ一旦消滅シタル保證債務ヲ復活セシムル效力ナキモノトス

五

一五四九

〔第六百二十條〕

○賃貸借契約解除ノ場合ニ於テ賃借人ヨリ賃借人ニ返還スヘキ敷金ニ對

第六百二十一

第八節 雇傭

シテハ其解除ノ時ヨリ當然利息ヲ附スヘキモノトス

織物業者間ノ規約ニ從ヒ職工ノ名義ヲ職工名簿ヨリ抹消スルニ非サレハ組合ニ屬スル他ノ同業者ニ雇傭セラルルコトヲ得サルモノトシテ名簿ノ抹消ヲ請求スル場合ニ於テ雇主タル同業者ト職工間ノ雇傭關係カ契約ノ解除ニ因リ消滅シタル以上ハ職工ハ自己ノ關與セサル規約ニ拘束セラレ就業ノ自由ヲ妨ケラルヘキモノニ非ス名簿ノ抹消ハ雇傭關係ノ消滅ヲ明白ナラシムル目的ニ出テタルニ外ナラサレハ舊雇主カ職工名簿ヨリ名義除去ノ手續ヲ執ラサリシトテ職工ノ權利ヲ侵害シタルモノニ非サルモノトス

第六百二十三條

雇傭契約ニ於ケル報酬ノ種類如何ハ契約ノ要素ニ非サレハ當事者カ曩ニ報酬トシテ給料ヲ與フルノ約ナルヲ改メテ商品ノ販賣代金ノ歩合ヲ與フルコトノ合意ヲ爲スモ之ヲ以テ契約カ更改セラレタルモノト謂フヲ得ス

第六百二十四條

使用者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ勞務者カ勞務ニ服スルコト能ハサ

三五 四 六三

五 一九三

五 三九

第六百二十七條

ルニ至リタルトキハ民法第五百三十六條第二項ノ適用ニ依リ勞務者ハ其勞務ヲ終ラサルトキト雖モ報酬ヲ受クル權利ヲ有スルモノトス

○民法第六百二十四條第二項ノ規定ハ勞務者カ約旨ニ基キ勞務ニ服シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ其債務ヲ履行セサルニ拘ハラス期間中ノ報酬ノ請求權ヲ有ストノ法意ニ非ス

第九節 請負

○民法第六百二十七條ハ雇傭契約ノ當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ニ於テ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得ルト同時ニ契約終了ノ時期ヲ規定シタルモノナレハ當事者ノ一方カ解約權ヲ留保シタル場合ニハ其適用ナキモノトス

○請負人ニ對シテ工事全部ノ下請負ヲ爲シ内金ヲ受取リタル者カ不當ニ其工事ヲ完成セサル爲メ更ニ他人ヲシテ殘工事ヲ爲サシメタル場合ニハ其完成ニ必要ナル費用ニシテ請負人ノ損害ニ歸シタル金額ハ下請負人ニ於テ之ヲ補償スヘキ責務ヲ負フモノトス從テ請負人ハ過渡金ノ取戻ヲ請求スルノ外損害要償ノ權利ナシト斷定シタル判決ハ不法ナリ

○政府ノ工事ヲ請負フ者ニ特別ノ資格ヲ要スルコトハ諸法令ノ定ムル所

四 一三五六

三六 六九三

七 二二三

三九 三九七

○ナレトモ其請負人ヨリ更ニ下請負ヲ爲ス者ノ資格ヲ定メタル法令ナケレハ下請負人ニ於テ契約ノ當時政府ニ對シ直接ニ工事ノ請負ヲ爲ス資格ヲ有セサルモ之カ爲メニ其下請負ニ關スル契約ヲ自シテ當然無効ナリト謂フヲ得ス

○請負人ト注文者トノ間ニ下請負禁止ノ契約アルモ請負人ト第三者間ニ於ケル下請負契約ノ效力ニ何等ノ影響アルモノニ非ス
○下請負人カ自ラ材料ヲ供給シテ建物ヲ建築シタルトキハ其建物ハ之ヲ請負人ニ引渡ササル限リ下請負人ノ所有ニ屬シ其占有ニ在ルモノト推定スヘキモノトス

○船舶建造ノ請負契約ニ於テ縱令請負人ヨリ材料ヲ供給スル場合ト雖モ契約當事者カ其建造ノ進捗セル程度ニ應シテ所有權ノ當然注文者ニ歸屬スヘキ特約ヲ爲スハ公序良俗ニ反スルモノニ非サレハ其有效ナルコト論ヲ竣タス

○請負契約當事者ノ一方カ請負工事ノ完成ヲ遅延スルトキハ一定ノ違約金ヲ相手方ニ支拂フヘキコトヲ約シタル場合ニ於ケル違約金支拂ノ債務ハ工事完成ノ遅延ニ因リ發生セルモノニシテ請負契約ニ因リ發生セルモノニ非サルハ勿論其債務ノ變形若クハ延長ニ過キササルモノト謂フ

ヲ得ス從テ相手方ノ請負契約ニ因リ發生セル報酬金債務トハ其發生原因ヲ異ニスルモノナレハ民法第五百三十三條ノ適用ナキモノトス

○請負契約ニ於テ請負人カ材料ノ全部ヲ供シテ建物ヲ築造シタル場合ニハ其建物ノ所有權ハ引渡ニ依リテ注文者ニ歸スルヲ通則トスルモ當事者ハ請負代金ノ支拂ニ充ツル金融ヲ計ルカ爲メ建物ノ完成前之ヲ注文者ニ歸セシムル特約ヲ爲スコトヲ得ヘク斯ル場合ニ於テハ建物ノ所有權ハ其引渡以前注文者ニ移轉スルモノトス

(同主旨)

請負人ノ材料ヲ以テ注文者ノ地上權チ有スル土地ノ上ニ建物其他工作物ヲ設クヘキ請負人ニシタル場合ニ於テハ仕事ノ結果其材料チ土地ニ附着セシムルヤ否ヤ當然其所有權カ注文者ニ移轉スルモノニ非スシテ請負人ヨリ注文者ニ對シ建物又ハ工作物ヲ引渡スニ因リテ始メテ移轉スルモノトス

請負人カ自己ノ材料ヲ以テ注文者ノ土地ニ建物ヲ築造シタルトキハ當事者間ニ別段ノ意思表示ナキ限リ其建物ノ所有權ハ請負人ヨリ之カ引渡ヲ爲シタル時ニ於テ始メテ注文者ニ移轉スルモノトス
請負人カ自己ノ材料ヲ用非テ注文者ノ爲メニ建物ヲ建築スヘキ請負契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ其建物ノ所有權ハ仕事ノ結果其材料チ土地ニ附着セシメタル時附合ノ原則ニ依リ當然注文者ニ移轉スルニ非スシテ請負人ヨリ注文者ニ對シ建物ヲ引渡スニ依リテ移轉スルモノトス

(第六百三十三條)

第六百三十三條

民法 債權 契約 請負

五

二二〇

五

二四一七

三七

八六一

三

二〇八

四

八〇三

(第六百三十四條)

○請負者カ報酬ヲ受クルノ債權ハ請負契約ノ成立ト同時ニ發生スルモノニシテ唯其行使ノ時期カ仕事ノ完成後ニ在ルノミナレハ仕事ノ完成前ナルノ故ヲ以テ其債權ノ成立不確定ナリト云フヲ得ス

(第六百三十三條)

○仕事ニ瑕疵アリタル場合ニ於テ注文者カ請負人ニ對シ其修補ヲ請求スルトキハ相當ノ期間ヲ與フヘキモノナルモ仕事ノ修補ニ代ヘテ損害賠償ヲ要ムルトキハ相當ノ猶豫ヲ與フルコトナク直ニ之カ請求ヲ爲シ得ルモノトス

○請負契約ニ於ケル瑕疵修補ノ請求權ヲ有スルカ爲メニハ單ニ該契約ノ注文者タル資格アルヲ以テ足り現ニ目的物ノ上ニ所有權又ハ占有權其他ノ權利ヲ有スルコトヲ要セス

○請負人カ既ニ爲シタル工事ニ瑕疵アリタルトキハ注文者ハ其瑕疵ニ付キ損害賠償ヲ請求シ又同時履行ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ルモ其抗辯ニ因ラスシテ漫然報酬ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

(第六百三十七條)

○請負契約ニ於ケル瑕疵修補ノ請求權ハ注文者ニ於テ之ヲ拋棄スルカ又ハ其行使期間ヲ經過スルニ非サレハ消滅セサルモノトス

(第六百三十八條)

『第六百三十八條』

○民法第六百三十八條ニ所謂土地ノ工作物ハ建物ヲモ包含スルヲ以テ建物請負人ノ瑕疵擔保ノ責任期間ハ通常引渡ノ後五年ナリトス

○請負人カ注文者ニ對シ擔保ヲ供シタル場合ニ於テ完全ニ義務ノ履行アリタルトキハ民法第六百三十八條ノ擔保期間内ナルト否トニ論ナク注文者ハ其擔保物ヲ請負人ニ返還セサルヘカラス

(第六百四十一條)

『第六百四十一條』

○民法第六百四十一條ハ請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ請負契約ヲ解除シ得ルモ其解除ヨリ生スル損害ハ之カ賠償ノ責任ニ任スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ注文者カ契約ノ解除ヲ爲スノ條件トシテ先ツ其損害賠償ノ提供ヲ爲ササレハ解除ノ意思ヲ表示シ得サルコトヲ規定シタルモノニ非ス

○注文者カ民法第五百四十一條ニ依リ請負人ノ債務不履行ヲ理由トシテ解除ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テ請負人ニ債務ノ不履行ヲ責ムヘキ事實ナキトキハ請負契約ハ依然トシテ其效ヲ有スルモノトス又其既ニ無効ニ歸シタル解除ノ意思表示ヲ以テ同第六百四十一條ニ依ル解除ノ效ヲ生シタルモノト爲スヲ得ス

四	元	四	四	四
五	元	四	四	四
五	元	四	四	四
五	元	四	四	四
五	元	四	四	四